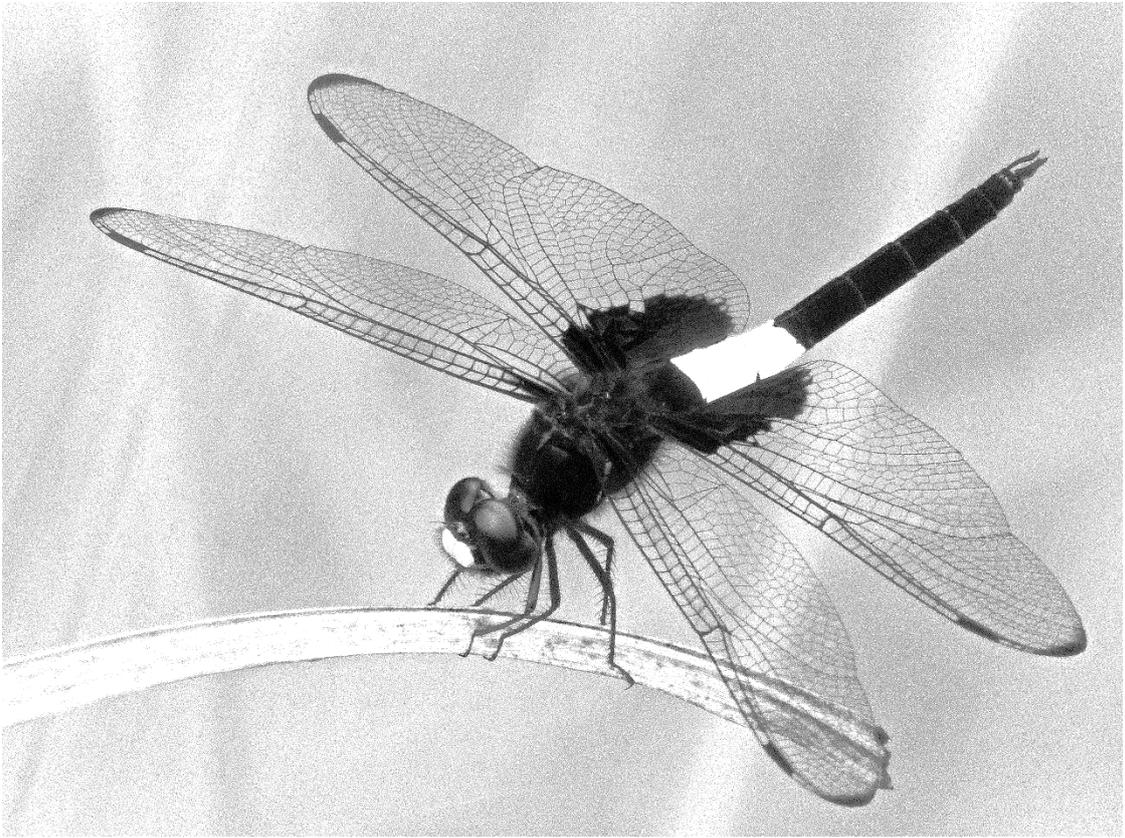


通卷第 26 号

令和四年度  
おもだか



三木自然愛好研究会

## 目 次

自分史に浮かぶカミキリムシの記録	小 倉 滋	1
三木の祭りは雨が降る	米 村 環	8
橋、はし、橋	小 阪 信之	14
我が家のばけもの	小 阪 信之	19
まさか！コロナ後遺症 顛末記	塩 田 尚子	20
「増田ふるさと公園」のザリガニ退治 奮戦記	北 村 健	34
ヌルヌルの多い露天風呂には要注意！	松 本 正孝	39
まさか自分が？	末 瀬 徹	41
細川荘の範囲について	室 谷 敬一	42
三木市内に生育するノキシノブについて	丸 岡 道行	48
わたしのたどった道（4）	永 幡 嘉之	51
「三愛だより」 No. 216～No. 227		60
令和4年度三木自然愛好研究会一年間の活動		109
編集後記		113

# 自分史に浮かぶカミキリムシの記録

小倉 滋

## 1. 落葉の下から歩き出したカミキリムシ

「ツチコブヤハズカミキリ(セダカコブヤハズカミキリ)」

戦後の混乱期を脱し始めた昭和27年、私が高校2年生のときだ。前庭の落葉を集め清掃するのが私の仕事であった。11月下旬だったが、落葉の下から縮んだ足をゆっくり伸ばし、歩き始めた虫がいた。体長は1cmばかりで触角が体長の2倍もある虫だった。当時はクワガタムシやカブトムシ、蝶ぐらいしか興味がなかったので、飛ぶことが出来ず歩くだけの虫が気になり、少しのあいだ落葉と共に小瓶に入れて調べてみることにした。ところが家に昆虫図鑑などもなく、夕食時に兄達に披露し確かめたが誰も知らなかった。

翌日、兄が表紙の半分破れた古い図鑑を持ち帰ってくれた。どうやらその虫はカミキリムシでツチコブヤハズカミキリという虫だとわかった。カミキリムシを採集し調べるようになる10年以上前のことで、後にこの虫はセダカコブヤハズカミキリと名称変更された。

六甲山で記録されたマヤサンコブヤハズカミキリは、肩に2つの瘤状突起があり、セダカコブヤハズカミキリとは相違する。

当時、昆虫は飛ぶもので歩くだけの昆虫は想像できなかった。後にオサムシなどのように歩くもの、またタイコウチやヒメタイコウチのように空を飛んでいたものが水中へ戻ったものなどがあると知ったが、当時は無知だった。

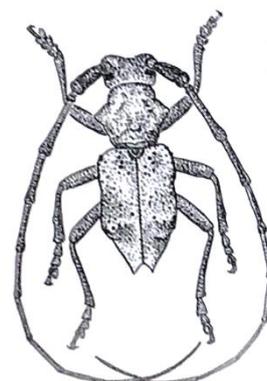
私の生家では、吉田忠左衛門という人が400年程前に心字池という堀と、築山、前庭を造ったと伝えられているが、その前庭には今も当時の木と言われる山桃の木が残っている。私の記憶では、直径80cm程の古木が土塀を押し倒し、長さ6m程の幹部が横倒しのまま放置されて中が空洞になって転がっていた。祖母に聞くと、その木はケヤキで、祖母が嫁入りした時は立木だったが、その後枯れて大風で倒れたと言う。その一部が記念に残っているんや！なるほど、土塀が大きく壊れてその前に横倒しになった幹部は、中が空洞で小さな子供なら通り抜けられそうだった。

後にコブヤハズカミキリの採集に行きその生態を学ぼうと、あのツチコブヤハズカミキリはあのケヤキの古木から累代発生した子孫の一匹だと推察している。

昭和27年以後、何年も屋敷の前庭や周囲をとりまく竹藪の中のムクの木や倒木などを見て廻るが、コブヤハズカミキリムシは見出されていない。

おそらく絶滅したのであろう。大きかったケヤキの倒木も、今は風化して崩れ茶色の土と化した。

令和2年の生家ではベニカミキリ、ゴマフカミキリ、ナガゴマフカミキリ、キクスイカミキリ、キボシカミキリ、ヤハズカミキリ、キッコウモンケシカミキリ、クモガタケシカミキリなどは見られたが、常連だったタテジマカミキリ、キスジトラカミキリ、リンゴカミキリなどのカミキリムシは居なくなった。ツチイロコブヤハズカミキリ(セダカコブヤハズカミキリ)は絶滅し、幻のカミキリムシになった。



セダカコブヤハズカミキリ

## 2. 若葉の舞台で舞う「モンクロベニカミキリ」

昭和26年5月頃、田舎にはまだ電気釜もガス釜も普及せず、ご飯も風呂も薪で炊くので、一年間に使用する薪わりや落葉かきは我が家の大仕事だった。

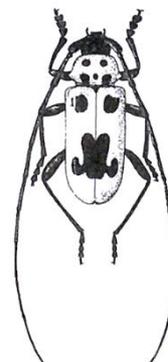
晩秋から薪づくり用の材木を伐り薪にするのだが、伐ったコナラ、アベマキ、クヌギの株からは新しく萌芽した若芽が出る。

この株に芽生えたコナラの2年枝が40cm程伸びて若葉を広げている。その若葉の上に、真っ赤な体に黒い紋様をつけ鮮やかなマントをまとったようなカミキリムシが8匹もいた。

新葉を食べに集まったのだろう。交尾中のものもいた。当時は珍しいものでなかったかも知れないが、自分は初めて見た光景でその美しさに驚き、高校の図書室で調べて名前をモンクロベニカミキリと知った。山の木を伐ることもなくなり、三木市内では50年程見ていない。

10年程前に佐用町で大きなシイタケ園を見つけ、用材伐採地跡を見廻ったとき多くのモンクロベニカミキリを見たが、それ以後あの鮮やかな衣装をまとった虫に出会えていない。

三木市内では絶滅してしまったのか。日当たりがよく見渡しもよい切り株の萌芽葉に集まるこの虫は、赤いマントに黒い紋をつけ、若葉の上が舞台であり出会いの場である。そよ風で踊っているように見えるその姿をもう一度見てみたいものだ。



モンクロベニカミキリ

## 3. 兵庫県で初めて見つけられた「ケブカマルクビカミキリ」

誰もが乾燥地でカミキリムシの生育は困難と思ったが、岡山県の赤土酸性土壌のやせ地から日本初のカミキリムシの一種が発見された。誰もがこんな禿山にと思われる高木もない岩山で、新種ケブカマルクビカミキリが採取されたと聞かされた。その瞬間、三木市の朝日ヶ丘や相野、小野市の青野ヶ原と同じじゃないかと思った。

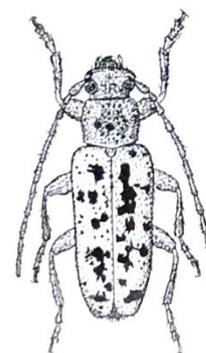
4月1日、探してみようと思い三木進を誘って、候補地として三木市朝日ヶ丘の台地、小野市青野ヶ原の台地を探す計画を立てて叩き網を準備した。

伝聞のみでよく虫の姿がわからなかったので、岡山の虫報を見て体長6~8mmぐらい、ずん胴型、黄褐色の微毛、体に微毛のない円紋を10個程付けた目立たないカミキリムシの姿を確認した。

生息地は小さな女笹、ノイバラ、シシヤンポ、ネズミサシなどが生育するような、とうてい木の幹に寄食する甲虫がいる環境ではない気がする場所だった。誰もが採集に目を向けなかった理由がわかった気がした。カミキリムシの生育に厳しい乾燥地、食性の樹木はやせ地で生育が悪い。ホストのネズミサシの固い枯枝が生育場であるとは、とうてい想像出来なかった。

虫屋の三木進と2時間ほど叩き回ったが収穫はなく、弁当を食べ再挑戦した。次は考えを変えて、団地に地続きの日当たりの良い1.5m程の木が混ざるネズミサシを叩くと、網に2匹が転げ落ちた。1979年(S. 54)兵庫県での初記録だ。以後3匹を追加した。1984年(S. 59)には、松本正孝、小河善則等中学生グループも記録した。

その後、西脇市、神戸市、赤穂市の虫屋たちの採取が報告されている。



ケブカマルクビカミキリ

#### 4. 蜂と見違えた「スネケブカヒロコバナカミキリ」

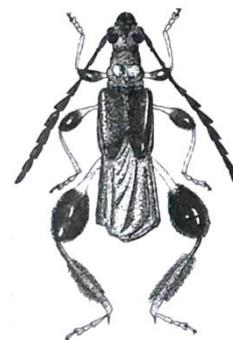
昭和23~26年頃加古川はよく氾濫し、大水で上流の大住橋も、私の住む万才橋も流され、渡し船で渡河し通学した。当時の加古川西岸川沿いは柳、ネムノキ、サイカチなどの木が繁っていて、昭和30年代半ばに治水のため直径20~30cmもの木が皆伐された。今の川岸は竹藪や小さな柳の見られる淋しい岸辺になっていて、甲虫などは昔のように住めない。

昭和27年7月、兄たちとデイキャンプで飯盒炊飯のため薪として枯枝を採取し、鉋で割ったとき見つかった変な虫。捕まえるとチクッと刺されて手に痛みを覚えた。手を広げ見ると蜂ではない。私の捕まえたこの虫は、背が平らで広く脚が瘤状で、すねに黄色の長い毛が生えた奇妙な虫だった。自分は名前を知らなかったが、兄がスネケブカヒロコバナカミキリだと教えてくれた。兄は飯盒の蓋で木から割り出した黄色っぽい幼虫を煎って食べていた。私も食べてみると、それは香ばしくて美味かった。ノグルミにいるタカサゴシロカミキリという虫らしかった。

スネケブカヒロコバナカミキリは、当時の小野や三木の加古川西岸に普通に見られた虫だと、昆虫研究家の山本広一先生に教えられた。

この虫を見たのは70年も前のことで、その後三木市でも小野市でも姿を見ることはなかった。昨年、偶然にも社の森でリョウブの花から1頭を得た。また、氷ノ山近くの山では20頭以上を採集したが、その差にスネケブカヒロコバナカミキリが絶滅危惧種に指定されているのがわかる気がした。

この虫が花に向かって飛んでいる姿はオレンジ色のハエが飛んでいるように見え、リョウブやカラスザンショウの花上を飛んでいる数は結構多いので、これが絶滅危惧種なのかと思う。一方三木市や小野市では全く姿を見ないから、やっぱり絶滅が心配されるカミキリムシなのだ。



スネケブカヒロコバナカミキリ

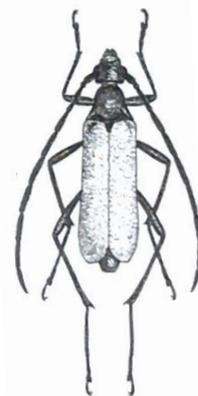
## 5. 古木の空洞で育つ「ベニバハナカミキリ」

赤西溪谷で、ゴトウヅルの花でこのカミキリムシをはじめて手にした時、竹藪に多いベニカミキリかとはがっかりしたが、手に取ってよく見ると赤黒く触角が短い。図鑑でよく調べてみるとベニバハナカミキリというカミキリムシで、私には初記録のカミキリムシだった。

その後3年程見ることもなく過ごしたが、昭和47年に志染中学校の裏庭での作業中、飛んでいる虫を素手で捕まえたが、これがベニバハナカミキリで、三木市の初記録だった。後に種々の情報により、各種の広葉樹にある空洞内でひっそりと過ごすことから、人目に付きにくいため知られていなかったとわかった。その後、当会員の永幡嘉之君が、大谷の伽耶院のケヤキで多く採集したと聞いた。

その後、当ケヤキの大古木が生き続けられるようにと、寺の岡本住職が募金を集め、樹木医等の手で修復保護されたと聞く。空洞内の虫たちがどうなったかわからないが、このカミキリムシは各種の広葉樹の空洞内で育つようだから他でも見つかるかもしれないので探してみようと思う。体長8~14mmで体は黒色、前胸、背も黒い。上翅は暗赤色のカミキリムシである。見つけたら連絡をください。

令和2年7月、生野のある神社の森で網を持った青年が木の前に座っている姿を見て確かめた。彼の前の木はケヤキで、大きく口をあけた空洞が見えた。彼に聞くまでもなく、ベニバハナカミキリを待っているんだと思った。



ベニバハナカミキリ

## 6. 夜の活動家「アカアシオオオカミキリ」

三木でこの虫に出会ったのは、昭和38年8月の夜、大宮神社南面のアキニレが生えたブッシュだった。アキニレはクワガタムシやカブトムシが集まる蜜場である。

夜の8時頃近所の男の子と蜜場に行った。子供たちの狙いはカブトムシだが、この日の蜜場にはマイマイカブリやカナブン、ケシキスイなどもいた。そこにやって来たのが、長い触覚を振りながらせわしく歩き廻る虫だ。

背中や上翅は赤緑色、脚や触覚は赤褐色で体長3cm、触覚は5cmを超える大型のカミキリムシだった。捕まえるとキィキィ鳴くような音を出す。体から変な臭いもする。これがアカアシオオオカミキリだった。

この虫の幼虫はクヌギやアベマキなどの生木の芯材部を食べて育つ。直径が30cmもあって、中がシロスジカミキリやミヤマカミキリに内部を食害された木が良いらしい。

太い木がある所で発生すれば数は結構多いようだが、この日はアキニレが細い小さな木だったためか1匹だけだった。能勢の台場クヌギの生育する所の木では10数匹が集まっている所もあった。

大宮神社の南面も開発が進み、今ではアキニレも姿を消した。神社周辺にはまだ太い大きなアベマキやコナラは残っている。この虫が今も大宮神社周辺で見られれば、その自然が今も残されている証だ。



アカアシオオオカミキリ

## 7. 出会いが幸運だった「ヤマトチビコバネカミキリ」

体長3.5~7.5mmの小さなカミキリムシだ。全国的にも発見例は少なく、見つけるのは専門家でも難しいといわれる。

6月梅雨前の蒸し暑い午前10時ごろ、志染町窟屋。笠松峠に向かう途中の道で墓参の男性と顔が合い話しかけられ、素通りも失礼かと車から下りて話した。別れ際に、墓の後方に梅と栗の枝が置かれているのが目に入ったので、男性に了解を得て調べさせてもらうことになった。

栗の剪定枝をそっと持ち上げ、下に叩き網を差入れ叩き網に落ちた虫を調べた。サビカミキリが3匹、ヤハズカミキリが1匹、すぐに虫ビンの中に入れて更に跡をよく見ると、蟻と思える黒い小さな虫が3匹いた。これがヤマトチビコバネカミキリだった。

同行の三木進君に連絡し、夢中で採集した。このカミキリムシは三木で初記録だし、他地域でも見ていない。15♂と6♀を得た。

後に、甲虫に詳しい高橋寿郎氏に尋ねたが、兵庫県には知見記録がないと言われた。小さな昆虫だから発見も少ないのか、長野県に数例の記録があるのみで、数少ないカミキリムシのようだ。

現在は兵庫、岡山、和歌山、大阪、奈良、栃木など数件の例がある。



ヤマトチビコバネカミキリ

## 8. 今も健在か「オオシロカミキリ」

白い優美なこのオオシロカミキリに出会ったのは昭和 59 年、もう 40 年も前になる。

三木市内の志染町三津田にある呑吐ダム近くの教育キャンプ場跡地入口付近のケヤキの木だった。いつも盛夏にタマムシの飛来の多い木があって、虫屋の習性だろうか、ここを通るときは車を下りて木の周辺を見る。この日は南の日射を受けて、白い羽と長い触角を持った虫がケヤキの下枝に飛来した。慎重に網で抄うと、白い体と黄褐色の触角を持ったオオシロカミキリだった。三木市内では初記録だ。体長は 20 mm 程で触角が体長の 2~2.5 倍もある。

私がこの虫を初めて手にしたのは香住町の柴山港近くの林地での記録で、兵庫昆虫同好会誌に記載したものが初記録だった。

20 年程前に対馬の夜間採集で見た景観とは異なり、三木周辺では少ないカミキリムシのようだ。

食樹はヤブツバキ帯に生育するケヤキ、ムク、ヤマグワなどの広葉樹で、三木地方では普通に見られる木であるが、対馬などと違って孤立木が多く発生し、木も限られるようだ。

ともあれ、40 年近く見ていないオオシロカミキリが三木市内で生き続けていることを願っている。



オオシロカミキリ

## 9. 最後に

長い間、カミキリムシという昆虫との出会いを楽しませてもらった。虫友と競ったり語り合ったり、楽しみつつ学んだ。

多くの人が、カミキリムシは木を枯らし、人々に害を与える害虫だと思っている。

しかしよく調べてみると、ほとんどが枯木や枯枝を食べ、食べることで木を分解し、土にかえす分解者であり、また生物上位者の食を支える地域環境には無くてはならない生物であることがわかる。一部の生木や草本を食害すると言

われる日本在来のカミキリムシは、食害で全滅させるような種はなく、共存して生きるものが多い。

ゴマダラカミキリ、キボシカミキリのような外来種が食害で問題を引き起こしている。松枯れの原因とされるマツノマダラカミキリも江戸、明治期はほとんど問題もない生存者だったが、戦後松材の輸入で入ってきたマツノザイセンチュウと結びついて問題を引き起こした。今、クビアカツヤカミキリなども環境破壊を引き起こす種と言われている。在来種と外来種は、環境に与える影響という点で別に考えねばならない。



## 三木の祭りは雨が降る

米村 環

「三木の祭り」とは旧三木町の岩壺神社と大宮八幡宮で行われる秋季例大祭（で行われる布団屋根屋台の運行）をいう。播州三大祭りのひとつともいわれ、10月に入ると夜毎に聞こえてくる太鼓の練習の音とともにキンモクセイが香り始めると、落ち着きがなくなる人も多い。

さて、令和4(2022)年の「三木の祭り」は屋台運行の工夫など新型コロナウイルス感染予防対策のもと3年ぶりに、大宮八幡宮は10月8日(土曜)9日(日曜)に、岩壺神社は15日(土曜)16日(日曜)に開催された。両神社とも土曜日に夜宮、日曜日に本宮が行われた。以前は10月16日と17日に行われていたが、岩壺神社は、平成2年(1990年)から、大宮八幡宮は平成17年(2005年)から土曜日と日曜日に布団屋根屋台の運行を行っている(※1)。「令和4年の大宮八幡宮の秋祭りは3年ぶり」と言われていることに対して、サンテレビが10月30日に放送した「播州三木の秋祭り-大宮八幡宮-」で畑中伸介宮司は「3年ぶり、しかも3年前のお祭りも台風で一日しかできなかった。完全な祭りと言うと4年ぶり」と言われている。令和4年の本宮も屋台宮入の頃にはしっかりと雨が降った。やはり三木の祭りは雨が降るのか。

### ※1 秋祭りの日程について

- (1) 大宮八幡宮の秋季例大祭は天正11年9月13日(旧暦)に中川秀政が三木合戦で焼失した社殿を再建造営した時を起源とされる(大宮八幡宮伝承)。また、屋台奉納は江戸時代から行われていたと古文書などから推察されている。
- (2) 岩壺神社は1989年までは10月16日と17日、1990年から2007年までは第2土曜日と日曜日(ただし、2006年はのじぎく兵庫国体のため10月21日と22日に行われた)、2008年以降は大宮八幡宮の秋祭りの翌週の土曜日と日曜日に行われている。
- (3) 大宮八幡宮は2004年までは10月16日と17日、2005年以降はスポーツの日の前々日の土曜日と前日の日曜日に行われている。

### 1 「三木の祭りは雨が降る」を検証

以前から耳にする「三木の祭りは雨が降る」は単なる偶然なのか、それともその日は雨が降る特異な日なのかを気象庁のホームページで三木の気象データとして掲載されている1978年から2022年まで44年間のデータを調べた。

調査にあたっては、まず実際に秋祭りが行われた日の降水について調べた。

なお、1989年は昭和天皇の病状が重篤な状況であったため、屋台運行は行われていないが調査対象には含めている。

(1) 岩壺神社について

ア 秋祭りの日に 0.1 mm以上の降水を観測した年の数から雨天率を求めた。

・夜宮、本宮のいずれかが雨 18/44 年=41%

・夜宮、本宮の両日とも雨 10/44 年=23%

イ 秋祭りの日の屋台運行時間の午前 8 時から午後 8 時に 0.1 mm以上の降水を観測した年の数から雨天率を求めた。

・夜宮、本宮のいずれかが雨 13/44 年=30%

・夜宮、本宮の両日とも雨 3/44 年=7%

(2) 大宮八幡宮について

ア 秋祭りの日に 0.1 mm以上の降水を観測した年の数から雨天率を求めた。

・夜宮、本宮のいずれかが雨 22/44 年=50%

・夜宮、本宮の両日とも雨 6/44 年=14%

イ 秋祭りの日の屋台運行の午前 8 時から午後 8 時に 0.1 mm以上の降水を観測した年の数から雨天率を求めた。

・夜宮、本宮のいずれかが雨 13/44 年=30%

・夜宮、本宮の両日とも雨 4/44 年=9%

次に、旧来行われていた 10 月 16 日と 17 日について調べた。

(1) 16 日、17 日に 0.1 mm以上の降水を観測した年の数から雨天率を求めた。

・16 日、17 日のいずれかが雨 20/44 年=45%

・16 日、17 日の両日とも雨 10/44 年=23%

(2) 16 日、17 日に屋台運行の午前 8 時から午後 8 時に 0.1 mm以上の降水を観測した年の数から雨天率を求めた。

・16 日、17 日のいずれかが雨 18/44 年=41%

・16 日、17 日の両日とも雨 5/44 年=11%

## 2 検証結果からの結論

旧来の日程 10 月 16 日 17 日は雨天の確率が高いことから「三木の祭りは雨が降る」が言われたのでないかと思う。近年の日程での屋台運行時間帯で降水が観測されるのは岩壺神社、大宮八幡宮とも夜宮、本宮のいずれかでは 10 年のうち 3 年、夜宮、本宮の両日ともになると 10 年のうち 1 年もない。しかし、楽しみにしていた 1 年に二日だけの秋祭りの日。その日に雨が降るとテンションはあがらず、屋台運行上の注意も増え、心の底から楽しめないことになる。まさに恨みの雨となり、雨の印象が残るのではないかと思う。

## 3 三木市における 10 月の晴れの特異日と雨の特異日について

10 月に晴れが多い日として、かつての体育の日である 10 月 10 日が知られている。東京の過去 30 年間の 10 月 10 日の晴天率は 70%となるそうである。三木

市の場合どうか。晴天率を求める詳細なデータがないが、降水観測が少ないあるいは多い日つまり雨天率の低い日と高い日を44年間の気象データから調べた。

(1) 晴れの特異日について

雨天率の低い日は10月4日と10月18日 8/44年=18%

(2) 雨の特異日について

雨天率の高い日は10月6日 20/44年=45%

なお、44年間の10月の日別降水量から降水量が少ない日と降水量が多い日は、次のとおり。

(1) 降水量が少ない日 10月28日 累計降水量69.5mm/10月累計降水量4805.5mm=1.45%

10月30日 累計降水量66.5mm/10月累計降水量4805.5mm=1.38%

(2) 降水量が多い日 10月8日 累計降水量285.5mm/10月累計降水量4805.5mm=5.9%

10月17日 累計降水量300.5mm/10月累計降水量4805.5mm=6.3%

【記録】雨等の影響により予定どおり屋台の宮入ができなかった年について

(1) 昭和20(1945)年 祭り直前の水害にかかわらず明石町、新町のみ屋台を出す。※2

(2) 昭和45(1972)年 台風の影響で明石町以外の宮入を中止。※3

(3) 平成10(1998)年10月16日大宮八幡宮夜宮 台風10号の影響により宮入は中止。17日本宮は大村が宮入を見合わせた。※4

(4) 令和元(2019)年10月12日大宮八幡宮夜宮 台風19号の影響により発令された暴風警報は解除されず宮入は中止。※5

(5) 令和4(2022)年10月9日大宮八幡宮本宮 午後に30mmを超える降水量により大村が宮入を見合わせ。※6

出典 1 民俗学の射程 2022年11月30日発行 萩原淳平

三木の祭り 2002年4月20日発行 三木市観光協会

2 三木の祭り 2002年4月20日発行 三木市観光協会

3 栄町屋台改修記念誌「雅」平成15年3月発行 栄町公民会

4 神戸新聞平成10年10月17日、10月18日

5 神戸新聞令和元年10月13日

6 神戸新聞令和4年10月10日



台風19号 三木でも影響

# 大宮八幡宮の夜宮中止

## 神鉄は一時運転見合わせ

台風19号が接近した12日、三木市周辺では行事や公共交通に影響が及んだ。播州三大祭りの一つとされる大宮八幡宮（三木市本町2）の秋祭りは夜宮が開催予定だったが、暴風警報の発令を受けて中止になった。

（1面参照）

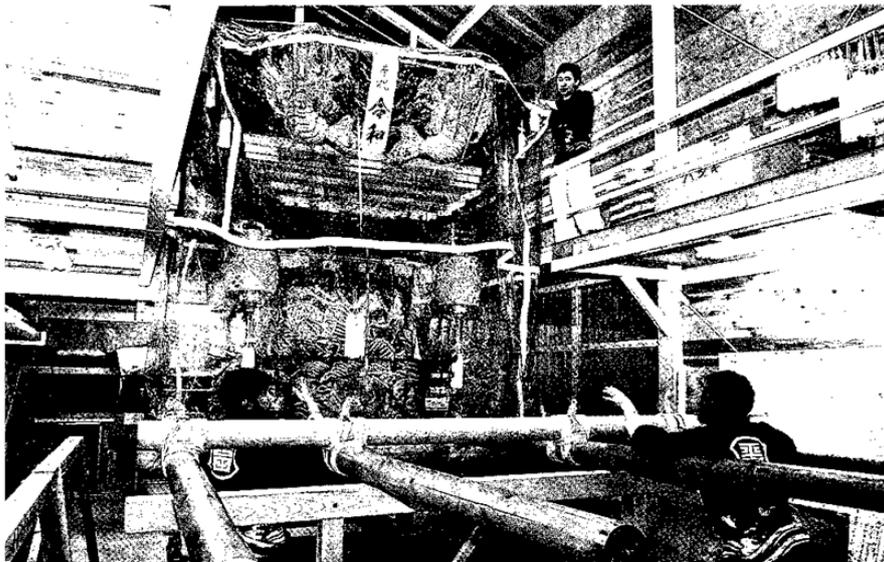
秋祭りについては、11日に各地区の代表者が会議を開いて14日に順延するかどうかを協議し、予定通り12、13日に実施する方針を定めた。ところが12日朝に暴風警報が発令され、午後0時半までに解除されなかった

ため、中止することになった。例年昼宮のみ宮入りしていた平田地区の屋台。今年改元を記念して夜宮も参加することになっていた。午前には屋台蔵を出発して地域を巡行する予定だった

が、屋台蔵に納まったまま中止の一報が届いた。区長の西馬英雄さん(60)は「こればかりは仕方がない。13日は宮入りできるはずなので、2日分燃焼するのみに話していた。」

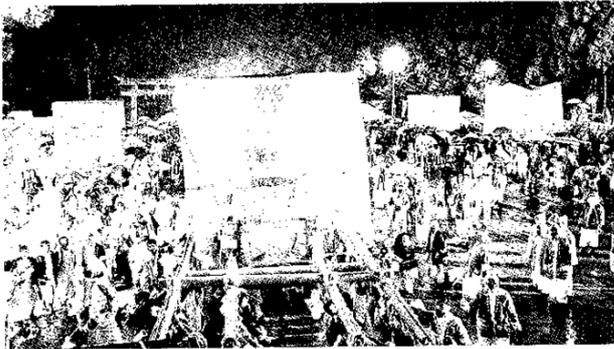
ほかにも、市観光協会は旧玉置家住宅(同市本町2)と旧小河家別邸(同市本町3)を臨時休館とし、イベントも中止に。神戸電鉄は粟生線小野―粟生間の運転を一時見合わせた。

（大橋凜太郎）



改元を記念して夜宮に宮入り予定だった平田地区の屋台。早朝から暴風警報が発令され、屋台蔵で待機した＝三木市平田

# 屋台8台練り豪快



三木・大宮八幡宮

秋空が広がった8日は、屋台8台が同市榎井2の三木鉄道記念公園で練り合わせを披露。力強い太鼓の音に、この日を待ちわびた住民も一気に活気づいた。同日午後5時ごろ、全明石町を先頭に、新町、全末広、下町、栄町、高木、平

播州三大祭りの一つとして知られる大宮八幡宮(三木市本町2)の秋祭りが8、9日、新型コロナウイルスの影響で3年ぶりに開かれた。地域を巡行した屋台が85段の石段を上る宮入りでは、気迫に満ちた氏子らが雨にも負けず一段一段を踏みしめた。威勢の良いかけ声や祭りばやしが響く中、屋台が高々と担ぎ上げられると、境内が熱気に包まれた。



## 85段上る気迫の宮入り

田の順に宮入りを開始。「ゆつくりゆつくりやー」など、田の順に宮入りを開始。「ゆつくりゆつくりやー」など、田の順に宮入りを開始。「ゆつくりゆつくりやー」など、田の順に宮入りを開始。

(小野明海)

と声が飛び交い、屋台が激しく左右に揺れた。命綱を持つ子どもたちも階段の上から力いっぱい引いた。最後の一段を上り終えると「ヨイヤサー」と声を張り上げながら境内を進み、屋台を高々と差し上げた。



た。

平田の屋台に参加した平田小3年の尾崎晴翔君(9)は「担ぎ上げる大人たちや屋台のエジが光ってカッコいい」と笑顔を見せた。

9日は、前日までの7屋台に加え、大村の屋台も階段下まで威勢良く巡行。透明の雨よけがかぶせられた屋台はちようちんの明かりで輝き、治道や境内を彩った。

大当番を務める平田の黒石善博区長(63)は「想像以上にどの町も楽しそうだった。2年のブランクや雨が心配だったが、けがなく無事に終わりほっとしている」と話していた。

- ①雨空の下できらびやかな屋台がひしめく境内
- ②屋台を担ぎ石段を踏みしめる氏子たち

## 橋、はし、橋

小阪 信之

全てを飲み込んでしまうのが時であれば、全てを越えてしまうのは橋なのだろうか？

自宅から三木自然愛好研究会のホームグラウンドである増田ふるさと公園まで、いくつの橋を渡るのだろうか。すぐ頭に浮かんだのは久留美大橋、長久橋、豊地の前の豊地橋（この橋は工事の為道が迂回したから印象に残った）。脇川からくる川にかかる細川橋、小川川にかかる増田橋（これらはこの原稿の作成の為に名前を調べた）と、合計5ヶ所の橋を渡っている。

その他に、道路の下には暗渠で水路が通っているが、厳密にいうとこれも橋ではないのか？三木市の市街地を流れている美囊川が支流を集めていく以上、対岸に渡る為どうしても橋を渡らなければ何処にも行けない。橋を渡るのを回避するには、旧の街道か村道を歩いていけば回数を減らせるだろうが、根本的に美囊川が大きな障害となる。与呂木方面に迂回して進んでも、橋を渡る回数を減らすのは大変だ。小野の方面に大きく舵を切って、橋を渡る回数を減らす事は可能だろうか？1回か2回減らせれば万々歳だろう。三木市は山に囲まれ真ん中を川が流れる街なのである。

「橋」 橋ってなに？ インターネットで検索をすると、「梁(きょうりょう)とも。河川、海峡、他の交通路等の上をまたぎ、道路、鉄道等を通すための構造物。使用目的から道路橋、鉄道橋、人道橋、水路橋、ガスパイプ橋等に、また材料により木橋、石橋、コンクリート橋、鋼橋、軽金属橋等に分類。」とある。そうなると湾岸線も立派な橋ではないか。高速道路の高架橋は全て橋ということになる。

人以外を運ぶ古代からあるものでは、ローマの水道橋があるが、水を運ぶために延々と野を越え山を越え、高い所から低い所に流れる水を運んでいる。何階建てと数えれば良いのか、凄い構築物がある。現代の道がその下を通過しているから、まさしく橋なのだが、この場合道が後にできたのではないかと思うが、定義が難しい。

当時のトップが自分の権威の為に作ったのか、それとも生活の為に必要な水の為に作ったのか？

トルコの地下にあるメドゥーサが逆さになった頭だけの像のある貯水場跡を見た感想からは、人間にとって1番大事なものは水であると

いうことだ。

「ポツンと一軒家」の放送でよく聞かれる1番の疑問、質問は、生活用水はどうしているか？飲み水はどうしているか？ということなのだが、湧き水や河川の水である。そう、水が無ければ生きていけないのだ。その使い残した水が川となる。その川を渡るために橋がある。

三木の御坂のサイホン橋は、水を運ぶために橋が作られている。飲み水ではなく、灌漑用水である。高低差を調べる為に線香等の光で調べたと、東播用水の物語で読んだ記憶がある。

障害を乗り越えるのが橋なら、橋梁と呼べる程でなく、石を並べただけの踏み石かと思うような沈下橋がある。志染川の井上の近くに川を渡る沈下橋、サイホン橋の下の沈下橋など三木にも沈下橋があるが、三木自然愛好研究会の思い出深い四国への一泊二日で行った研修旅行先の四万十川でみた沈下橋は凄かった。普通は堤防から堤防に橋が架かるものなのに、道は堤防を越えて川の流れている近くまで続き、川岸ギリギリで架けられた橋梁の上に欄干の無い橋が架かっている。対岸についてからも道は堤防まで続いているのだ。なんでと思ったがその疑問は、同行のおばちゃんが近くにいたおばちゃんに尋ねたのでわかった。

「水が出たときは何処まで水面が上がりましたか？あの電柱ぐらいまで？」

「堤防の上の電柱が隠れるぐらいですよ。」

そこまで水が来るなら、水面からそこまで高い橋梁は作れない。沈下橋が有名になるはずだ。ダムがあるとか、ないとか論争のある四万十川だが、詳しくはインターネットで検索してほしい。しかし、この沈下橋があるということは、治水が難しいということだ。

記憶の中にある橋。もう見る事の出来ない、木造の土で葺かれた橋である。末広橋がコンクリートで新築されてから、その橋の照明灯にヒゲコガネの大群が押し寄せて、鳴き声の騒々しさや道を埋めるほどの多さで道の色が変わった思い出もあるが、橋の真ん中から折れて通行禁止になったのが記憶に残っている橋である。

橋梁が流され路面が持ちこたえられなくて橋の途中から折れた橋。その時は河原までおりて、急ごしらえの橋を渡った。沈下橋のように、堤防を降りて川を渡り又堤防まで上がったものである。国鉄の三木駅に行く道の途中にある橋なので、荷物の搬送に使った橋である。住まいは美嚙川の右岸にあるので、通学には縁のない橋である。

この話を家内としたのだが、家内の話では「欄干の下が開いていて、友だちの妹がそこから落ちたんよ。」「親がデコボコ道の真ん中を通っていて、その子が端を歩いていたので、落ちてしまったの。」と！さもありなん！木の欄干の下側まで木でカバーすることは出来ないから、確かに欄干の下側から川がよく見えるくらい下部が開いてたからね。絵本の挿絵にある牛若丸と弁慶の京の五条の橋は木の橋で床張りやもんね。（義経記五条大橋）

太閤記の日吉丸の橋も板張りだ。（「絵本太閤記」に出てくる矢作橋）浮世絵にでてくるお江戸日本橋も板張りだ。（歌川 広重：東海道五十三次之内 日本橋）

木の橋なので、絵には太鼓橋の様に書いてあるけれど、私が思うに、ストレートの橋ではないかと思う。錦帯橋みたいに作っている橋なんてないよ。非常にお金もかかるし、水平以外どうすれば木で作れるのと思う？木でカーブを作るのは無理じゃないかと思うのだが。

これも橋。

新型コロナウイルスの為にイベントが全て無くなった 2020 年。それから 3 年後の 2023 年 2 月 12 日、意気揚々と伊丹市にある白雪の蔵まつりに参加する為、阪急伊丹線を電車で伊丹に向かった。気がせくので、一番前に陣取ると、どうしても運転手越しに前が見える。あのレール橋は新幹線だ。そういえば、阪神淡路大震災の時、友人の家の近くで新幹線のレール橋が落ちて通行止が延々と続いた事を思い出した。まさしくレールが高架状態になって続いている。時間がもう少し遅く、震災が発生していたら、このレール橋の上は新幹線の車両で満ち溢れて、高速運転ゆえのもの凄い惨事になっていただろうと、思った事まで思い出した。

身近に橋梁が溢れている。そうとしか思えない光景だ。

### 湾岸線って？

海外旅行が好きだ。飛行機に乗ることも、通じないカタコトの英語で見知らぬ街を旅することも、日本では食べる事の出来ない食品を食べる事も大好きだ。関西国際空港に行く為に通過する道は、どのインターチェンジから入っても常に高架の道が続くのだが、これって橋を通過しているのじゃないのか？高架に次ぐ高架で地上なんか通過していないのだが。いや絶対橋だ。そして最後に大きな坂道を上り、関西国際空港へ橋を渡っていく。空港の玄関も橋梁の上にある。これが橋でなければ、何が橋なのか。

## ニュースになった橋

### <クリミヤ大橋>

ウクライナの戦争がなかったら、その爆発がニュースにならないければ、認識度は低かった橋だ。そのニュース解説で、高さの足りない橋で、そもそもその高さが不足しているために、大型船が通過できずに問題を起こしていた橋だとは、誰が認識していただけるか？そして、ヨーロッパで一番長い橋だなんて、知らないことが多すぎる。

### <金門橋>

太平洋ひとりぼっちの堀江謙一氏が太平洋単独横断のゴールでくぐった橋。新聞に一面を飾った橋、これはとても高い橋と感じた橋でした。遠い記憶の底にある橋だ。残念ながらこの目で見ていない。

### <瀬戸大橋>

我が子達は船でその下を通過して拝みあげた橋であるが、私は飛行機で上から見下ろした橋である。世界的に有名な橋であるが身近すぎる。

### <ガラタ橋>

トルコのイスタンブールにある橋で、トラム（路面電車）が通っていて、ガラタ塔に行く為に通過した橋。ニュースにはならなかったが、ガラタ塔に登るため、トラムの終点まぢかの駅からほど近い橋で、ニュース性は十分あり、その橋の上で欄干越しに魚釣りが出来る橋だ。橋の近くで鯖サンドを食べる事ができるし、近くにはバザールもモスクもある。ガラタ塔から見るイスタンブールの街はとても素敵だった。豪華船を上から眺め、世界一周を夢見たからニュース性のある橋だと思う。

## 身近な橋

私は、出生地、本籍地、現住所、全て同じであるが、表示方法は全て違う。法律の変換により表現が変わったためである。昨年、カシミサンショウウオは1種だったものが9種に細分化された。呼び方は時代により変更されるのである。

でも身近な橋は、記憶のなかにあるので、もう変わる事はない。

小学校は校区の都合上、三樹小学校に通った。（小学校3年生の時に三木小学校が開校した。）その下校時、クラスでどの橋を帰るかに分けられた、城山橋（学校橋）の班、福有橋の班、橋を渡らない班と分類、私は、美濃川右岸に住んでいるので、橋を渡らない班に

属して、わずかの人数で下校するのだが、数分で1人減り2人減りして一人寂しく家に帰ったものである。そして、友達の一言がチクリ「小阪君一人で帰っている。」だから、橋を渡って帰りたいと思った。そして、福有橋を渡る班に加わって、まず福有橋を渡り、下町を通過して末広橋を渡ると言うルートにした。2回橋を渡り時間を費やし、最後に末広橋を渡るときはやっぱり一人寂しく家に帰ったものである。何で橋を通るかどうかで分けられたんだ。橋に関係ない私の様な少数派は、友達のチクリにあって反論しようにも、発言に力がない。橋が私の記憶に暗い影を落としている。「川向う」という言葉も、いい響きを持たない。いつまでも、橋という言葉が辛い思い出を連れてくる。

しかし、今は希望を持ち、橋を渡っていく。三木自然愛好研究会の活動に参加する為、三木市高齢者大学の活動に参加する為、橋を渡らずに三木市で活動をするにはできないからだ。山と川のある町三木市の住民としての活動に必要な手段なのだ。

明日はどの橋を渡っていくのだろう。



## 我が家のばけもの

小阪 信之

我が家には、ばけものがある。静かにしているのではない。常に音を立てている。でも、私の方で気がつかなかった時もあるし、耳に付いて眠れない夜には、チクタクチクタクの音がなんて騒がしいんだと思う時もある。そう、電気時計である。乾電池で動いているから、静かで、常に同じ音を出しているはずだが、気が付く時とそうでない時とずいぶん認識が変わる。

我が家の台所にも、ばけものがある。これは突然、ガサガサ、ガサガサと音をたてる。犯人はそうゴキブリである。しかし、ゴキブリがない冬の時期にも、ガサガサと音をたてる。一瞬ゴキブリかと思ったけれど、この季節にして何だこの音は！どんなばけものがあるのか。人間以外にドッキリさせるばけものはいない。では、誰がいるのか。ここは私一人だけだ。家内がここまで来る事はできないので、いるのはばけものだ。

実は、丸めた紙屑やナイロン袋が徐々に広がって音を出していた。何気なく、捨てたゴミがばけもののように音をだす。そのほかに、置く気がないのにポンと乗せた物がバランスを崩してドタンと音を立てて落ちたりする。ここに誰がいるの？誰もいないのに、ばけものの音が聞こえる。ビックリするね。

ビックリする時は、我が家ではなく家の外に居るときにもある。急に音が聞こえてきた。ホンマに驚くよね。道を歩いている時、チリンチリンと急に自転車のベルの音が聞こえてきた。こんな時ドキッとするよね。ばけものに出会った時みたい。同じく道を歩いている時、いま流行の電動自動車やエンジン音が無くコッソリ近づいてくるプリウス等の車両だ。ビックリするしかない。慌てて車道側にでも行ったら、ばけものに驚かされたという表現では済まされない。交通事故だよね。我が家のばけものは公道上までのし歩いて来ないので、音のない世界は返って静かすぎて、サイレントと言うばけものに危険な目にあわされる。

どっちがいいの？音の満ち溢れている世界（ばけものに驚かされる）それとも、沈黙の音のない世界（ばけものに驚かされない）。ケースバイケースと言えれば良いのだろうが、それで解決できるのか？

驚くことでは驚かなくて、驚かないことに驚かされる。どちらに立っているのか？今こそ、立ち位置を確かめないと！

# まさか！コロナ後遺症 顛末記

塩田 尚子

## 1. はじめに

人生にはまさかの坂が訪れるとはよく言われることだが、「またか！」という思い。前号のおもだかにも書いたように、2年前の1月初めにまさかの告知を受け、2022年時点で治療は続いていた。このタイミングで新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に罹ってしまったことが、まさかなのではない。

発症したのは昨年(2021年)の11月10日で、第7波と第8波のちょうど谷に当たる時期であった。人一倍感染症には気を付けなければならないので、うがい、消毒、マスク、人込みには行かないように気を付けていたつもりである。それなのに感染してしまったことが、まさかなのでもない。オミクロン株は重症化しにくいと言われてはいたが、感染力はこれまでの株の比ではないから、どこで感染したとしてもさほど不思議ではない。

では、何が「まさか」なのか。後遺症がこれほど重症化且長期化してしまったことだ。自分の身に起こってみて初めて、後遺症はデータの取り方によって異なるとはいえ、かなりの率で発症していることが分かった。医療現場は感染初期の患者への対応に追われ、後遺症患者にまで手が回っていない現状の中、マスメディアの報道も限られている。そのせいではないが、今にして思えば私自身の後遺症に対するアンテナが低すぎたことが悔やまれる。

以下、感染に至るまでから2月下旬現在までの様子やその時々を考えたり思ったりしたことを環境要因と合わせて書いていくことにする。読んでいて楽しい内容ではないが、100年に一度と言われるパンデミックを起こした新型コロナウイルスのしつこさの一記録として読んでいただければ幸いである。

## 2. 経緯

### (1) 感染するまで

母は93歳で独居、要介護1である。歩行や飲食、衣服の着脱などは自立しているが、だんだんと身の回りのことに支援がいるようになってきたので、2022年に入ってからは毎日実家に通うようになっていた。5月からは週1回のデイサービスにも行ってくれるようになったが、私の送迎が条件であった。

3年連続の猛暑、この年は6月からすでに気温は30℃を越えていた。母は新しく設置したクーラーのスイッチが入れられず、室内で熱中症になる危険も考えて朝から実家へ出向くようになった。片道25分ではあるが、家に戻るとなると1日に2往復しなければならない。可能な限り実家で過ごせるようにスケジュールを組んでいた。元農家なので休耕田の除草作業や畑仕事、家事、リハビリがてら

に買い物に連れ出したり草引きをしたりし、日中は話相手になりながら編み物をしたりして過ごす日々が続いていた。

そして、8月初旬坐骨神経痛で動けなくなってしまった。トイレにも行けない。何とかかんとか車に乗せて家の近くの整体医院通いが始まった。お盆が近づいていたこともあり、両家の準備がある。多い日には3往復しながら実家に泊まり介護すること10日。盆明けにやっと普通に動けるようになったものの、通院は頻度を落としながら10月下旬まで続いた。

9月6日は、自身の治療日だった。それまで正常値をキープし続けていた白血球値が落ちていたのは気になったが、いつものように薬剤の投与を受ける。特に副反応もなかったが、9月中旬ごろから「何だかだるいなあ。身体の芯に力が入らないなあ。」と気になりながらも、朝起きれば普段通りに動けるし、夏バテかなくらいに考えていた。何よりも、小粒1町3反（他家の耕作を引き受けている）の稲刈りが待ち構えていた。

体重の減少も気になり、10月上旬に最寄りの診療所を受診すると、消化吸収がうまく行っていないのかもしれないと3種類の胃腸薬が処方された。胃腸の不具合はそのままだったが、確かに1日の排便回数は減ったので一安心である。

下旬、2町5反の山田錦の刈取りが始まった。週末ごとの雨で今年もやはり倒れている。コンバインが詰まる、詰まる、詰まる。その度に鎌とペンチで詰まった藁を少しずつ抜いていくのは、夫にとってはイライラする作業だったが、私にとってはやっと休めるというのが本音だった。コンバインが動き続けている限りは後先の仕事があるからだ。稲刈りの後片付けも終わり、秋終いができたのは10月末日だった。

11月1日、次の治療日はやってきた。この日も白血球値は低く、主治医に「相変わらず低いですね。」と言われる。「何ですか?」「治療しているからです。」

「治療が終われば元に戻りますか?」「あなたの場合戻りません。」?そんなことはないだろうと内心想いながら、それ以上の質問は控える。一抹の不安を抱きながら薬剤投与が始まった。容態の変化を診るために看護師さんが頻繁に来られるので、「白血球値が低いのに大丈夫なんですか?」と訊ねると、「IgG抗体がちゃんと働いているので大丈夫ですよ。」との返答だった。IgG抗体って何だ? 本当に通院の度に?マークが飛び交う。調べてみると、この抗体は免疫グロブリンという抗体の一種で、感染症から身体を守る働きがある。そして、ワクチン接種は、この抗体を増やすことによって感染や重症化のリスクを下げるのが目的である。ということは、4回接種の効果があったということだろうか?しかし、獲得免疫にかかわるB細胞の治療を受けている私は、接種しても抗体ができにくいのではなかったか?よく分からない。ともあれ、自然免疫にかかわる好中球や単球もちゃんと働いているようなので一安心した。

と、ここまで夏からの状況を長々と書いてきたのは、気づかないうちに身体が弱っていったということに思い至ったからである。体力が落ちると免疫力も落ちるだろうし、自然治癒力も下がってくる。ましてや、免疫力が下がる治療を続けていたのだから、己が体力を過信してはならないと反省しきりである。

## (2) 母の感染

11月7日は、秋晴れの爽やかな日だった、母をデイサービスに送ってから久しぶりに窓を開け放ち、布団を干したりマットを洗ったり掃除機をかけたりと家事に勤しんでいた。そこへ、1本の電話が入った。センター長からだった。「咳を少しされていますので、念のためにPCR検査を受けていただきます。」まさか！いや、大丈夫だ。人ごみに連れ出した覚えはないし、空咳はよくあることだと自身に言い聞かせる。30分後、電話が入った。この時点で陽性反応が出たことは確実だった。迎えに行ったり、加東保健事務所や三木の自宅療養者支援センターと連絡を取ったり、再度薬を貰いに行ったり自身もPCR検査を受けたりとバタバタの一日だった。

処方された薬は、熱咳症状を緩和する感冒の薬、咳など呼吸器症状を緩和する薬、細菌の増殖を阻害する薬に加え、とんぷくとしての解熱鎮痛剤だった。抗ウイルス薬が入っていなかったことが不思議だったが、よくよく考えれば、塩野義製薬のゾコーバが承認されるまで経口の抗ウイルス薬はなかった。7回分の薬は飲ませ切らなければならないし、容態に応じての看病も必要だ。免疫力が下がっている私のリスクは高い。母がPCR検査を受けた病院でも、三木の自宅療養者支援センターにも加東保健事務所にも何度もこのことは伝えてあった。何とか「宿泊療養施設」へ入れてもらえないものか…結論としては押しが弱かったのか取り合ってはもらえなかった。

パルスオキシメーター（脈拍数と血液中の酸素飽和度を測定する医療器具）が思いの外早く届いたので体調の見極めにはとても役立った。別室待機しながらの看病が始まった。酸素飽和度が93%まで落ちたときには冷や冷やしたが、明るる朝には97%まで上がった。夕方には、熱は37℃台ながら咳も楽そうになり、自力でトイレにも行き食欲も戻ったので、この日は帰宅する。感染リスクは極力下げなければならない。野山で時間をつぶしたりしながらの通い看病4日目の昼には薬も飲ませ切り、母の体調と生活は元に戻った。やれやれ。

デイサービスにも復帰した18日、パルスオキシメーターを返却に行き、しつこく訊ねてみた。「独居の場合宿泊療養施設へ入れたのではないのか？」管轄外だと言う。更に、もらったチラシを見せて「支援内容に書いてありますが…」と粘ると、「加東…たぶん全く見る人がいない場合に限られるのでは？」との返答だった。おそらく厚労省から次々に降りてくる指示は、多くの場合流されるだけで各機関の連携や職員の共通理解に至っていないのではないだろうか。ケースバ

イケースへの対応の難しさを思った。

もう一つ疑問がある。独居の高齢者が感染して看る人がいない場合はどうなるのか？「独居老人認知症コロナ」で検索してみると、そういう想定での決まったマニュアルはないようだ。ニュースなどの特集によると、本来業務ではないケアマネさんが担っていたり自治体の要請で訪問看護師が担っていたりするところもあるようだが、とても行き亙っているとは思えない。普段なら介護ヘルパーが入って身の回りの世話をしている、感染が判明した時点で引き揚げとなり、看護につなぐシステムが弱い。というか介護と看護の両方を担うスタッフが不足しているのだろう。そのような状況の中で、第7波からは高齢者であっても軽症なら入院ができなくなったという。容態が悪化しても自ら救急車を呼ぶこともできない認知症の高齢者はどうなるのか…。何か事が起こったときに制度と制度の狭間でこぼれ落ちてしまうのは、いつも社会的弱者と言われる人たちだ。救済の制度はあるのだろうが、制度そのものを知らない、あるいは知っていても手続きの仕方が分からずこぼれ落ちてしまう。

### (3) 自身の感染

母の感染から3日目の11月10日は要注意だった。7日夜からの強烈な咳で、マスクをしていてもウイルスは飛び散っていたに違いない。おまけに母はマスクを外してしまう。発症するとすれば今日だと思い、体温計とパルスオキシメーターをポケットに入れて所在なくふるさと公園に入った。不安が大きいので歩いていてもいつものように被写体に出会わない。体感的にも熱が上がっていくのが分かる。36℃前半から37.7℃へと上がるのはあつという間だった。咳も出だした。感染は確実なのに、酸素飽和度が99%なのを根拠にまだ自分をごまかしていた。自宅待機などできる状況ではない。最後の薬を母に飲ませて帰宅してからすぐに寝床に転がりこんだ。11日も母の様子を見に行ってから寝ていた。だんだんと悪化してきて、身体中が痛いというかどこが痛いのかもよく分からない。解熱鎮痛剤のバファリンの効き目もなく眠れずに一晩が過ぎた。12日、PCR検査を受けたところ、やはり陽性。

ここでも驚くことがあった。咳もないし、熱もない、酸素飽和度も99%、異常に体が痛というか疼くだけなので、薬は出ないという。とにかくこの痛みを止めて欲しいとの一心で鎮痛剤を所望するが、市販のもので対応して下さいとのこと。しかし、母は感染確認時点で37.5℃、夕方まで起きていたくらいだったのに4種類も処方されている。何故出ないのだ。在庫が乏しいのか？年齢によるものなのか？更に驚いたのは、私は65歳未満なので「届出対象外」だということだった。医療機関や保健所からは厚労省に上げないので、個人で登録して下さいと言われる。これまでの諸々のことあり、このしんどいのに面倒くさい登録をしたところで何かよいことでもあるのか？感染者数が+1になるだけだろうと登録

はしなかった。この制度は全国一斉に9月26日から実施されていたのだが、ここでもアンテナの低い私は知らなかった。

高齢者でも軽症と判断されれば自宅療養となり、65歳未満は「届出対象外」。第7波の波があまりに大きかったために医療現場や保健所の業務を軽減するための措置であったのだろうが、こういう「止める」という措置はすぐに浸透し実施されるとは、当たり前のことながら苦笑いである。因みに9月から11月までの全国の死者数は1万人であった。

12、13、14日は寝たきりだった。症状のトップは倦怠感であるが、ご多分に漏れず何とも言い表しようのないだるさと疼痛で起きられなかった。この間、母のことは夫とご近所の民生委員さんにお世話になり、本当に有難かった。

15日、やっとバファリンから離れ、朝から平服で過ごすことができた。いざ！ふるさと公園へ。5日振りのふるさと公園は様変わりしていた。10日には駐車場溝付近に咲いていたサワシロギクはすっかり綿毛になり、山々は晩秋真ただ中だった。寝ている間に気温は20℃を割るようになり季節は少しずつ冬へと向かっていたのだ。植物のセンサーはどこにあるのだろうと改めて自然の不思議に思いを馳せる。12月の公園だよりのネタを探しながらぶらぶらする。生き返った思いだった。何よりも感染すると重症化すると言われていたのだから、これくらいで済んでよかったと自分の身体に感謝した。また、自室隔離生活のおかげで夫が感染しなかったのはなによりだった。

#### (4) まさか！後遺症か？

回復期に入ったと喜んでいたのもつかの間、19日からだるさが増してきて横になっている時間が日に日に増えていった。それでも朝から比較的体調のよい日よい時間帯もあり、後遺症のだるさは精神的なものもあるとのネット情報に後押しされて、性懲りもなく散策に出ていた。自然の中に身を置き、出会った被写体にカメラを向けている時間は体調の悪さなど吹っ飛んでしまう。

12月2日、その日は突然やってきた。新しい症状だった。右耳上部の片頭痛で目覚めた。いや、首から胸にかけての盗汗が気持ち悪くて目覚めたのだった。寝床に張り付いた背中を重力の法則に反して起こすのに難儀する。今までのだるさとは比較にならない。相変わらず身体のあちらこちらで何かが暴れてはいたが、よほどでなければボディー用冷えピタで凌いでいた。この日は脇腹（正しくは肋骨周辺）の疼きがズキンズキンと脈打つほど激しく、ついにバファリン生活に突入した。

発症から20日以上が経っていた。だんだんと増していく不調に当然不安は募っていたので病院探しはしていた。が、患者がまず躰くのは受診先が分からないということだ。どこの病院の何科に行っているのか分からないのだ。結局「かかりつけ医」ワードが一番多かったし、遠方の病院へ行く気力もなく、近所のかか

りつけ医に飛び込んだ。医師の見立ても後遺症のようだというので「補中益気湯」という身体が弱っている人の体質改善の漢方薬を処方してもらった。「漢方薬？」と一瞬思ったが、新型コロナウイルス感染症は新しい病気であるから特効薬はない。ましてや、後遺症をやである。ほとんどの病院で処方されるのは、漢方薬であり、咳や熱に対しては対処療法となる。寝たり起きたりしながらも、この頃はまだ必要最低限の家事はしていた。

よくなっていく心配が全くないので、似たような症例がないかと検索していると、他の病気が潜んでいる場合もあるとの情報に行きあたる。増々不安になり、7日にまたかかりつけ医を受診し、血液検査を依頼した。誕生日を挟んで9日に結果を訊きに行くと、恐れていた再発の兆候はなく、他の項目も要精密検査の値を示していないということだった。

一安心したのもつかの間、夜から透明の痰が絡んだ咳が出始める。もう次から次へと現れる症状は、体中を移動しながら手を変え品を変え何かが暴れまくっているとしか思えない。では、何が暴れているのか？今のところ定説はないが、感染初期に死滅せずに体内に残ったウイルスやそのかすが身体中で悪さをしているとの説が有力のようだ。ええ？コロナウイルスは通常1週間程度で死滅するのではないのか？調べると、1週間ほどで人に感染させない程度に減るだけで、後遺症患者の中には1年経っても陽性反応が出る人がいるそうだ。そうか、結核菌や帯状疱疹ウイルスだって、身体の中に潜んでいて免疫力が落ちた時に再発するというから、納得である。

では、なぜ自分は初期症状が軽かったのにもかかわらず後遺症の方が重いのかと考えてみた。どうやら薬剤の投与で免疫力が落ちていたところに感染してしまったので、体内に入ったきたウイルスにあまり抵抗できず、症状が軽かったのだろう。大量に残ってしまったウイルスに復活してきた免疫細胞が必死に抵抗しているということだろうか。先にも書いたように私の場合、自然免疫は正常らしいが獲得免疫に問題があるから、働きの異なる免疫細胞どうしの連携がうまくいっていないのだろうか。ともあれ、感染初期にウイルスがうまく排除されず「持続感染」の状態であるらしいと見当がついた。と、素人がいろいろ考えても仕方がないとは思いつつ、自分を納得させるものが欲しかった。

## (5) 悪化

12日、たまに訪れる体調のよい日が来た。ウイルスが暴れるのに疲れて小休止し免疫細胞たちが攻撃の手を緩めたのか。午後は、東条川の河川敷に出てモンキチョウなどを撮影した。チョウの複眼は科によって違うのではないかと久しぶりに生物の不思議に出会って元気をもらったような気がした。しかし、この日が撮影の最終日となった。それ以降は、洗濯物干しと取り込み以外の家事はほぼできなくなり、午後にスーパーでお惣菜を買い、母の身の回りのことをして帰って来

るので精一杯になった。薬局で咳止めの麦門冬湯、ボディー用冷えピタを更に買い込み、13日からはほぼ寝床生活が始まることになる。

腕を伸ばせば半径1 m以内に必需品があった。寝床の左側には各種シップに薬、ゴミ箱を並べ、右側には体温計、各種リモコン、スマホ、筆記用具などを籠に入れていた。枕元には、みかん、ホットレモンのペットボトル、ドリンクゼリーなどの飲料とティッシュペーパー…。

が、この期に及んで長年の習慣とは恐ろしいもので、カートを押してスーパーを歩きながら、今日はいらじろ、眼鏡、搦栗、祝箸、年越しそば…と正月用品を1品ずつ買い揃えていた。おせち料理はすでに諦めていたが、せめて年神様をお迎えする準備だけはしなければと思い詰めていた。

この頃になると、夜中に盗汗を掻き、気持ち悪くて目覚めるという日が増えてきた。おそらく発熱していたのだろうが、だるさの方が勝っていた。実家での滞在時間は増々短くなり母は不満のようだったが、致し方がない。

21日、漢方薬が切れたので受診すると、「動けそうだと思っても動いてはダメですよ。主婦だから気になることも多いでしょうけれど…」と女医さん。病気を治すこと以上に患者に寄り添うことがどれほど大事か、身に染みて嬉しかった。そう、ちょっと動いてはぶり返すの繰り返しは、すでに何度も経験している。そのアドバイスを頭では理解しつつ、やはり年末のこと、比較的調子のよい日には金融機関に行ったり、山でシキミ・サカキ・マツ・ヒイラギなどを採ってきて門松やお飾りさんを作ったりすることができていた。

この頃は、後遺症のことをネットで検索ばかりしていた。特に、体験談を読むと「まさに！」治まったと思ってもぶり返してくる、また別の症状が現れる…。それ以上に共感したのは、受診先と治療法がないということ、いつまで続くのかという出口の見えない不安だった。2~3カ月ともあるが、長引くと半年、1~2年ともある。一生このままだったらどうしようと思うと恐怖ですらある。学生、仕事や子育て真っ最中の人たちは、それこそ症状と生活との板挟みである。休職、退職を余儀なくされる人もいる。精神的にもまいってきて、不眠症やうつ病を発症する人もいるらしい。

無理をしているのは分かっていた。29日、お風呂に入ったとたん体中がかっと熱くなった。慌てて上がって、検温すると40℃近かった。この日から毎晩38℃台の熱が出るようになり、お風呂にも入れなくなった。肋骨周辺の中でも特に左脇腹辺りのズキンズキンという疼きも半端ない。ぎりぎりまで痛みを我慢してはバファリンを飲む。痛みが強くなってから飲んでも効き目が悪いとは後日知ることで、この時は回数を増やしてはいけないと思い込んでいた。効き目が現れるまでの2時間ほどは、うずくまって呻いているほかない。

ここまで悪化しているにも関わらず、30日には娘の帰省を待って餅つき、31

日によろやくお正月準備を終えた。後、少しだ。夜 11 時にバファリンを飲み、明けて元旦の 6 時にまたバファリンを飲んで実家に行く。神棚に小餅を備えて年神様をお迎えし、母と雑煮を食べて帰宅する。車で村の住吉神社に詣でることもできた。ここまでであった。万事休す！動いてはダメだ、動いてはダメだと言いつ聞かせながらも、年越しが無事できたことに安堵していたのも事実である。

(6) 何とかしなければ…

ここまで悪化させてしまった一番の要因は、動けなくなるまで養生しなかったことにある。これまでの人生で何度同じことを繰り返しているのだと反省をしながら、これまでも復活してきたのだから今度も大丈夫だろうという驕りがなかったとは言えない。しかし、今回ばかりは違うぞと身体が訴えている。第一、もう動けない。寝ながら、ずっと考えていたのは私のサポートなしにどうすれば母の生活が成り立つかということと、自身の治療についてだった。

三ヶ日が明けるのを待ち、1 月 4 日は電話ラッシュの日となった。まず、12 月下旬に方法を依頼していたケアマネさん。すでに小規模多機能の施設にアクセスして下さっていたので、面談日を調整して下さると言う。夫が私に代わって母のサポートを引き受けてくれたが、やったことがないことをいきなりするのはハードルが高い。家の中のチェックリストを渡して 2~3 日に一度はいっしょに行った。民生委員さんにもサポートを頼んだ。この方は、以前に小規模多機能の施設を拠点に独居老人の訪問介護に入っておられたし、母も心を許している方だった。何よりも家が近いということもあって、その後ほぼ毎日、一日に二度訪問して下さったので心強かった。家の中のことはもとより、母の話し相手にもなって下さり、後にはデイサービスへの送り出しまでして下さった。もう一人、母に懐いている犬の飼い主さんにも散歩がてら時々様子を見て下さるようお願いした。更に、懇意にしている親戚の者に事情を話すと、毎日電話をしてくれることになった。やれやれ。それでも、私が顔を見せないと不安なようで、毎日電話が入る。コロナで弱っていると話しても理解は難しく、通話がしんどく思えることもあった。

自分のこと、「ひょうごコロナ後遺症外来サポートセンター」に電話を入れた。意外と速く繋がり対応も柔らかい。症状を説明して後遺症外来について訊ねると、「申し訳ありませんが調整中で、紹介できる病院はありません。」とな。もう慣れっこだ。やはりそうかと諦めるしかない。これだけ症状が多岐に亘れば、一つの病院や診療科での対応も難しいだろうとも考える。だから、後遺症患者は病院のはしごをすることにもなる。そう、藁をもつかむ思いというやつだ。因みに、厚労省が都道府県に後遺症（罹患後症状）の診察をしている医療機関の選定・公表を依頼したのは、2023 年 2 月 20 日である。

午後には、かかりつけ医を受診し、ビタミン剤の点滴を受けたが、部屋が寒

い。これではよけいに具合が悪くなってくる。もう1ヶ月も1日3回バファリンを飲み続けていることを伝えると、身体によくないからとアセトアミノフェンという効き目はやや落ちるが安全性の高い解熱鎮痛剤を処方して下さった。やはり、効きがよくない。我慢できずに夜中の3~4時にバファリンのお世話になって、ようやく寝付くという日々が続いた。

11日に受診した際にそのことを話すと、朝・昼・夕食後に飲むようにと言われた。熱も痛みもないうちに飲んでいいものか多少の疑問を持ちながらも従うことにした。この時点で、痛みが出てから飲んで遅いということに気づくことになる。おかげで、だんだんと夜中の熱は38℃を割り、脇腹の痛みも和らいできていた。振り返ると、この頃が体調的には最も悪く、私も夫も入院を模索していたが、第8波のピークで1ヶ月の死者数は1万人に上っていた。医療現場の逼迫を考えると後遺症で入院などできるわけがない。3年前に流行し始めてからの死者数は6万人だから、この1ヶ月でその6分の1が亡くなったという当事者にとってみれば恐ろしいことが起こっていたのだが、マスメディアの報道はさほど加熱していなかった。弱毒化しているとしても死者数が多いということは、データに出ていないだけで感染者が多いということだ。感染者が多いということは、後遺症患者が今後増えていくということにならないだろうか。

12月下旬から続いた高熱と脇腹の疼きで体力は消耗していった。久しぶりにお風呂に入れた時に驚いた。腕の筋肉と脂肪が落ちてたるんだ皮膚がしわしわかさかさだった。解熱鎮痛剤を飲んだ時間、体温に加え体重の記録もし始めていた。体重が100g、200g…と落ちていく。大台を割るのではないかと体重計に乗る度にびくびくしていた。しかし、若干の味覚障害はあったものの有難いことに食欲は維持できていた。普段ほどは食べられないにしろ3食きちんと食べていた。体力をこれ以上落とさないようにと、無理にでも突っ込んで食べていた。

19日、小規模多機能施設の職員の方2名を交え、実家での面談が実現した。いきなり大勢の人がやってきたこともあったのであろう、被害妄想的な思い込みかられた母がプチパニックに陥る。何とかかんとか、昼の給食サービスを週3回受けることで話がまとまった。私の体力と精神力が限界にきていることを目の当たりした夫は、以降全面的に母の世話を引き受けてくれることになった。

母のことに一段落がついた安堵感からかどうかは分からないが、明るる20日からは夜中に解熱鎮痛剤のお世話になることは減っていった。気づけば、あの何とも言えないだるさも軽減しているように感じた。

#### (7) 東洋医学の見立て

これで楽になったと思ったのもつかの間、21日、今度はのどに物が通りにくいという症状が出た。口の中がぱさぱさねばねばして唾液が出ていない感じだ。食道から胃にかけて熱が籠っている感じもある。今度は消化器で暴れ始めたか…。

12月上旬から出始めていた息苦しさも増して、少し動くだけで息切れがする。肩で息をしている自分に愕然とする。呼吸器でも暴れているのか…。もう元の身体には戻れないかもしれないという思いが徐々に増してくる。

待てよ。この口の中のぱさぱさ感には覚えがあった。40代後半に舅の介護をしている時に同じ症状が出ていた。舌を見ると真っ白（舌苔）である。体調不良が自分の身体の手で持ち直さなくなった時にいつも駆け込んでいた鍼灸院を思い出す。幸いなことにまだ運転はできたから、1月26日にさっそく受診する。まずは、脈診と舌診。舌苔は、胃腸の不調、免疫力の低下などで増える。東洋医学では「気」「血」「水」が体を支える3本の太黒柱で、3本がバランスよく働いている時に健康体でいられるという。私の症状はまさしく「気」、つまり元気・エネルギーが不足、というよりほぼ枯渇している状態であつたらしい。

脈診では「小動物のように細く速い」と言われる。脈拍は、心臓から動脈に血液を送り出すときの拍動であるから、酸素や栄養分を送り出す力も弱っているのか…。左の肩甲骨が痛み、左を下にして寝ようとしても息がしにくいと伝えると、これは肺に関係しているそうだ。

普段の肩こりや腰痛の治療なら1時間のコースなのに、今回は2時間、時には2時間半にも及ぶ治療が始まった。いつものコースに加え、鍼を刺して腹部を電気で温める治療、更には背中にお灸をする治療などなど鍼灸院の先生方も必死で治療にあたって下さっているのがよく分かる。後日、お灸の時の反応も最初はとても弱かったと告げられた。ありがたいことに、回を重ねるたびに舌苔はわずかずつではあるが消滅していき、脈の強さも戻ってきた。

夜の熱が37.5℃の微熱程度に落ち着いてきたので、この時点で解熱剤を切った。が、盗汗は相変わらずで、夜中にシャツを三度着替えなければならない日もあった。盗汗は、身体の熱を下げるための働きだからいいことだと思っていたが、東洋医学ではこの微熱と盗汗は、よくないらしい。特に盗汗は「気」が逃げているのだそうで、治療の度に「まだ盗汗はありますか？」と訊ねられる。

とは言え、高熱が続いていた時よりは身体は楽である。1月27日に、やっと年賀状の返事を書き、徒歩5分の郵便局へ向かったが、それだけで息が切れる。あかんわ～。道端のスイセンやナズナが嬉しくて、久しぶりにカメラを向けた。ポジション取りをするために屈んだだけで息苦しい。あかんわ～。

#### （8）西洋医学の見立て

1月30日は、治療中だった疾患の受診日だった。年末にはとても行ける状態ではなかったので事情を話して延期してもらっていた。発熱、盗汗、体重減少は治療中の疾患が再発悪化したときの症状と重なる。いや、11月1日に薬剤を投与したばかりだから再発などしているわけがない。が、北播磨医療センターでの検査から8カ月が経っている。可能性はゼロではない。万が一再発していたら、この

身体では治療もできないではないか。

診察室に入るなり、主治医がデータを見ながら「跳ね上がっていますね。」「何がですか？」「炎症反応ですよ。」といつものように赤のラッシュンペンで項目にチェックが入る。他の項目と照らし合わせながら、「治療は中止です。コロナの後遺症でしょうが念のためにC T検査をします。」とのこと。この「念のために」という言葉の何と怖いことか！念のためには、再発の可能性があることを意味する。炎症反応として出ていたのは、CRP（C反応性蛋白質）とフェリチン（鉄を作る水溶性蛋白質）であった。前者は、身体のどこかで炎症反応や組織破壊が起こっていると高くなり、通常値の10倍だった。後者は、炎症が起きると放出され、通常値の7倍ほどであった。特に、フェリチンは治療中の疾患でも高値を示す。それまで順調に治療は進んでいたから、後4回だったのに、それが終われば再発の可能性はほとんどなくなるのにと悔しい気もしたが、致し方ない。再発していれば、打つ手はない。絶望感がまた広がる。

ともかく体力をつけること、免疫力というか自然治癒力を上げることだと自分に言い聞かせる。落ち込んでばかりいても状況はよくなる。高カロリー高たんぱくの物を食べなければと、チーズやプリン、ケーキ、牛乳を間食に食べ始めた。とは言え、やはり心は落ち着かずネット検索は止められない。

「炎症反応」って何だろう？感染すると免疫反応を活性化させる蛋白質である炎症性サイトカインが分泌されるが、免疫が正常に機能していないと過剰に分泌され炎症が起こり続ける。こうなると正常な細胞まで攻撃してしまうという。そうか、やはり免疫細胞どうしの連携がうまくいっていないのだと納得する。

2月6日、C T検査。7日に結果が出る。再発はなく、私以上に夫が安堵していた。しかし、しかし、まただった。肺の画像にすりガラス状の影が何ヶ所か見つかかり「間質性肺炎が考えられる」と主治医が言う。ここで、主治医ではなくなったわけだが、いつものように質問をしても専門外のことと詳しくは応えてもらえないだろう。肺そのものが炎症を起こす肺炎は画像が白くなるが、原因が細菌の場合ほとんどが抗生物質で快方に向かうようだ。一方、この間質性肺炎は肺胞の隙間が炎症を起こしているから、治療は難しいようだ。指定難病？なんて言葉に出会うと、一難去ってまた一難という気になる。後遺症から合併症を起こしたのかもしれない。唯一の希望は臨床検査技師の所見に「ウイルスを含む肺炎や薬剤性肺炎を疑う」とあったことだ。

あくる日、結果を持ってかかりつけ医を受診すると、見立ては同じだったようで、2カ月飲んでいた漢方薬は中止になった。なんと8週間に一度投与していた薬剤、漢方薬、解熱鎮痛剤は全てこの肺炎を起こす対象だったのだ。この時点で薬は全て切ったことになる。

それにしても、これまで治療に通っていた病院には呼吸器内科があるし、それ

までの治療データや撮影画像もあるのに、何故院内で繋いでもらえなかったのかとかかりつけ医。同じ疑問は私も持ってはいたが、詮索しても始まらない。かかりつけ医は、すぐに元の病院に紹介状を書いて下さった。

### (9) 新しいステージ

14日、治療中止に伴い胸に埋め込んであった医療器具を取り外す。わずか15分ほどの手術だが、人生6度目の外科手術だなどやや自嘲げみ。頸の動脈から心臓へと繋がっていたカテーテルは思いの外長く、周りの組織にしっかりと馴染んでいたようで、麻酔を掛けられていてもぐいぐいと引っ張られているのが分かる。身体の一部となって治療を支えてくれていたのだと、思わず「貰えますか？」と訊ねてしまった。勿論、もらえなかったが写真を撮っておけばよかったなあ。2年前に取り付けたときのことを思い出す。カテーテルを挿入しているときに心臓が二度ドクンと踊った。心壁に触れたためだったそうだが、生きているからこそその反応だったのだと、今はそれも懐かしい思い出となった。

午後、呼吸器内科を受診する。何を告げられるか3週連続のどきどきである。手帳を見ながら、コロナウイルス感染症発症から現在に至るまでの症状を説明しているのを聴きながら、新しい主治医は過去2年間の血液検査のデータやCT画像を照合していた。コロナウイルスの影響か薬剤の影響かの見極めは難しいが、「気質化肺炎」が疑われると言う。12月初旬に若干の息苦しさを覚え、咳が始まり、下旬から高熱が続いた経緯を考えると、12月中旬～1月にCTを撮っていれば肺の状態は今よりもっと悪かった可能性が高く、今は改善傾向にあるのではないかと言う。ええ！間質性肺炎は進行性なのではないのか？肺胞がどの程度硬く厚くなっているかの指標であるKL-6（線維化マーカー）は、以前の2倍ほどになっていたが正常範囲内であるという。これまでの経験から一つの指標だけでは確定診断に至らないことは承知しているが、この結果はとても嬉しかった。また、聴診でも捻髪音（肺疾患の患者でよく聴かれる雑音）は聴かれないという。増々希望が湧いてきた。何より、納得のいく説明をしてもらえたことが嬉しい。

先ずは、持参した2種類の漢方薬（補中益気湯と麦門冬湯）のアレルギー反応を診るための血液採取、レントゲン撮影、肺活量の検査をして、1週間後の受診となった。最後に訊いてみた。「治る可能性はあるのか？」と。ネット検索ではいい情報が得られていなかったのに、間質性肺炎にも悪性のものでないものがあり、後者ならばまれに自然治癒する場合もあると言う。「まさか！」もしそうなら、なんとという幸運だろう。結果的に2カ月半も放置していたのに、私の身体は必死に闘ってくれていたのか、苦しさや痛さはその代償だったのかと思うと、愛おしさすら覚える。

一方、母のこと。ご厚意により1日に二度も実家を訪問して下さっていた民生委員さんも、1ヶ月半ともなるとさすがに疲れが見え始めた。夫もしかりであ

る。母は、介護の現場ではいやいや期と言われる段階で、意思の疎通や感情の起伏に波があり、周囲の人たちにとっては対応が難しい時期である。3月1日には次の介護認定の手はずとなっているが、本人の意思を無視して一気にことを進めるに忍びない。かといって、なるようになる」と楽観的に構えてもいられない。

約3カ月、コロナ後遺症と闘ってきて最後まで謎だったのは、症状が変わっていくことだった。後遺症の発症メカニズムはまだまだ解明途上にあるが、新型コロナはインフルエンザとは違い、体内に残ったウイルスが肺だけでなく他の内臓・器官・血管・神経…どこにでも発現するという。ということは、肋骨周辺の拍動性の疼きは、まさか骨か？ひょっとして神経か？推論でしかないが、思い返せば、11月21日には夫に帯状疱疹再発の兆しが見えていた。数日で治まったものの感染していた可能性は否めない。あるいは、自身の体内で眠っていた帯状疱疹ウイルスが目覚めたのかもしれない。いずれにしろ、コロナ感染症とのからみで帯状疱疹ウイルスが胸部に発症（この場合、赤い斑点や水膨れは見られない）し、肋間神経痛を起こしていたのではないかと思われる。

政府は、5月8日に新型コロナウイルス感染症をインフルエンザと同じ第5類に移行すると決め、マスクも外す方向に舵を切った。もう流行から4年目に入り、マスメディアも以前ほど取り上げなくなった。アフターコロナ？世間も終息に向かってるように思っているのかもしれない。政治的経済的には当然のことなのだろうが、科学的医学的にこの感染症が終息に向かっていくということではない。本当に危険度は下がったのかと後遺症に翻弄された私は不安に思う。

### 3. おわりに

三愛研に入会して5年が経とうとしている。生物に全く興味がなかった私が、活動に参加していく中でどんどん生物に興味を湧いてきた。再任用で働き始めた2019年～2021年の3年間は、暇を見つけては野山をカメラを持って駆け回っていた。最初は同定するのに精いっぱい、それすら覚束かなかった。生物のどこが見分けのポイントになるのかも分からなかったからだ。生物の部位の名称が分かりかけると、そのつくりや生態へと関心は移っていった。だんだんと周りの環境やその日の天気その年の気候との関連にも興味が出てきた。図鑑にもネットにも載っていないことを見つけると、大発見でもしたかのように心躍った。

撮影した画像を元に「尚子コレクション」なる自然観察日記にまとめるのも楽しかった。何名かの会員さんに送ってはアドバイスをいただき、ますますやる気が湧いてきた。ちょっと自慢げに、そのファイルも1ファイル40ページ×84ファイルと3,000枚を越え、この先も続けていくものばかりだと思っていた。が、昨年11月22日からの84ファイル目の途中からと2023年元旦からの85ファイル目は闘病日記になっている。おかげで、この原稿が書ける。

会員の方々との交流も楽しく、活動日が待ち遠しかったものだ。今にして思えば、何と恵まれた日々だったのだろう。三愛研に復帰できる日は来るのか？もう身体を使っただけの作業は無理そうである。何かまだできることはあるだろうか…。そうだ！おもだかに寄稿することはできるかもしれない！1月上旬寝床で目をつぶって天井を仰ぎながらこの原稿を考え始めた。立春を期に、座椅子に座って下書きを始めることができた。初日は30分、次の日は1時間と座ってられる時間が伸びて行った。2月中旬、パソコン入力を開始し今に至る。

読み返すまでもなく不満たらたらと書いている部分があることは自覚している。世界に目を向ければ、不満など抱けないほど絶望的な状況下にいる人が何と多いことだろう。寒さに震えることもなく、食べたい物が手に入り、医療にも結び付いている境遇にいる自分が、死と隣り合わせで生きている人たちのことを想像することすらおこがましい気がする。テレビからは、トルコ・シリア大地震のニュースが流れてくる。地球温暖化や自然破壊による災害が規模と頻度を増して起こる。想定外はもはや通じない。1年前のロシアによるウクライナ侵攻、全国各地域で起こっている紛争や虐殺、核弾頭・ミサイルの増強、軍事力の強化…ホモサピエンスは、ラテン語で「賢い人」という意味だそうだが、とてもそうは思えない。己が欲望のため同属も自然環境も力で支配しようとする。

新型コロナウイルスは、ひょっとしてそんな人類に制裁を加えているのではないのか？細胞も細胞膜も持たず自己増殖することもできないウイルスは、遺伝子である核酸を持つがゆえに、あらゆる生物と共存し、生物進化や生態系、気候にも影響を与えるという。わたしたちがいなければ人類なんて生存できないんだよと警鐘を鳴らしているのかもしれない。3カ月に及ぶ後遺症との闘いは、新型コロナウイルスと人類である私の肉体との闘いであったことを改めて思う。

庭のフキノトウも顔を出し、季節はいつの間にか春に向かっている。気温が上がった日には越冬組のチョウが飛び出してきたかなと思いながら日向ぼっこをしている。2月21日、肺炎の原因は検査中ではっきりとは分からないながら、他の検査結果では目立った所見はなく、経過観察となった。いつかきっとふるさと公園をカメラ片手に歩く日が来ることを信じて、通院しながら静養を続けている。

しかし、安心してはいない。新型コロナウイルスはしつこく体内にいるし、おそらく完全に死滅することはない。油断するとぶり返すぞ、次の症状が現れるぞと警告する自分がある。幸いにして、後遺症の一つであるブレインフォグ（頭の中に霧がかかったようになり、考えたり集中したりしにくくなる症状）は出なかった。そう、最後の「まさか」は、いろいろな意味でこの原稿を書き上げることができたことである。

では、ふるさと公園で、またお出逢いしましょう。

20230223 記

## 「増田ふるさと公園」のザリガニ退治 奮戦記

北村 健

記録によると、2006年ごろから守池2号(上の池)の水草が減り始めていた。水草減少の原因についてアメリカザリガニなのか、ヌートリアなのかそれとも別の原因か、当時ははっきりわからなかった。しかしその後、2009年ころの他地域での情報やふるさと公園の現状などから、犯人はアメリカザリガニ(以後ザリガニと略する)だと断定した。そして2010年から室谷氏が中心となって2017年まで粘り強く駆除を続けた。その甲斐あって守池1号(下の池)のヒシの回復に伴ってトンボ類にもかなりの回復が見られた。

### (2020年度の取り組み)

2018年以降、ザリガニ退治の引き受け手がないままに時が過ぎ、2020年になると西の池のガガブタが例年の半分ほどになっていることに気付いた。原因はほぼザリガニに間違いのないことと、西の池は小さいので退治は容易と思えたことで、退治に取り組む決心をした。そして7月5日より記録を取り始め、捕獲数が**661匹**に達した8月14日で西の池のザリガニ退治を終了した。

この間、1日の捕獲数が7月下旬には一桁になる日が増え、8月に入ると0～2匹に減少していた。そして少しずつガガブタが増えてきているように思えた。

そこで、かつては水草が豊富でガガブタやヒツジグサなども生えていたが、ザリガニの侵入で壊滅していた守池2号(西の池のガガブタの出どころ)の水草復活も夢ではないと思えるようになった。守池2号(以後2号池と略す)での捕獲開始当初は、水の中で大小無数のザリガニのうごめく姿が見えていた。案の定、仕掛けたもんどりにはザリガニがどっさり入った。

1回の捕獲で50匹以上が獲れた。朝夕2回、さらに朝昼夕3回の捕獲を続けたところ、捕獲数が4000匹を超えた8月上旬ころからようやく1回の捕獲数が50匹を下回るようになった。そこで、1日2回の捕獲に戻して継続した。捕獲数が5500匹を超えたあたりからは、明らかに1回あたりの捕獲数が減り始め、9月に入ると10匹を下回るが多くなった。

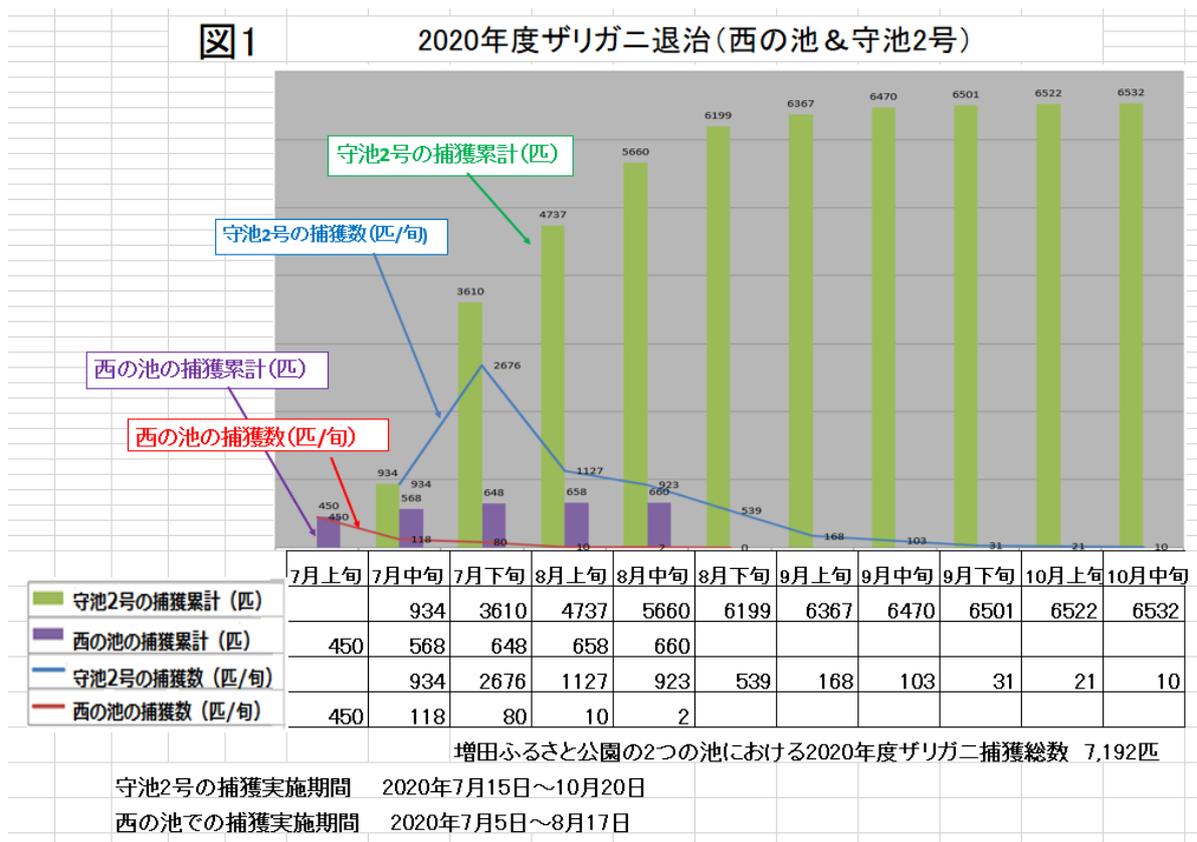
ところで、2号池でザリガニ退治を始めたころはザリガニしか捕れず、魚はいないと思っていた。しかし、ザリガニの捕獲数が減ってくるとドンコやフナが捕れるようになった。また、目の細かいもんどりではモツゴがたくさん入るようになった。つまるところ、2号池の魚たちは、圧倒的な数のザリガニにおびえ、池の中で細々と暮らしていたのだなと分り、ザリガニ退治の必要性を改めて強く意識させられた。

9月中旬には、1回あたりの捕獲数が5匹を下回るようになったので、1日1

回の捕獲にした。そして、10月20日でこの年の2号池でのザリガニ退治を終了した。捕獲総数は6532匹に達した。

また、9月2日からは2号池以外での捕獲にも取り組み、10月20日で終了するまでに646匹を捕獲した。したがって西の池660匹、守池2号6532匹、その他646匹を合計すると公園全体では合計7838匹に達した。

図1が2020年度のザリガニ退治の経過を表すグラフである。



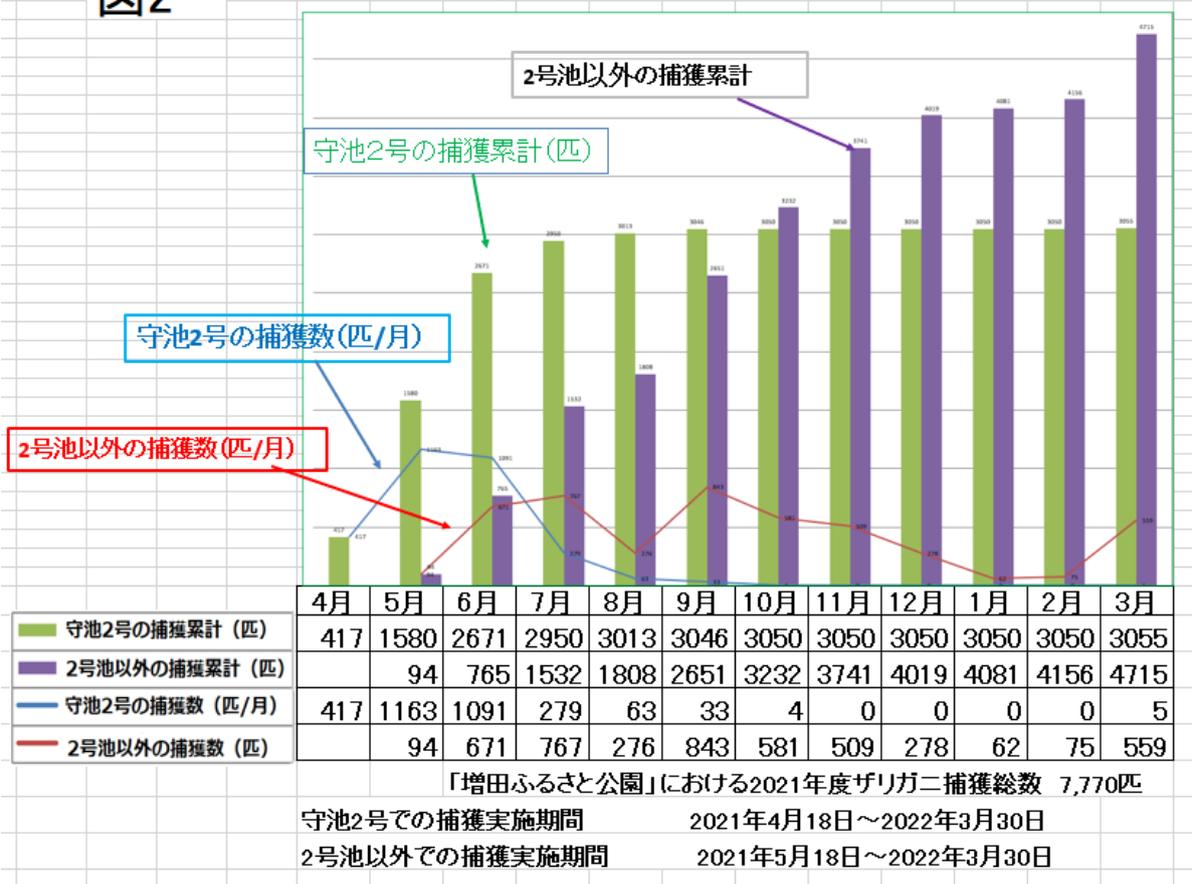
### (2021年度の取り組み)

前年のザリガニ退治の成果から、2号池のザリガニはほぼ抑えられていると楽観していた。しかし、試しに移植したガガブタは数日でバラバラになり、その近くにザリガニの姿が目撃された。公園内でザリガニの姿を見つけてしまったことから、2021年も2号池を中心にザリガニ退治を継続することにした。図2がその記録である。

4月18日から2号池のザリガニ退治を1日1回で始めた。合わせて5月18日から2号池以外での捕獲も開始した。2号池では前年の捕獲努力(6,532匹)が実り、おおむね1日50匹前後で6月中頃まで推移。そこから捕獲数がほぼ20匹

図2

2021年度ザリガニ退治(守池2号 & 2号池以外)



以下になり、8月に入ると5匹以下に、9月に入れば0匹の日も多くなった。そして、捕獲数の減少傾向は2号池以外の池でも見られた。

この頃、長期の使用で傷んだもんどりの補充が必要になった。そこでいつもの釣具屋を訪れるが、ずいぶん小さなサイズしかなかった。仕方なくこの小さなもんどりを購入して帰った。ところが、後にこれが思いがけず役に立つことが判明した。溝で繁殖するザリガニ捕獲に威力を発揮したのである。おまけに冬になるとセトウチサンショウウオやニホンアカガエルが入るようになり、これらが、「増田ふるさと公園」内で順調に生息しているといううれしい事実が確認できたのだ。その一方で、冬場でもザリガニは活動し、繁殖もするのだという恐ろしい事実も明らかになった。

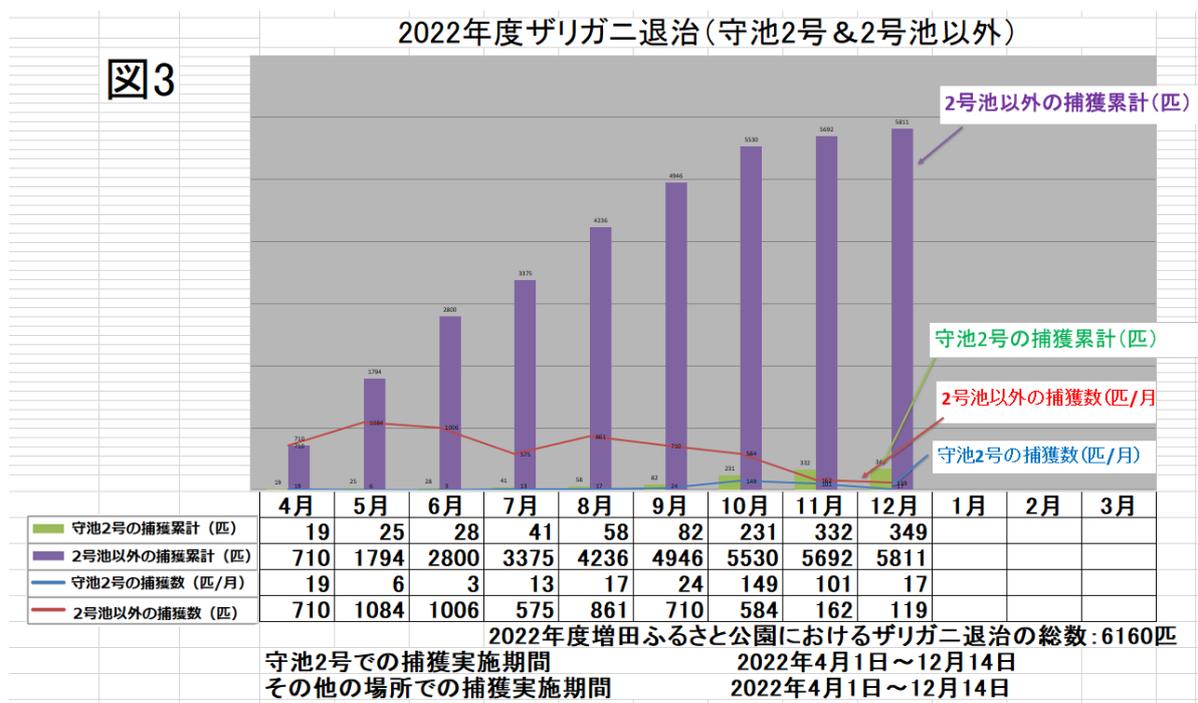
冬になると、池ではザリガニがほとんど捕れなくなって捕獲を中止したが、溝では小さな個体中心に捕獲が続いた。なぜだろう？この理由は推測でしかないが、池には小さなザリガニを捕食する魚や亀がいるが、溝にはいない。そこで、溝では小さなザリガニが順調に育ってしまうのではないかと仮に、そうであるな

らば、溝のザリガニを徹底して捕獲することは、公園内のザリガニを抑制するうえで大きな意義があると考えられた。

(2022年度の取り組み)

2021年度の2号池への水草移植はザリガニの食害によって失敗した。そこで、2022年度は年度当初からザリガニ退治に取り組んだ。2号池では月当たり10匹前後で推移しており、グラフには現れないほどの低密度に抑えられている。2号池以外でもザリガニは獲れ続けているが、その大部分は溝での捕獲であり、そのほとんどが中小の個体である。図3がそのグラフである。

今年も水草の移植を試みたところ、一部に被害が認められたものの、定着したように思われる。イヌタヌキモについては数倍に増殖していることが確認できた。



(結果のまとめ) このザリガニ退治から見えてきたものがある。

その1: 池で捕獲されるザリガニは中型から大型の個体ばかりで小さな個体は捕獲されない。一方溝では大きなザリガニは少なく、小さなザリガニが多く捕獲される。

その2: 池には、クサガメやドンコ、フナなどの小さなザリガニの捕食者がいるが、溝にはいない。1号池の下の溝で、マコモやカササゲが生い茂った間の溜まりでは中小のザリガニが多く捕獲されるが、植物が除去されてドンコも生息するようなどころでは大型のザリガニが少数捕獲され、

小さなザリガニは捕獲されない。

その3：サツマイモ畑を移動するザリガニを目撃した。ザリガニは水の外でも長時間活動出来、移動もできる。

その4：ザリガニは雑食であり、カエルの死肉などは大好物。共食いもするし、陸上の草も水草も、水中の枯れ枝の付着藻類もなんでも食べる。しかし、スゲやカヤツリグサの仲間は好まない。

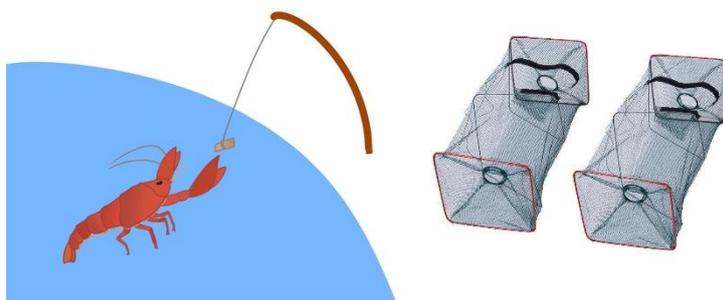
その5：冬でも活動し、繁殖もする。

その6：卵はメスが腹に抱えて保護し、ふ化後暫くはメスが腹の下で保護する。

#### (考察)

ザリガニが増えると発芽した若い芽は食い荒らされ、茎や葉柄は刈られてしまう。これが繰り返されると水草は消耗しつくして、やがて消滅する。水草が減少すれば、そこをえさ場や産卵場所に行っているトンボ類や小魚も減少し、これらをエサとする動物も減って多様性が失われ、魅力が損なわれていく。そこで、魅力を保ち続けるためには、ザリガニの個体密度を常に低く抑え続けなければならない。しかし、これには膨大な時間と労力、忍耐、さらには経費も必要であり、これが最大の課題である。もう一つ言えることは、小さな水溜まりや水路が格好の繁殖場所になっていると考えられるから、このような場所でのザリガニ退治も重要である。

魅力あふれる「増田ふるさと公園」を維持していくため、難題ではあるがザリガニ退治を継続していこうと思う。



## ヌルヌルの多い露天風呂には要注意！

—当地域におけるレジオネラ症について—

松本 正孝

抗がん剤治療をしている 70 代男性が、発熱と呼吸困難にて病院に搬送されてきた。一見してとてもしんどそうで、採血では炎症反応が高く、レントゲンや CT をみると肺の大きな面積が肺炎になっている。よくお話を聞いていくと、近くの温泉に頻回に行っているとのことであった。そこでレジオネラ尿中抗原検査をするとなんと陽性。レジオネラ肺炎と診断し、治療目的に緊急入院となった。

レジオネラ菌はもともと湿った土壌、池や河川などの淡水にすむ細菌である。特に人工水環境で増殖しやすいとされる。1976 年にアメリカ・フィラデルフィアで開催された在郷軍人大会で、ホテルのレジオネラ菌が増殖した空調設備を介し、221 名の肺炎、29 名の死亡患者を出したのを発端に知られることになった。当初は人工培養が困難で原因がわからなかったものの、最近では培養技術も開発され、レジオネラ全 59 菌種のうちよくみられる 1 菌種のみにおいては尿中抗原検査で診断することが可能となっている<sup>1)2)</sup>。

さて、このレジオネラ菌は、自然界中では特にアメーバの中に寄生することが明らかになっている。つまりヌルヌルの中のアメーバ内にレジオネラ菌がいる。人体ではアメーバによく似ているマクロファージ（食食細胞）内に寄生し、増殖する<sup>2)</sup>。

温泉において塩素がアメーバの中に入り込んでいるレジオネラ菌に作用しにくいと同じく、人体でもマクロファージの中に入り込んでいるレジオネラ菌には抗生剤が行き届きにくい。よって細胞内に入りやすい抗菌剤を十分な濃度で投与しなければならない。もともと糖尿病があったり、抗がん剤を投与していたりと免疫が弱い方が感染しやすい傾向があり、致死率は 4.2%（2016 年）であるが<sup>1)2)</sup>、冒頭の患者は幸いにも容態は回復し、独歩退院となった。

全国各地の足湯のうち 30% からレジオネラ菌を検出したと報告もある<sup>3)</sup>。当院でも 1 年に 1 例は来院されるこの疾患。掃除が行き届いていないヌルヌルの多い露天風呂にはどうぞご注意を。



図 1 細胞内で増殖するレジオネラ菌<sup>4)</sup> (多く認める小さい棒状のもの)

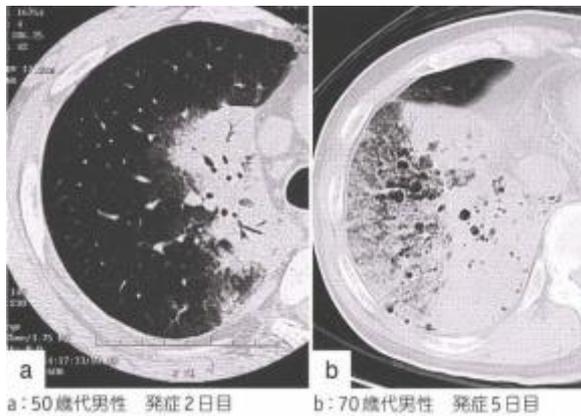


図 2 レジオネラ肺炎のCT像<sup>4)</sup> (広い範囲にわたって濃く白い浸潤影を呈す)

#### 【参考文献】

- 1) 宮本 比呂志、レジオネラ症 Update、JARMAM(0915-1753)28 巻 1 号 Page1-8(2018.03)
- 2) 石井 営次、アメーバの生息環境とレジオネラ感染症、生活衛生(0582-4176)47 巻 6 号 Page320-327(2003.11)
- 3) 古畑 勝則ら、足湯からのレジオネラ属菌の分離状況、日本公衆衛生雑誌(0546-1766)59 巻 5 号 Page333-338(2012.05)
- 4) 比嘉 太、再考レジオネラ症、日本医事新報(0385-9215)5035 号 Page18-26(2020.10)

北播磨総合医療センター 感染症専門医 松本正孝

## まさか自分が？

末瀬 徹

小生 2022 年 12 月 31 日に 80 歳を迎えました。昨年 8 月の住民健診の結果、前立腺の PSA 数値が 4.9 (正常値は 4.0 以下) であることが解り、高校の同級生である中西内科を訪問、そこで泌尿器科である田中クリニックを紹介され 9 月 5 日に訪問、9 月 26 日に生検を県の臨床検査研究所へ送ってもらった結果、9 月 28 日に腺癌であるとの結果が出ました。それは大きなショックでした。その後 10 月 27 日に骨や内臓への転移があるかどうかを北播磨医療センターで CT, MRI で調べてもらった結果、転移なしとの報告がきました。

現在田中クリニックで月一回の注射、それに 1 日 1 錠の薬 (男性ホルモンを抑える作用) を服用しております。振り返れば何の自覚症状もないまま住民健診を受け、前立腺項目にチェックを入れたお陰でこのことが解りました。このことは本当に幸運でした。これを機会に自分の生活を見直しました。

1. 食事は今まで通り昼、夜の二食、おもに野菜と魚、それに 7 分搗きの玄米、お酒少々。それに癌に良いといわれている自家製品 (キノコ、ニンニク、ショウガの油いため) を少量頂いております。
2. 運動は大好き、中学校では相撲部、大学では柔道、三木に帰郷したのは 29 歳、当時市内では家庭バレーボールが加熱期で大塚地域、三木小、三木中 PTA の部に入り約 10 年間汗を流しました。40 歳からテニスを、60 歳からゴルフを始め現在も続けております。現在は、毎朝三木山公園へ行き約 1 時間 30 分散歩、器具を使った体操を行い、展望広場で仲間とラジオ体操を行っております。運動は十分だと思っております。
3. 夕方は毎日女房と近所の竹の湯銭湯でサウナ (5 分×4) を楽しんでおります。体温を上げることが抗癌に有効であることを知り喜んでおります。
4. 50 年以上続けてきました NZ, Aust, USA, 中国 などよりの農産物輸入の仕事もストレス減らす意味でこの 3 月に幕を閉じることにしました。田中医院からこの春か夏、放射線療法の打診を受けましたが、上記の生活を守り、基礎体力も十分ですので断るつもりです。そして病に勝つ何よりも大切なことは精神力です。希望と信念を失わず米寿を目指します。最後に皆様が進んで検診 (前立腺、など) を受けられることを願ってやみません。

## 細川荘の範囲について

室谷 敬一

### はじめに

現在三木市史の編集作業が続けられている。三木自然愛好研究会の会員の健闘が目立つ。口吉川編では戸田耿介さん、志染編では横山法次さん、吉川編では松本明紀さんが健筆をふるっておられる。本市史編では植田吉則さんがため池の水草調査で頑張っておられる。私は細川編で生物について何を書こうか、迷っている。それはさて置き私は細川町に居住している。中世には細川荘と呼ばれた。細川中にある大日神社の石碑には

社殿ニ曰<sup>いわく</sup>細川村ハ細川庄ト稱シ右大臣<sup>①</sup>源実朝ヨリ其ノ歌ノ師範タル京極定家ヘ和歌題詠料トシテ-中略-與<sup>あたえ</sup>タル地ナリ 之レヨリ細川庄ハ冷泉大納言爲相迄家領タリ-以下略

ところが細川荘の範囲について明確になっていない。私にとっては郷土の重要な資料と思うので書き残しておく。生物関連の話題ではないがご容赦を！

### 資料に見る細川の荘

美囊郡誌は大正 15 年美囊郡教育会編纂、昭和 47 年 12 月復刻された。その中では

① 古の細川庄のありし所、今の<sup>おがき</sup>大柿、佐野、金屋、高篠、桃津等の地を言う。この地冷泉家の所領となりしより和歌の名所として現る。(美囊郡誌 p 14)

② 細川庄 (播磨萬寶知恵袋ヨリ)

考云三木郡細川庄五、六ヶ村アリ。冷泉為助の所領タリシヨリ。昔の細川庄は細川村の内吉川部ノミナリシナラン。(美囊郡誌 P1028)

※「庄」と「荘」は両方使っている。どちらを使っても問題はなさそうである。

※三木市立図書館には「播磨萬寶知恵袋」はなく「播陽萬寶知恵袋」はある。

次は日本歴史地名大系第二九卷Ⅱ兵庫県の地名、発行人 下中直人、発行日 1999 年 10 月 20 日、発行所 株式会社平凡社から

### ③ 細川庄

美囊川とその支流小川川流域に展開する中世の庄園で、現細川町一帯に比定される。本家は八条院（鳥羽天皇・美福門院の娘）が建立した蓮華心院（現京都市右京区）。② 領家職は藤原俊成がもち、建暦2年（1212）俊成から領家職を継承した娘九条尼（建春門院中納言）は卿二位（藤原兼子）に譲与の意思を示したが、辞退されたので弟の定家に譲ることになった（「明月記」同年8月8日条）。また定家は和歌を指導した源実朝から地頭職を拝領し、領家職と併せての一円所領となったという（正和2年7月20日「関東下知状」天理大学附属天理図書館蔵）。（日本歴史地名大系第二九卷Ⅱ兵庫県の地名、P225）

※①、② 庄園には本家職と地頭職がいて庄園から上がる税は全てが庄園領主になるわけではない。大日神社の石碑に刻まれている文言（源実朝ヨリ其ノ歌ノ師範タル京極定家へ和歌題詠料トシテ-中略-與タル地ナリ）は源実朝から地頭職を兼任できたことを述べているのであろう。戦国時代になると冷泉家も守護が色々な税を課してきた。冷泉家は細川庄を守護不入の地と主張し、その都度室町幕府にその停止を依頼、幕府もそれを認めていた。

次は新三木市史研究紀要 市史研究みき No.3 平成30年3月31日発行の一部である。

### ④ 戦国期の播磨の国細川庄と下冷泉家

播磨国細川庄は、かつて兵庫県三木市にあった庄園である。史料上の初見は建仁元年（1201）と比較的新しいものの（『明月記』建仁元年10月25日条）、さほど史料が多いわけではない。庄域は細川中・金屋・脇川・大柿・桃津・高篠・高篠新田・佐野・西（細川町のほぼ全域）と推定されているが具体的に庄域を示す資料はない。（市史研究みき No.3 P22）

以上① ② ③ ④から細川庄の範囲を明確に示すものは今のところ無い。

## 細川庄のその後

細川庄を賜った京極（藤原）定家の子、為家の時に二条家、京極家、冷泉家に分れ、冷泉家は為伊の時に上冷泉家と下冷泉家に分れ、細川庄は下冷泉家の所領となった。領主・為純は桃津に砦（細川城ともおかまえとも言う）を築いていたが1578（天正6）年4月1日に別所軍に攻められ為純は討死、息子の為勝は加東郡依藤野（現・加東市栄枝）まで逃げたがこの地で自刃している。冷泉為純は高名な藤原惺

窩の父、為勝は惺窩の兄である。この地で藤原惺窩は誕生している。たまに為純の居城を高篠と書いている文書を見ることがある。高篠の人家に近いが桃津字大構おがきむらである。

戦国時代は取ったもの勝ちの時代であったから冷泉家の家領であった細川荘は別所長治に攻め落とされた時点で別所の領地に、その別所軍も1580（天正8）年に豊臣秀吉に降伏したので豊臣の領地になったであろう。その後豊臣方は1600（慶長5）年徳川方と闘い、関ヶ原で敗れ、1603（慶長8）年に徳川家康が江戸幕府を樹立した。豊臣家はその後大坂冬の陣・夏の陣を経て滅びる。江戸時代の領主・藩を美囊郡誌（P64）から拾うと、

元禄頃		
大二谷村・入野村・小二谷村・上南村・荻谷村・ 下南村・原坂村・法輪寺村	松平直明	明石藩
㊦3 鍛冶分れ村・上芝原村・下芝原村・谷口村・増田村 黒田直邦 久留里藩		
<small>おがきむら</small> 大柿村・佐野村・桃津村・金屋村	水谷伊勢守	松山藩
高篠村・脇川村・細川中村・西村	松平直明	明石藩
享保頃		
大二谷村・入野村・小二谷村・上南村・荻谷村・ 下南村・原坂村・法輪寺村	松平直常	明石藩
㊦4 鍛冶分れ村・上芝原村・下芝原村・谷口村・増田村 酒井忠恭 姫路藩		
大柿村・桃津村	鳥居忠意	壬生藩
佐野村・金屋村・細川中村・西村	松平直常	明石藩
高篠村・脇川村	小堀遠江守	大津代官
慶応頃		
大二谷村・入野村・小二谷村・上南村・荻谷村・ 下南村・原坂村・法輪寺村・鍛冶分れ村・上芝原 村・下芝原村・谷口村・増田村	松平慶憲	明石藩
大柿村・桃津村・高篠村	鳥居忠実	壬生藩
佐野村・金屋村・細川中村・西村	松平慶憲	明石藩
脇川村	天 領	一橋藩
㊦3 ㊦4 美囊郡誌では鍛冶分れ村・上芝原村・下芝原村・谷口村・増田村 元禄頃 久留里藩、享保頃 姫路藩であるが累年覚書集要（平成6年9月1日発行、三木郷土史の会編集、小野高速印刷株式会社印刷、頁vi）では小川組に属しているので明石藩である。		

## 現在の細川町

現在の細川町は瑞穂、中里、垂穂、増田、豊地、細川中、西、脇川、金屋、桃津、高篠、高畑である。瑞穂は大二谷、入野、小二谷、上南が合併して瑞穂、中里は下南、原坂、荻谷、が合併して中里、垂穂は上芝原、鍛冶、下芝原、谷口が合併して垂穂、豊地は大柿<sup>おがき</sup>、佐野が合併して豊地となった。高畑は江戸時代に高篠など周辺の住民が原野を開拓してできた集落で初めは高篠新田（文化の初め頃）（解散誌・昭和 51 年 12 月 1 日発行・編集者草加野開拓農業協同組合解散誌編纂委員会・P205）であったがその後高畑と改称している。

瑞穂、中里、垂穂、増田は小川川に沿って点在し、昔は小川荘の名がある。豊地、細川中、西、金屋、桃津、高篠は美囊川<sup>みのがわ</sup>に沿って点在する。明治 19 年測量の「豊地村」の地図には吉川谷の標記が見える。脇川・高畑は少し外れているが吉川谷の範疇に入る。

## 現在の細川城跡

現在、細川城跡には藤原惺窩生誕地の記念碑（大正 12 年 7 月建設）と藤原惺窩先生御像（平成 2 年 12 月 2 日・藤原惺窩先生奉賛会建立）が並んで立っている。その左手に御神灯（願主・村上吉左エ門、天保 5 年 9 月）がある。御神灯の前に自然石が積んであり、生花が供えてある。近くの主婦は「昔偉い人（和歌の家系である歴代の下冷泉家？討死した為純？）が住んでいた証として残さないといけないと言う人（願主・村上吉左エ門？）がおられたそうです。家が近くだから花を供えています。お墓ではありません。」という。

藤原惺窩先生奉賛会は昭和 51 年 10 月 3 日に第 1 回惺窩祭を開催した。この経緯については「ふるさと探訪」（信国清・三木史談第 51 号 P40）に詳しく述べられている。現在は 11 月第 2 日曜日に行っている。

## 新しい資料を入手

三木自然愛好研究会の会員である高橋洋三さん（元高等学校校長先生）に「惺窩先生と細川の荘」（特別校舎落成記念発行・細川中学校、著者 柳本一男、昭和 28 年 10 月 8 日・三木市立中央図書館蔵書）をもらった。著者 柳本一男さんは細川中学校の校長先生である。「惺窩先生と細川の荘」から引用する。

細川庄の範囲と冷泉家領再興運動  
御慈悲以書付奉御願上候

六兵衛

八人

「当細川庄の儀、当時桃津村、大柿村、佐野村、細川中村、脇川村、金屋村、高篠村、西村都合八ヶ村総高代貳千四百石領の土地に御座候処 就中桃津村儀ハ・・・・・」

天保5年冷泉家領再興の請願書下書は右(上)のような書出しであって、民生安定の御治世に三坂神社のおつげ夢みせがあり、何とぞ再興せられるようにと運動した模様である。桃津はもと桃柄といはれた事あり、桃津伊賀の守は老筆頭であった関係から滅亡以来、子孫は百姓になって隠れるに当たり、身上の危険を感じて※③ 大雄寺檀下を離れて今に至ったものらしいが、同じく百姓になった村上氏、田村氏、藤平氏、藤岡氏、藤田氏(現在せず)、井上氏、大杉氏の7氏は現主に至るも菩提寺を中心に、美しい交渉協力が見られる。

(「惺窩先生と細川の荘」P57)

※③ 大雄寺は「ダイオウジ」と読む。曹洞宗・現在は無住、友松寺が兼務する。

現在桃津地区で桃柄姓が2戸あるが大雄寺の檀家でない。桃津姓は1戸あるが大雄寺の檀家でその他のお家も大雄寺の檀家である。

### 細川の荘について考える

細川荘の西には久留美荘、東には小川荘、北には衣笠荘がある。高畑(高篠新田)は冷泉為純が討死した天正6年には未だ開墾されていない。

藤原惺窩生誕地の隅に村上吉左エ門が奉納した御神灯がある。おそらく桃津村の住民で熱心な冷泉家信奉者であったろう。三坂神社のおつげに触発されて冷泉家再興を元々の細川荘構成集落である桃津村、大柿村、佐野村、細川中村、脇川村、金屋村、高篠村、西村に働きかけた。

しかしながら江戸時代の各村の領主は区々であり江戸幕府から与えられた領地を公家に還せというのであるから了解するとは思えない。又、各村によって領主との温度差が違いうだろうから意見が合わないように思う。請願書の代表は六兵衛であるが役職は分からない。村上吉左エ門と六兵衛の関係は不明であるが冷泉家領再興請願書の時期と御神灯奉納の時期があう。村上吉左エ門の影響があったものと推察する。請願書から細川庄の範囲は現在の地区にすると桃津、豊地、細川

中、脇川、金屋、高篠、西にあたる。7集落が細川荘の範囲とみて間違いないだろう。有識者に確認してほしいものである。ただし、請願書（下書き）の所在は不明である。



藤原惺窩先生御像

藤原惺窩生誕地の記  
念碑

願主・村上吉左エ門の  
御神灯の奥に  
石のしるし

## 三木市内に生育するノキシノブについて

丸岡 道行

シダ植物の見分け方が苦手な私にもノキシノブは馴染みが深い種類です。昨年秋から兵庫県全域と隣接する鳥取県・京都府・大阪府まで、ノキシノブについて調べて回っています。ここでは三木市内を調べた結果を中心に述べたいと思います。

兵庫県に生育しているノキシノブ（広義）は細かく分けると4種類が見つっています。2倍体の普通のノキシノブ・4倍体のクロノキシノブ・4倍体雑種のフジノキシノブ、そして昨年から専門家の方に協力して調べ始めている但馬で見つかった新種の6倍体ノキシノブです。三木市内ではその内のノキシノブとクロノキシノブの2種が見つっています。

### 1) ノキシノブの種類の見分け方

#### A: ノキシノブ (2倍体) 図1

葉の縁は平行に近く細長い。葉は緑色で葉先は鋭尖頭。基部はしだいに細くなり緑色の柄がある。孢子嚢はやや大きい。葉の中肋は表側に出っ張らない。普通に見られるノキシノブです。

#### B: クロノキシノブ (4倍体) 図2 = ノキシノブ (2倍体) とナガオノキシノブ (2倍体) の交雑起源による複2倍体種

葉の柄は黒っぽくて光沢あり長い。葉は濃い緑で光沢がある。葉の中肋は表面に出っ張らない。根茎はノキシノブよりも長く這い、葉が出る間隔もやや広く5mm前後である。兵庫県では但馬・丹波・播磨北部・六甲山地に多い。

#### C: フジノキシノブ (4倍体) 図3 = ノキシノブ (2倍体) とツクシノキシノブ (2倍体祖先型) の交雑起源による複2倍体種

葉は淡い緑色。中ほどで幅がやや広く柔らかい。葉裏は白っぽい。葉柄は無いかあっても1cm以下。葉の中肋が表側に出っ張る。葉先はあまり伸びず鈍～鋭頭。根茎はあまり這わない。孢子嚢は3mmほどで大きい。

#### D: ノキシノブ 6倍体 (図4) = クロノキシノブ 4倍体とナガオノキシノブ 2倍体の交雑種 (新種) 3月に植物分類学会大会でポスター発表がされた。

### 2) 三木市内及び全県でのノキシノブの生育状況

Aのノキシノブ2倍体は三木市には多く普通に見られた。調べてみると瀬戸内乾燥気候である加古川市・高砂市などをふくむ県南部に多く、但馬ではやや少なくなるようです。乾燥に強く温暖な気候を好むのかと思われる。

Bのクロノキシノブは三木市内では東部の吉川町法光寺と中部の志染町三津田の衝原湖畔で小群落がわずかに見つかったが、市西部では全く見つからなかった。吉川町のすぐ東の神戸市北区大沢や北の加東市秋津の大川瀬には群落

があり、六甲山の車道法面には連続して大きな群落がたくさんあった。一方、三木市西部から加古川市・高砂市・姫路市南部・相生市などの瀬戸内海に面した地域では全く見つからなかった。

クロノキシノブは瀬戸内乾燥気候（年間雨量 1200 mm未満）の地域にはほとんど生育せず、県中部や但馬・丹波・六甲山などに多いことから、乾燥に弱くやや冷涼な気候を好むのかと思われる。

Cのフジノキシノブは市内ではまだ見つかっていない。ノキシノブとの外見での区別が難しく同定に苦戦しているところです。上に書いている両種の特徴が入り混じっているように見える株が多く、顕微鏡で花粉を調べる必要があるようです。（花粉が正常ならノキシノブ・いびつなら雑種のフジノキシノブ）。

フジノキシノブは関東から近畿地方の太平洋側を中心に、四国や中国地方東部まで生育していて、兵庫県では丹波篠山市周辺に多く、国立科学博物館には西播磨のたつの市で採集された古い標本もある。曖昧な同定による調査結果による推測ですが、私はフジノキシノブが県南部に広く分布していて、近年になってから分布を広げているのではないかと思っている。

### 3) 県南部のノキシノブ分布図（図5）について

分布図は私が調べた生育地に科博の標本データ（1953年～1980年）を加えて作成したものです。私が調べた中にはノキシノブかフジノキシノブかの判断に迷うものが多くありました。したがって○ノキシノブと★フジノキシノブの観察点は正確なものではありません。

クロノキシノブは瀬戸内乾燥気候の地域にはほとんどなく内陸部や六甲山に多いことが分かります。但馬地域にも多いです。一方ノキシノブは瀬戸内乾燥気候の地域にも生育するが、六甲山の高所や但馬ではやや少ないようです。フジノキシノブらしい群落は多くの地点で観察しているが、但馬ではまだ見つかりません。

### 4) まとめ

未調査の地域が多く同定が曖昧な観察も含まれている中間報告的な内容になりました。これまではちょっと変わったノキシノブを見ても個体変異か環境変異の範囲内だと思っていたが、実際は倍数性や持っている遺伝子が異なることが分かり、それぞれの県内分布の様子も少しずつ明らかになってきました。

三木市内はまだ数か所しか調べていないので、探せばフジノキシノブも見つかるかもしれません。もしノキシノブを見かけたらどの種類なのか確認してみてください。



図1：ノキシノブ（葉表と柄が緑色）



図2：クロノキシノブ（葉の緑濃く柄が黒い）



図3：フジノキシノブ（葉幅広く中肋が出る）



図4：新種の6倍体（葉幅広く中肋が出る）

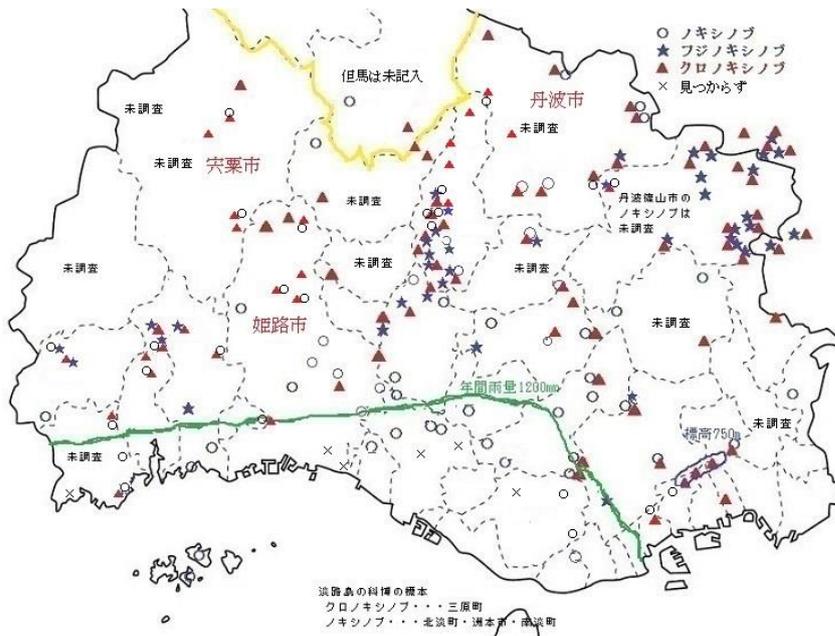


図5：ノキシノブ分布地図(○と★の一部は同定が正確ではない)

## わたしのたどった道（4）

永幡 嘉之

### ロシア極東に描いた夢

少年時代から日本の高山チョウや北国のオサムシに強く憧れ、北方志向が強かった。それは、北アルプスや大雪山の高山植物のお花畑、あるいは雪山に憧れてやまない登山者の感覚と共通する部分があるかもしれない。もちろん熱帯雨林の虫たちもすごいと思ったけれども、ネパールや中国青海省のチベット高原、それにモンゴルの草原やそこに咲く北国の花々に、より強い憧れを抱いていた。

学生時代には鳥取を拠点にして但馬のブナ林に通うことにのみ時間を使い、海外どころか北海道や信州への興味も失い、視野の狭い時期を過ごしていた。その後、大学院時代を信州で過ごし、雪に覆われた東北地方の春の美しさを知ったことで、北国への憧れが再燃しはじめた。

もともと、当時は誰かが行った話を夢中で読んでいたものの、自身が海外に行くなど考えもしなかった。初めて恐る恐る台湾に行ったあとでも、ウラジオストクやハバロフスクは特別な場所で、行きたいからといって自由に行ける場所ではなかった。1990年代になって冷戦の終結とともに外国人にも渡航が開放され、最初はごく限られた人が「調査団」として訪れ、学会誌などに文章を書いた。その調査団のなかに次第にアマチュアの同好者が混じるようになり、昆虫の同好会誌でも紀行文を目にするようにはなったものの、いずれも特別な枠ばかりで、一般人が行くにはやはり敷居が高すぎた。いや、当時でも行こうと思えば、制度上は不可能ではなかったはずだ。旅慣れた人なら、受け入れてくれる窓口を自分で作ることも可能だっただろう。しかし、当時の私には情報といえば「地球の歩き方」をはじめとしたガイドブックのみであり、海外に出かけること自体に得体のしれない怖さが残っていた。

そのロシアに行けるかもしれないという話が舞い込んだのは、23歳の夏だった。東シベリアのタイガに生息するウスバキチョウの採集に行くメンバーに加わることができるかもしれないという。ウスバキチョウといえば日本では大雪山の高所にのみ生息する高山蝶だが、ロシアではそれが針葉樹林の続くタイガのなかを飛んでいるという。面識を得たばかりの秋田勝己氏(後に「日本産ゴミムシダマシ大図鑑」「日本産カミキリムシ大図鑑」の著者になられた甲虫の大家)から「月刊むし」編集部の小林信之氏に話を通していただき、「一生に一度の機会だから」という思いで調査団に加えていただいた。当時は大学院生で、もちろん、当時ロシアに昆虫を調べに行った人のなかでは飛びぬけて年少だった。

これがその後の私を大きく方向づけたことは間違いない。ロシアには多い年

には5度、延べ35回にわたって通い、月刊むしをはじめとした専門誌に記事を書き続ける現在の生活へとつながることになる。

### チョウの渦、甲虫の渦

初めてのロシアは、それは素晴らしかった。カラマツの林のなかに広がる草原にはスカシユリが咲き、ウスバキチョウが翅を真っ赤にしながらいそいで飛んできたし、クモマツマキチョウ、オオイチモンジ、ミヤマモンキチョウ、ツマジロウラジャノメなど、いずれも図鑑で憧れていた、日本では北海道や信州に見られるチョウが目の前に現れた。甲虫ではキョクトウトラカミキリ、スミイロハナカミキリ、オクエゾトラカミキリ、ウスリーキンオサムシ、それにマックレイセアカオサムシ。ショウマ類やシモツケ類の花には図鑑でのみ姿を知っていた北国のハナカミキリが群がっていたし、イソツツジを踏み分けて針葉樹の林床にトラップをかければ煌びやかなオサムシがいくつも落ちていた。

当時は重要な軍事上の拠点であるウラジオストクには空路での入国ができず、空路での訪問者にはハバロフスクが窓口になっていた。そこからアムール河を一晩かけて船で下ったコムソモルスク・ナ・アムーリエから長い鉄路を乗り継いで北シホテアリン山脈の核心へ。さらにアムール河の河口にあたるニコライエフスクまで、2週間にわたってひたすら採集を続けた。新潟に帰国してからはその足でフェリー乗り場に向かい、1ヶ月のあいだ、北海道の各地で大陸との共通点と相違点を意識しながら採集を続けた。

### 通い続けた日々

最初の頃は学術交流の協定の一環だと言われていたものの、いったいどのような窓口なのか、私自身もよくわかっていなかった。周囲で通っていたのは民間人が主体になっていたが、自分たちだけで行くなど思いもよらなかった。

後に理解していったことだが、当初は日本のいくつかの大学の研究者とロシア科学アカデミーとの間で学術交流の協定が締結され、アマチュアの同好者も強い要望によって調査員として加わり、ロシア側が窓口を拡大して受け入れていた。私が行った最初の数年間は、そうした過渡期だった。

ロシア科学アカデミーを通して共同研究の名目でのビザを取得するために、まず招待状をファックスで送ってもらう。それを日本の旅行代理店が大使館に持っていき、ビジネスビザを発行してもらう。入国すると1日かけて外国人登録(これはロシア科学アカデミーの顔なじみになった担当者がやってくれる)および、外貨からルーブルへの両替を済ませる。銀行でやっていた頃には非常に時間がかかったうえに、数名が両替したところで銀行の現金が底をつき、何軒もハシゴしたこともあったが、ほどなく闇の両替商で行うようになり、半日か

かっていた時間が10分に短縮された。外国人登録も、次第に半日で済むようになってきた。その後はウラジオストク郊外の露店でジャガイモやタマネギやパン、それに卵など1週間分の食材を買い込み、水や大きなペットボトル入りのビールも買い出してから、山に向かう。

最初にアムールに行ったのは1996年。翌1997年と1998年には南シホテアリン山脈に行っている。1998年に恐る恐る、自分たちだけで行ってもいいのかを尋ね、25歳の私が責任者としてアマチュアばかりの調査団を組織した。その後、2001年からは虫の少ない春や秋にも私一人で行くようになった。その頃にまともな写真が撮れていれば、もう少し資料としての使い道もあったのだが、残念ながら素人以下の写真ばかりで、フィルムを捨てずにはいるものの、残す必要を感じないような代物だ。その頃は採集に熱中しており、大量の標本を作り続けていた。

2003年頃からは通う頻度が上がり、それを受けてロシア科学アカデミーでも企業の駐在員などが取得する、年間を通して訪問できるマルチビザを発行してくれるようになり(これは特例の対応だった)、2005年と2007年には5回ずつ訪問している。当時のパスポートは増頁していたけれども、ロシアのビザで埋め尽くされていた。

最初の頃は虫を採ることしか考えていなかったが、個人で通うようになってからは、対人関係なども気にかかるようになった。初期に共同研究を立ち上げた研究者からは、個人で通うことは協定違反だと言われることもあったし、たとえばロシアの研究者が公費で招待されて日本に来るときに「学会に会いに来い」と連絡があっても、日本側から「何者か知らないが遊びではなく公費での招待で、不快以外の何物でもない」というメールをもらうこともあった。当時はそうした言葉に一喜一憂していたが、次第に「学术交流」の本質も見えてきた。

当時、ロシア側の昆虫の研究者のフィルムはほぼ私が持ち帰って現像し、次の訪問で届けていたし、日本の研究者に届けてほしいという標本から時には哺乳類や水族館で展示する魚まで、ずいぶん運搬した。日本で図鑑が出版されると私のところに「ウラジオストクまで届けてほしい」と送られてきて、空港で超過料金をとられることも重なった。ロシア側の研究者からは、「みんないろいろ要求するけれども、誰も来ない。来るのはお前しかいない」と言われるようになり、2000年以降、事実上の学术交流は一人で果たしてきた自負がある。

ソビエト連邦の崩壊後に、日本の国立大学にあたるロシア科学アカデミーでも研究費や個人の給与獲得のために外国人研究者の受け入れ枠を作らねばならなかった。最初は多くの人が訪れて軌道に乗ったかに見えたが、日本側は大挙して押しかけて標本を持ち出したら誰も行かなくなった。大局的にみれば、共

同研究の実態は大量の標本の持ち出しであり、帝国主義時代に行われたことと本質的には変わらないのではないか。もちろん知り合いの研究者個人の努力は知りつつも、大学や学会から距離を置いた立場にいる私には、資金力に物をいわせ、学問を盾にした「自分たちに都合のよい協定」の姿が見える。

年月が経つにつれて、私に対してもまた、日本の研究者からは研究用にあの標本が欲しいこれが欲しいといった要求が重なり、あるいは案内してほしいという話も重なったが、職務での出張に無償ガイドとして使おうとする例が増えてきたことから、親しい友人らは別として、2007年頃からはひとりで行くことが多くなった。

ロシア側では、情熱だけで通っている私を受け入れてくれたのは、激動の1990年代を現役で過ごした世代に限られていた。たとえば文科省の科研費等での調査では、中国では1週間の調査に数百万円かかることが相場になっており、ロシアにも同様の額を払う例がみられたことから、若い研究者は日本の大学が公費で調査に来る際に新車を買うことや、招待されて日本に行くことに慣れていった。その1割にも満たない費用しか持たないのに滞在期間ぎりぎりまで遠方の山に行きたがり、大きな予算と縁のない私とは、話がはずむべくもなかった。高齢化とともに、私が通ってきた窓口もあと10年を待たずに消滅することは分かっていたので、2017年頃からは分野を問わず大学生を連れて行き、若い感性でロシアの自然や文化に触れてもらっていたが、それもコロナ禍によって中断してしまった。

### 里山の姿を比べ始める

ロシアでは、当初は様々な虫たちを丹念に採集し、標本を作り続けていた。その後、興味の対象は次第に草原、湿地など、日本で失われた環境を意識することへと変わっていった。もちろん、そうした環境でも虫を採集し、その顔ぶれによって日本との共通性や違いを浮かび上がらせるという手法は変わらなかった。

初めてのロシアでは北海道よりもずっと北のアムールを旅したが、その後はウラジオストクを拠点にして、ハンカ湖の南岸や北朝鮮国境に近いハサン地方にばかり通うようになった。緯度は札幌と同じぐらいで、動植物は信州や東北地方との共通種が多い。海岸では森はそれほど深くないが、草原や湿地が豊富に残っている。同じ場所に何度も通うことで、日本では失われてしまった草原や湿地の本来の姿を考え続けた。

たとえば海岸に近い湿原は6月になると毎日海霧に覆われ、そこにはカキツバタの花が咲き続いていた。カキツバタといえば口吉川町善祥寺の育った家の裏の池に、5月の連休をすぎると一面に咲いていた花で、そこでヨツボシトンボ

やトラフトンボ、キイトンボそれにベニイトンボに出会ったのだが、小学校低学年の頃には、ため池は人工的に作られた環境であることはもちろん、美しく咲くカキツバタが植えられたものであることなどは知る由もなかった。その後、日本各地で自然環境をそれなりに見る中で、たとえば但馬の蘇武山中の湿原に初夏になってから咲くカキツバタを初めて自生のものとして意識したし、日本各地の湿原に自生していることも知った。ただ、それらの多くは人里を離れた山のなかに残された湿原で、日本の土地利用のなかでは手を付けられずに残されてきた場所だった。

ロシアでは、カキツバタは海岸に近い平坦な湿原に生えている。そこは海岸砂丘の後背湿地で、日本ならば真っ先に見渡す限りの水田へと作り替えられた土地だ。現在の日本では、カキツバタはため池のまわりや山のなかの湿原に自生しているが、それらは本来の自生地の際縁にあたるものであって、本来自生していたはずの平野の湿地は、すべて水田へと作り替えられてしまった。

ロシアはパンを主食にしたコムギ食の文化圏であることから、稲作が行われずに湿地が残されていたのかと当初は思っていた。しかし、過去に水田開発が試みられた跡も各地に残っており、実際には寒冷なために稲作ができなかった事情もあるようだ。稲作ができなければ、湿地はわざわざ優先して開発すべき対象ではない。

かつて中国(清)と領有が争われた沿海地方の最南部は、1860年の北京条約以降、冬でも凍結しない港を求めて覇権を争ったロシアによって実効支配された。その結果、隅々まで農地化された中国側とは対照的に、ロシア側では人口密度がごく低いまま土地利用が進められた。水はけのよい平原ではジャガイモのほか、対外輸出用にダイズやソバも大規模に栽培されており、地平線まで咲き続くソバの花を見ることもある。一方、湿地では放牧地に作り替えるために水路を切って排水を試みた跡はあるものの、水位が高い場所についてはわざわざ埋め立てる必要もなく、そのまま残された。これが、稲作文化のなかで平野部の湿地を完全に開拓してしまった日本との大きな違いであり、カキツバタの花がその違いを象徴している。日本でだけ物事を見ていたならば、水田開拓の歴史はもちろん理解していたとしても、水田の開拓によってカキツバタの主要な自生地が消えたことに気づく機会はなかったかもしれない。水田開発は用水路の整備との組み合わせで進められ、上流側にあたる山裾には灌漑用に多数の溜池が作られた。そうした開発は、戦前までは人力によって段階的に進められたので、平坦地の湿地が完全に開拓されてしまう前に山裾には最初のため池が作られ、トンボ類やゲンゴロウ類は湿地から水田を介して溜池に移り住み、水草の種子もまた、カモ類などの水鳥が植物を食べてから移動先で糞をすることによって、湿地から溜池へと運ばれた。古くから生活と結びついていたジュンサイ

やカキツバタに関しては、部分的には人が運んだ経緯もあっただろう。やがて、平坦地の湿地は完全に埋められて水田に姿を変え、湿地の生きものは溜池を主な住みかとして生き延びた。

水田やため池を軸にした日本の里山の生態系がどのように成立したのかを、私はこうして稲作文化のないロシアと比較により描き出した。里山の歴史を浮かび上がらせることは、その後、私の重要なテーマになってゆく。

農地と道路の間には一定の幅で草地が残されており、そこにはニッコウキスゲやユウスゲ、ヒメユリ、それにスカシユリの近縁種が咲き続けており、草原の歴史についても同じように考え続けていた。特別な場所だけを案内されると効率はよいが、深く理解することなく「つまみ食い」で素通りしてしまう。オキナグサ、アツモリソウなど、季節を変えていくつもの植物を予備知識のない状態で探し続けた日々は、効率の悪い、あるいは無駄の多い時間だったが、無名の場所を歩き続ける時間を通して、私はロシアの自然環境の現状の理解を一段階ずつ進めていった。

## 軍、国境警備隊そして秘密警察

ロシアでの調を続ける限り、軍や警察の影は常につきまとう。

1 回目は確か 2003 年、沿岸の湿地でネクイハムシの仲間を探していた時に通りかかった車に呼び止められた。手招きするので道路まで上がってみると、いきなり羽交い絞めにされて車に乗せられそうになった。パスポートやビザは濡れないようにご丁寧に車に置いており、しかもロシアの研究者 3 人は私を下ろしたあと目立つ場所を避けて、少し離れた場所まで車を移動させてしまっている。相手にそれほど威圧的な雰囲気はなかったこともあり、車に乗ってしまえば終わると思ったので振りほどいては懸命に時間を稼ぎ、そのうち異変を察知したロシアの研究者がずっと向こうからゆっくりと歩いてくるまでの長い時間を何とか切り抜けた。漢方薬の原料にするためにカエルの卵を密漁するために密入国してくる中国人を取り締まっていたところに、わざわざ網を持って湿地にいる東洋人がいたので、ここぞとばかりに拘束しようとしたことが判明し、お互い笑顔で握手して別れたのだが、それにしてもパスポートを持たずに車に乗せられていたらどうなっていたか。

2 回目はその翌年、すぐ付近で海岸湿地に一面に咲き続くカキツバタを撮っていたときに、通りがかった車が停まり、中から 2 人の若い軍人が出てきて職務質問を受けた。これまでも同様の場面は何度もあったが、この時は鋭い眼光と緊迫した雰囲気から、明らかに次元の違う事態だったことは察せられた。近くの軍の事務所にしつこく出頭を命じられ、軍、国境警備隊、そして秘密警察(ソ連時代には KGB と呼ばれており、現在では名前は変わっているがその後継組織)の取

り調べを夕方まで1時間ずつ受けた。一緒に取り調べを受けて罰金(決して高額ではなかった)を払ったロシア科学アカデミーの研究者はひどく不機嫌で、本当の理由は語ってはくれなかったが、こちらに何らかの違反があったわけではないことは繰り返していた。ともかく、以後しばらくはここで草原に入りたい、あの湿原に立ち寄りたいたいという様々な要望は、ロシアの研究者にギロリと睨まれて無言で却下され続けることになり、せっかくロシアに行きながらも自由に採集も撮影もできず、行動に制約を受ける状態が5年ほど続くことになった。

ロシア通いが最もエスカレートしていたのは30代の前半だった。多い年には5回ずつ、少ない年でも3回は出かけている。外国人登録にも次第に時間がかからなくなり、ロシアの内情が少しずつ変わっていることは実感していたが、その複雑な監視体制は、一介の訪問者には知りえなかったことだった。上記の2回の他にも、入国直後に「ビザに不備がある」との理由でホテルに軟禁状態に置かれたこともあった。ロシア科学アカデミーが発行してくれた「共同研究のための招待状」によって取得したビジネスビザで通っていたため、通常の観光ビザよりもずっと明快なはずだったが、お決まりの「直前に法律が変わった」である。二日間の軟禁中にロシアの研究者へのお土産に持参したウイスキーを空にしてしまい、以後は空港で会うなり「今、すぐにお土産を出せ」と言われるようになった。

私はロシア科学アカデミーの招待で出かけていたので、採集や標本の持ち出しについても許可が出ていることになっていたが、上記のビザの例にもあるように、実際にはロシア側でも正規の手続きが不明瞭になっていたし、日本人の採集ツアーのグループがハバロフスク空港で大量のチョウの採集品を没収されてからしばらくは、ウラジオストクでも昆虫採集の道具が監視対象になり、私もまた2週間分の採集品や、小学校6年生以来愛用してきたピンセットを失った。当時は私自身のパスポートも、出入国の際にカウンターで機械を通らなくなっており、私だけが列から離れて時間がかかることが続いたため、国境警備隊や軍に厄介になったことで、何らかの監視対象になっていた可能性がある。人によってはそうしたトラブルがもとで入国禁止措置が取られた例もあると聞いていたが、幸い私はその後も繰り返し通うことができた。こうした経験を通して、危険を避ける能力も生活力もまったく持っていなかった私でも、様々な調査を進めるための最低限の判断力を、次第に身に着けることができたように思う。

## 深い森へ

北シホテアリン山脈や南シホテアリン山脈の山中に遠征していたのは最初の数年間だけで、その後はハンカ湖に近い平原のなかに横たわるシニー山脈に通

うようになった。山脈といっても 1000 メートルに届くかどうかで、規模からいえば六甲山地のようなものだ。稜線に登る道などはなく、山裾から密林のなかを少しでも奥に入るのだが、かつて軍用トラックで木を伐り出した林道は、いずれも轍の跡がゲンゴロウモドキやミズカマキリが泳ぐ水たまりになっており、そこをたどりながら 1 時間ほど歩けば道も消えてしまう。何度も探索を繰り返すうちに、車が走ることができるしかりとした林道にも出会い、麓の村から 1～2 キロほど奥に入ることができるようになった。

まず造林地が存在していない。麓は薪をとり続けるのでモンゴリナラの二次林になっているが、その範囲を過ぎるとシナノキの仲間やチョウセンゴヨウマツ、モンゴリナラの巨樹が出てきて、林は極相に近づいてゆく。もっとも、売れ筋の木材だけを択伐で伐り出すことは広く行われており、特に直径が 1 メートル近いようなモンゴリナラは家具材として盛んに伐り出されている。日本で高級家具として知られる「ナラの 1 枚板のテーブル」などに使われてゆくのだろう。

虫たちは豊産しているのだが、森が深いので採集は難しく、鬱蒼と木々が繁る林道を歩いていると、見られる虫影は決して多くない。何度も通ううちに、1 種また 1 種とそれまで見たことがなかった虫たちとの出会いを重ねてゆくなかで、原生林の昆虫相の豊かさを少しずつ描き出していくことになる。クマゲラの姿を見ることは困難だが、朝にはその軽い声が梢に響き渡る。秋にはモンゴリナラの梢にツキノワグマのクマ棚が見られた。

ウスリーオオカミキリとコエレスティスルリボシカミキリという 2 種のカミキリムシは、それぞれが原生林の住人で、薪をとるような二次林では決して見られない。それぞれに会うまでに 10 年を要したが、今ではそれぞれの生態をある程度解明した。そうした虫たちとの出会いは専門誌に何度も書いてきたし、ここでは深入りしないが、そうした虫たちの探索があったからこそ時間をかけて歩き続け、ここまで森の表情を知ることができたことには触れておきたい。もし農業や林業の取材で行ったならば、20 年以上も通うことはなかったはずだ。

### 里山の歴史を問いかける

ロシアでは、農耕文化が異なる場所での里山の姿を日本と比較することで、日本の里山の歴史を描き出してきたことは先に述べたが、もうひとつ重要な視点があった。それは、高度経済成長を経る前の、豊かな里山の自然を知るという視点だ。1970 年代生まれの私は、すでに身のまわりにゲンゴロウがいた時代を知らない。但馬の山々には草原が広がっており、昔はあれもいたこれもいたという話ばかりを聞かされて育ったが、1990 年代に自身で探索を重ねても、すでにヒョウモンモドキやオオウラギンヒョウモンというチョウは兵庫県では絶

滅し、過去の存在になっていた。いくら丹念に探しても努力の問題ではなく、環境そのものが変わってしまっているのが絶滅していることも理解していた。ところが、ロシアには、日本では過去のものになった豊かだった時代の里山が残っていたのだ。

2001年頃までは、小さな半島の先端わずか3キロの範囲に、高層ビルが建ち並ぶ人口70万人の都市をつくりあげたウラジオストクの街の標識から外に出れば、そこには草地が広がりウシが歩いていた。最寄りの海水浴場では砂浜の後ろに後背湿地や草原が広がり、ヒメヒカゲが飛んでいたし、背後に広がるモンゴリナラの二次林には多数のヒメギフチョウが飛び交っていた。日本では、時を遡って高度経済成長前の「豊かだった」自然の姿を見ることはできないが、こうして日本海の対岸で日本の過去の状態をひとつずつ確かめていくなかで、持続的な自然環境とはどのようなものかを考え続けてきた。

冷戦の煽りを受けた世代として、子どもの頃からソ連あるいは社会主義という言葉に対して漠然と、得体のしれない怖さのようなものを抱いて育った。だが、その政治体制は、結果的に持続可能な自然環境を残していたのだ。

ところが2005年頃になると、ウラジオストクの街の出口にはトヨタ、三菱、スズキなどの車の販売場が並ぶようになり、数年前まで牛が歩いていたことも想像しがたいほど環境は変わり、バケツに入れたジャガイモを並べた露店は次第に姿を消して、2000年頃まではまず見かけることがなかった小ぎれいな食料品店も次々に登場するようになった。主要な国道ではバイパスが建設され、舗装される区間も延びてゆき、日本や韓国、中国の資本によって自然環境が食い潰され、様々な動植物が激減してゆく姿を目の当たりにしながら、日本の高度経済成長とはこのように進められたのかと思い知るようになった。

今にして思えば、ロシアに通い続けた日々は、冷戦によるいわれなき偏見を脱して、自分の眼で物を見て、判断し、考える術を身に着けてゆく過程でもあった。そこまで夢中になって日本海の対岸を歩き続けたが、ウクライナ侵攻によって突然に国交が途絶した今では再訪も叶わぬ場所になり、高齢になってゆく親しい研究者との、定期的な電子メールのやりとりが続くだけになった。

**著者略歴** 自然写真家、幼稚園から高校生までも三木市で育ち、25歳以降は山形県在住。著書に「白畑孝太郎」(無明舎出版)、「巨大津波は生態系をどう変えたか」(講談社ブルーバックス)、「里山危機」(岩波ブックレット)など。雑誌「月刊むし」での連載多数。

ブログ「世界のブナの森」<https://ameblo.jp/rosalia-coelestes/>は不定期更新。Facebook アカウントは「Yoshiyuki Nagahata」。

NPO 法人三木自然愛好研究会

ふるさと公園 4月の草花

# 三 愛 だ よ り

第 216 号 2022 年(令和 4 年) 4 月 14 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>

ショウジョウバカマ



## 2022『年間イベントスケジュール』のチラシが出来上がりました！

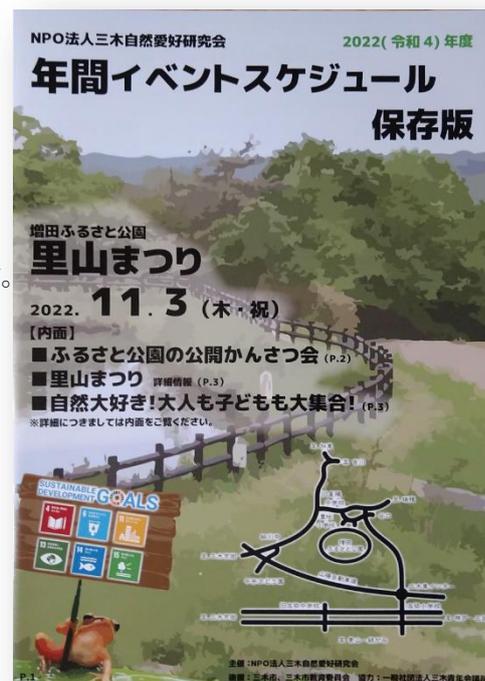
三愛研の 2022(令和 4)年度に行う市民対象の活動日程を示した二つ折りのチラシを今年も三木青年会議所の協力を得て作成しました。

昨年度と同じく、表(P.1)は 11 月 3 日のふるさと公園里山まつりを案内したデザインなので、右上に「2022(令和 4)年度」と記しています。内面 P.2 にはふるさと公園での公開観察会の案内です。これも昨年度と同じく基本的に第一日曜日に開催、年間 7 回を予定しています。公園の四季の生き物観察だけではなく出来るだけ「体験」も取り入れたふれあいの場にしたいと思っています。

P.3 は毎年好評を博している親子で行う自然体験・環境学習の案内です。遊びを通して田圃や川、里山などに住む生き物と触れあうプログラムを提供しています。このイベントは申込みと参加料が必要なので、P.4 にその申込用紙を付けています。「ふるさと公園里山まつり」は P.3 にも案内しています。コロナ禍で二年続けて中止となりましたが、今年こそは開催出来ることを願っています。

チラシは、市内小学校には教育委員会を通じて全児童配布、また、市内の公民館等の諸施設にも配布しています。

会員の皆さんには、身の回りの人や地域の方にも宣伝して頂きますように一部同封しました。更に必要があれば、市内諸施設に問い合わせるか三愛研の役員に直接お問い合わせください。(文責：横山)



### 市史編さん協力プロジェクト情報

### ～ 2022 年度の調査計画について ～

新三木市史編さん事業は資料編、本編、地域編の刊行計画が立てられ、進められています。地域編は 2019 (令和元) 年に口吉川編、2020 (令和 2) 年に志染編が刊行され、2021 (令和 3) 年には緑が丘編、吉川編が刊行。そして 2022 (令和 4) 年には三木編、青山編、2023 (令和 5) 年には細川編と別所編が、その後三木南編 (2024)、自由が丘編 (2025) の刊行が計画されています。

三愛研が協力しているのは、自然環境分野に係る調査研究です。この分野の資料編の刊行は 3 年後の 2025 (令和 7) 年度、本編は 2026 (令和 8) 年度の計画です。そこで今年度は、これまで進めてきた、ため池調査 (水生植物、魚類、トンボ類等) の精度を高め、データ数を増やしていくことと、野鳥調査、巨木・古木調査、植生調査等を平行して進めていく予定です。会員の皆さまには、調査の予定や報告を適宜お伝えしますので、可能な範囲での協力をお願いします。(文責：植田)

## 2022年3月～4月上旬の事業報告

前号に詳細報告済

- 3月5日(土) 虫の冬越し探検隊 9:00 集合 16名  
 3月10日(木) 三愛だより発送 市民活動センター 15:00～ 7名  
 3月15日(火) ゆるべ谷池現地視察 丸井先生(水辺ネット)、会員5名 →  
 3月28日(月) 年間事業パンフ仕分け作業 12名  
 3月31日(木) 三役会議 6:30～  
 4月9日(土) 公開観察会「春の野草観察と野草の天ぷら」10:00～(集合9:00)  
 会員20名、一般22名(合計42名)



## 報告

昨年に続き、検温の実施や調理は限られた会員が行うなど、コロナ対策を考えながら実施した。快晴に恵まれ、会員20名、一般22名、合計42名参加と盛況だった。

今年は例年になく春の芽吹きが遅く、公園のタカノツメなども動き始めたばかりだったが、そんな中でも多くの会員の努力でたくさんの食材が提供された。開会の挨拶の後、まず、テーブルの上に並んだ様々な山菜についての説明があった。

さらに、園内のザリガニ退治のもんどりに入ったセトウチサンショウウオ(カスミサンショウウオ)の幼生やバラタナゴ、カワバタモロコ(いずれも絶滅危惧種)の紹介があった。その後、軽く公園内の観察を行った。噴水池で栽培している大賀蓮のレンコンの様子も観察した。

園内観察の後には、お待ちかねの伊豆原会員を中心とする調理スタッフのお世話による山菜の天ぷらをたっぷり楽しんだ。(文責:北村)

持ち寄った山菜の説明を受け、天ぷらにして食す



## 4月9日(土) 理事会・活動推進連絡会 教育センター中研修室 14:30～

## 報告

4月9日(土)、午後2時半より教育センターの中会議室において理事会を開催しました。理事11人全員出席の下、2021(令和3)年度の事業報告および決算報告、2022(令和4)年度の事業計画および予算(案)が了承されました。また、新役員の立候補状況と承認手続きが了承されました。

2021年度はコロナ禍が収まらず里山まつりは中止になりましたが、それ以外の事業はほぼ予定通り実施することができました。新しい事業として共感ファンドの寄付金による卓上カレンダーの製作も委員会を立ち上げ、作業が順調に進んでいます。

2022年度予算案作成直前に、コープこうべ環境基金から2021年度に引き続き助成金決定の通知がありました。助成金のおかげで、環境学習に使う機器の購入や公園の保全活動に必要な資材などの購入を組み込んだ予算編成ができました。

議論の中で課題や問題点も指摘されました。赤字解消のための方策(参加費の値上げや経費節減の方法など)、後を絶たない盗掘や生き物採集の防止策、公園管理における三木市への要望・依頼等々、議論は白熱しましたが会場借用の時間制限があるため、結論には至らず課題として残りました。(文責:横山)

## ふるさと公園の「春一番」は…

## ふるさと公園だより

年明けから寒さ厳しく、長い冬だった。3月中旬には気温が20℃になる日もあったが、また冬に舞い戻り、ふるさと公園の野はためらうように春を迎えつつあった。しかし、南側に山を負うふるさと公園の山間には、なかなか春が来ない。

ふるさと公園の散策も3年目を迎え、勝手ながら春の指標としている生き物たちがいる。動物では、お馴染みのカスミサンショウウオ（セトウチサンショウウオと同定されたようだ）・ニホンアカガエルの孵化と成虫越冬から目覚めたホソミオツネトンボだ。植物では、ウグイスカグラ・シハイスミレ・ショウジョウバカマだ。



コバノミツバツツジ



ウグイスカグラ



ハグロシハイスミレ

3月14日、気温が21℃と一気に上昇したこの日、ニホンアカガエルのオタマジャクシがどんどん旅立ち始め、ウグイスカグラが2輪開花した（去年は2月19日に開花した後、31日までに開花はなくこの日本格的に開花し始めた）。そして、まだ青い新芽も見えない守池1号の縁をぶらぶら歩いていると、飛んだ、ルリシジミが飛んだ。「羽化したのか！まだ早いぞ。」と心の中で話しかける。もっと驚いたのは、成虫越冬するオツネトンボが、早占有行動をとっていたことだ。

その後、守池2号の柵の下に今年も1株のシハイスミレが申し訳なさそうに顔を出したのは27日。ショウジョウバカマも、蕾のまま花茎を伸ばし始めた。ハンノキの芽吹き。30日には、待ちに待ったホソミオツネトンボに出会えた。

4月の声を聞くや否や、気温がどんどん上昇し、ふるさと公園にも春が来た。コバノミツバツツジが一気に開花し、木々たちも芽吹き始めた。日に日に様変わりしていくふるさと公園で、今年はどんな生き物たちとその生態に出会えるだろうか楽しみになっている。（文章&写真：塩田）



セトウチサンショウウオの幼生



モンドリに入った魚類  
(バラタナゴ、カワバタモロコなど)



ヒメハギ



♂ アジアイトトンボ



4/13、ザリガニ退治のモンドリにウシガエル3匹、クサガメ1匹(噴水池)、セトウチサンショウウオの親1匹と幼生5匹(芋畑溝)がかかりました。

カメは溺死寸前でした。これからは要注意です。(北村)

### 三愛研 2022年4月中旬～5月 事業活動予定表

日	曜	4月 行事 他	日	曜	5月 行事 他
15	金		8	日	
16	土		9	月	 オツネントンボ
17	日	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>お知らせ</b> 2022(令和4)年度 通常総会の案内</p> <p>【日程】5月15日(日)</p> <p>受付 9:00～</p> <p>開会・来賓挨拶 9:20～ 9:40(20分)</p> <p>総会議事 9:40～10:40(60分)</p> <p>記念講演 10:50～12:20(90分)</p> <p>【記念講演】</p> <p>講師 角野康郎 先生</p> <p>演題 未定</p> <p>(三木市のため池に関わる内容)</p> <p>※ コロナ感染が収束していない状況下 なので、食事(弁当)の用意はしません。</p> </div>	10	火	
18	月		11	水	
19	火		12	木	
20	水		13	金	
21	木		14	土	ヤブシロハシトキ株数調査 8:40～公園集合 総会準備 15:00～市民活動センター
22	金		15	日	通常総会・講演会 9:00～市民活動センター
23	土		16	月	
24	日		17	火	 ホソミオツネントンボ
25	月		18	水	
26	火		19	木	
27	水	20	金		
28	木	21	土		
29	金	22	日	公園植生調査&部分草刈り 9:00～	
30	土	23	月		
5月		24	火		
1	日	25	水		
2	月	26	木	(三役会議)	
3	火	27	金		
4	水	28	土	 寒さに縮かむシロシ ゲルアオガエル	
5	木	29	日		
6	金	総会議案書・おもだか発送作業 14:00～ 活動推進連絡会 16:00～ 市民活動センター	30	月	
7	土		31	火	別紙にて、案内&参加申込 用紙を同封しています

【備考】 6/19 研修旅行(日帰り)～あびき湿原(加西市)

#### 山菜の天ぷらで春楽しむ

草花観察会に親子連れら40人

三木・増田ふるさと公園 説明した。

里山の原風景が残る増田ふるさと公園(三木市細川町増田)で、春の草花の観察会があった。親子連れら約40人が参加し、ワラビ、ハス、三つ葉などの季節の山菜を天ぷらにして楽しんだ。

同公園を管理しているNPO法人三木自然愛好研究会が主催し、9日に開かれた。同会の北村健理事長が山菜を紹介しながら「サンショウはいい香りで、ピリッとした独特の辛みが特徴」「ツバキは油に入れた瞬間に色が変わる」などと

4/13 神戸新聞



山菜の説明に耳を傾ける子どもたち＝三木市細川町増田

#### 新年度は会員数 83 名でスタート

昨年度は4名の入会者と4名の退会者で、年度末における会員数の増減はありませんでした。

2022年度に入り、新入会員の嬉しい知らせがありましたので報告します。

市内緑が丘町にお住いの藤田良雄さんと言われる方で、よくふるさと公園に写真を撮りに来られています。

新年度を迎え心強いスタートとなりました。

NPO 法人三木自然愛好研究会

ふるさと公園 5月の草花

# 三 愛 だ よ り



カザグルマ

第 217 号 2022 年(令和 4 年) 5 月 18 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>

## 報告

### 5/15 通常総会を 3 年ぶりに実施

コロナ禍により、昨年、一昨年と会員の皆さんの委任状をもって書面決議した変則的な総会でしたが、3 年ぶりにご来賓の方々をお招きして、市民活動センターで従来の総会を実施することが出来ました。議案は全て承認され無事終了したことを報告します。

コロナ感染は第 7 波と思われるような勢いで依然まん延している現状ですが、マスク着用や消毒など感染防止に留意して実施致しました。

司会の池田理事の第一声で定刻(9:20)どおり開会、北村理事長の開会の挨拶の後、お招きしたご来賓の皆さま(仲田一彦市長、大北由美教育長、村岡真夕子県会議員、泉雄太青年会議所理事長)より挨拶を頂きました。また欠席の堀元子市議会議員からのメッセージを司会が代読して披露しました。

その後、定足数の確認を行い、出席者 27 名、委任状数 24 名、合計 51 名で正会員の過半数を上回り総会が成立していることを確認して議事に入りました。



### 昨年度に引き続いて コープこうべ環境基金の助成が決定

議長に池田理事を選出して議事進行に移りました。2021 年度の事業報告・決算報告・監査報告(第 1 号議案～第 3 号議案)までを一括審議、北村理事長、横山副理事長、小阪監事が報告し承認されました。続いて 2022 年度事業計画案・予算案(第 4 号議案・第 5 号議案)が一括審議され、北村理事長、横山副理事長の説明の後、全て異議なく承認されました。事業計画ではほとんどがこれまでの事業を踏襲していますが、新しい事業として、貴重生物保全のため地元理解を求める働きかけを行うことや共感ファンドの原資で卓上カレンダーを制作することが加わっています。予算案ではコープこうべ環境基金の申請が昨年度に引き続いて通ったため、環境教育事業に使用する顕微鏡デジタルシステムの購入や、ふるさと公園の保全活動に使用するエンジンポンプなどの購入を組み込んだ予算が立てられていること、また三愛だよりやカレンダー・おもだか等の手渡し配布により送料(通信費)を削減したことなどの説明をしました。

第 6 号議案の新役員を選任については、高橋選挙管理委員長より経過報告を受けました。理事に 11 人、監事に 2 人の立候補があり、いずれも定数内であるためこの場で承認されました。承認後、新しいメンバーで理事会を別室で持ち正副理事長を互選、引き続き理事長に北村理事、副理事長に横山・植田理事が選出されました。

その後に予定されている記念講演があるという参加者の意識がはたらいてなのか、議事はほぼ定刻通り(10:43)終わることができました。

記念講演、角野康郎先生の「三木市の水草の現状と保全の課題」は、植田副理事長の進行で定刻通り始めました。記念講演の内容については P.2 に掲載しています。(文責:横山)

## 2022 年 4 月～5 月上旬の事業報告

4 月 9 日(土) 公開観察会「春の野草観察と野草の天ぷら」

10:00～(集合 9:00) 会員 21 名、一般 22 名(合計 43 名)

4 月 9 日(土) 理事会・活動推進連絡会 教育センター中研修室 14:30～ 理事 11 名全員出席

4 月 14 日(木) 三愛だより発送作業 市民活動センター 14:00～ 4 名

4 月 28 日(木) 三役会議

前号に詳細報告済

- 5月4日(水) 野鳥調査 蓮花寺 6:00~8:00 工先生、会員2名  
 5月6日(金) 議案書&おもだか発送 市民活動センター 14:00~ 9名  
 5月6日(金) 活動推進連絡会 市民活動センター 16:20~ 9名  
 5月14日(土) ヤブレガサモドキ株数調査 8:40 ふるさと公園集合 4名  
 総会準備 市民活動センター 15:00~ 8名  
 5月15日(日) 三愛研総会・記念講演 市民活動センター 9:20~12:30 会員27名出席、来賓4名



モウセンゴケ

## 記念講演

## 「三木市の水草の現状と保全の課題」

講師 角野康郎(かどのやすろう)先生

演題は「三木市の水草の現状と保全の課題」。まずは、水草とはどんな植物をさすのかという基本的なところから講演はスタートしました。ミズバショウやヒメガマ、ジュンサイなど聞き慣れた水辺の植物もあれば、水中と空气中(気中)で葉の形状が異なる(異形葉)水草があることや、湿地の植物(湿生植物)から水生植物までグラデーションしている植物を、どこで境界を引くかが非常に難しいことや、広義の水草から狭義の水草までであることもお話しいただき、水草の奥深さに興味深く耳を傾けました。

次に、三木市内の水草についての講演に入ると、会員の関心は益々高まったように感じました。三木市内には、98種(外来種13種)の水草が確認されていること。そして、そのデータは、本会会員の丸岡道行さんの調査研究結果が大きく寄与していることも話されました。さらに、水草の生育環境としては「ため池」が河川・水路、水田などに比べて、圧倒的に多いこともデータで示され、兵庫県は「ため池大国」といわれるくらいにため池の数が日本でもダントツに多く、その兵庫県内でも、三木市のため池数は淡路市、洲本市に次いで第3位であることが示されました。したがって、三木市も「ため池大国」といっても過言では無いと確信しました。

講演の内容が「三木市の地質」と「ため池の水草」に入ってくると、益々興味深く感じられました。三木市は神戸層群と(第三紀)大阪層群(第四紀)が両方見られる地域であり、水草の出現種と地層の間に相関関係が見られるかもしれないという視点が示され、今後のため池調査への動機がグンと高まる思いになりました。さらに、「ため池群」が植物の多様性を支えるという観点に触れ、ため池に対する認識が一段と深まりました。

先生は過去に三木市のため池をくまなく調査されており、その時と現在との比較によって、三木のため池が大きく変化してしまった例も具体的に指摘されました。そして、私たちに何ができるか?という問いから、「放置することが保全ではない!」こと、つまり、人の営み、かく乱(人為的、自然)の重要性や「外来生物問題への視点」で全ての外来種が生態系等に悪影響を与えるわけではないという見方を示されました。私は「責任ある飼育、栽培が行われていれば問題はおこらない。」という言葉に一つの展望が示されたように感じました。「悪いのは外来生物ではない。責任は人間にある!」を常に忘れないようにして、三愛研の活動を続けていきたいと肝に銘じました。

3年越しの待ちに待った角野先生の講演に90分の時間があっという間に過ぎました。お忙しい中、私たち三愛研の会員のために三木の地まで来ていただき、ありがとうございました。今回の講演内容を今後の調査活動に活かしていきます。(文責:植田)

## ～プロフィール～

1952年 京都府生まれ、高校は、柏原高校(丹波市)の卒業。京都大学理学部卒業、同大学院博士課程に進学し、「日本産ヒルムシロ属の比較生態学的研究」で理学博士。神戸大学助手、助教授を経て、大学院理学研究科(生物多様性講座)教授を務め、4年前に退職、現在、神戸大学名誉教授。



## 春は駆け抜けて～芽吹きから深緑へ～

ふるさと公園だより

4月上旬、あれほど硬かった木々の冬芽たちが一斉にほころび始めた。4月中旬、形状も色彩も個性的な芽吹き of 共演を愛でる間もなく、下旬には早、新緑。茶色かった山が緑一色に変わるのに2週間もかからなかった。

木々が大急ぎで葉を広げると同時に、花も咲き始めた。白っぽいナツグミが一番乗り、サルトリイバラ、コバノガマズミ、アオダモ、カマツカ…などは控えめながら、ヤマツツジの赤、モチツツジのピンクが目を引く。とっと思っていたら、5月に入ると、早花びらは落ち、小さな実ができて始めているものもある。「早く熟して種を作らなくっちゃ！」とでも言っているかのように、木々たちの結実の何と早いことか。5月中旬、すでに深緑の季節。守池2号緑の道に覆いかぶさるように枝を伸ばすエゴノキの花が見ごろを迎えている。

西の池の堤にはツチグリ、ビオトープ方向へ歩を進めるとミヤコグサ、溝の向こうには食虫植物のモウセンゴケやイシモチソウ。どれも希少種ながら、今年もふるさと公園では健在、いや、むしろ増えているように思える。



4/13 芽吹き

5/12 新緑

ひと目 たてば..

サルトリイバラの花

ナツグミの花

ヨツボシトンボ

サルトリイバラの実

ナツグミの実

### ヨツボシトンボが現れた

今年も、ふるさと公園では、3月にオツネトンボが飛んで以来、すでに15種以上のトンボが現れている。守池1号、噴水池、マコモ池を飛ぶトンボたちの楽しそうなことと云っていい。カメラを収めて、じ〜と視ているのが最近の習慣になりつつある。4月22日のことだった。飛んでいる、飛んでいる、黄色く艶やかなトンボが！「ヨツボシトンボ」だった。ベッコウトンボの近似種らしいが、3年ぶりに出会えた希少種である。

理事長のザリガニ駆除も3年目に入り、3つの池での捕獲数は確実に減ってきている。今は、幼体の捕食者がいない溝を中心に場所を変えつつの駆除作業が続いている。（文&写真：塩田）



ショウジョウトンボ♀の羽化

トラフトンボ♂の羽化

シオカラトンボ♀の羽化

### 三愛研 2022年5月中旬～6月 事業活動予定表

日	曜	5月 行事 他	日	曜	6月 行事 他
16	月		8	水	~機関誌「おもだか」の原稿を訂正します～ この度のおもだかの投稿「トンボの不思議アラカルト」に、「アオイトトンボ科は翅を広げて止まる」(P. 22)と記載しましたが、同じ科の成虫越冬するオツネントンボとホソミオツネントンボは翅を閉じて止まります。(塩田尚子)
17	火		9	木	
18	水	三愛だより発送作業 15:00～	10	金	
19	木		11	土	
20	金		12	日	
21	土		13	月	
22	日	公園植生調査と部分草刈り 9:00～	14	火	
23	月		15	水	豊地小3年環境学習② 10:40～11:50
24	火		16	木	
25	水		17	金	
26	木	(三役会議)	18	土	
27	金		19	日	研修(あびき湿原) 8:30 教育センター前集合
28	土	アオスジアゲハ	20	月	まだOKですよ!
29	日		21	火	
30	月		22	水	
31	火		23	木	
6月			24	金	環境学習準備 14:00 ふるさと公園集合
1	水	キンラン      ギンラン	25	土	環境学習「水の中の生き物大発見」 9:30～12:00 会員集合 8:00
2	木	活動推進連絡会 19:00～教育センター	26	日	用具・器材の運搬、子どもの観察補助や 安全確保のため多くのスタッフが必 要です。皆様のご協力をお願いします。
3	金		27	月	
4	土		28	火	
5	日	公園観察会&サツマイモ苗植え 会員 9:00	29	水	
6	月		30	木	(三役会議)
7	火				

【備考】ジャガイモ掘り：6/1～6/4(天候見て判断)

#### 会員情報

先日増田のため池のヤブレガサモドキの株数を見てきました。

317株出ていましたが、夏に草に覆われて光合成ができなくなるためか、葉が2枚出て花茎をつける株はほとんどなかったです。

図書館裏のキシダマムシグサは親株と移植株をあわせて13株で、移植株は6株が花をつけ6株が葉だけでした。

写真上は2月に播種したヤブレガサモドキの発芽で、丸い葉の子葉が1枚です。

広野4のホソバニガナの池(広野小の南南東)に寄ってきました。昨年秋に生育地が残土で埋められてしまいましたが、今日探してみても一角に9株だけですが残っていたので安心しました。ノニガナとコイヌガラシ(いずれも県C)はたくさん残っています。(4/28 丸岡道行)

広野の池に残っていたホソバニガナ



2月に播種したヤブレガサモドキの発芽



# 三 愛 だ よ り

第 218 号 2022 年(令和 4 年) 6 月 16 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>



ミドリシジミ ♂

## 報告

### 6/5 ふるさと公園公開観察会「初夏の公園観察とサツマイモ植え」

6 月は環境月間。特に 6 月 5 日は「環境基本法」で環境の日と定められていることをこの原稿を書くにあたって知りました。

田植えの終わった水田を吹き渡る心地よい風、ホトトギスの鳴き声「テッペンカケタカ」はふるさと公園に初夏の訪れを知らせていました。

9 時に集合した会員は、サツマイモ植えの準備、草刈り、刈り取った草の焼却、階段補修、ジャガイモと玉ねぎの販売準備、水質調査のグループに分かれ、観察会が始まるまでの約 1 時間それぞれ作業を行いました。

公開観察会には 4 家族 9 人の参加があり、北村理事長のあいさつの後、もんどりに入ったかわいいセトウチサンショウオ、ザリガニとマムシを紹介。息途絶えているマムシに興味を持って近寄る人、後ずさりする人、初めから近寄らない人など反応はいろいろ。参加者は満開のササユリの香りを嗅いだり、モチツツジを触ったり（ネバネバは花粉媒介に関わる以外の昆虫を捕殺して花を昆虫に被害されるのを防ぐためらしい、ということもこの原稿を書くにあたって確認）、また、ミドリシジミを見つけたり、エゴノキの虫こぶ、モウセンゴケ、ツマグロバタ、大賀ハスのツボミなど初夏の里山を五感で楽しみました。

そのあと、間に合うかが心配されたサツマイモは日頃の行いの良さからか無事に入手でき、150 株を畝に張られたマルチに付けられた印に手分けして植えつけました。10 月 2 日の収穫が楽しみです。また、ふるさと公園で収穫されたジャガイモ、玉ねぎを格安価格で販売。伊豆原会員による小あじの南蛮漬けで口福（こうふく）を感じた初夏の増田ふるさと公園公開観察会でした。（文と写真：米村）



もんどりに入っていたザリガニとマムシ。どちらもふるさと公園にとっては迷惑な生き物たちです。



観察会に参加した子どもたちに、植物の名札を付けてもらいました。



観察会に先だち、守池 2 号の堰堤の急な斜面に階段を設置して散策路を整備しました。



今年のササユリの開花株は咲き終わりや蕾も含めて 37 本でした。ここ数年衰退していたが、ちょっと復活してきたかな？



今年も 100 本ほどのサツマイモのつる苗を皆で植えました。秋の豊作を願って！

## 2022年5月～6月上旬の事業報告

- 5月4日(水) 野鳥調査 蓮花寺 6:00～8:00 工先生、会員2名  
 5月6日(金) 議案書発送 市民活動センター 14:00～ 会員10名  
 5月6日(金) 活動推進連絡会 市民活動センター 16:00～  
 5月14日(土) ヤブレガサモドキ株数調査 8:40 ふるさと公園集合 会員5名  
 総会準備 市民活動センター 15:00～ 会員9名  
 5月15日(日) 三愛研総会・記念講演 市民活動センター  
 出席(27)、委任状(24) 会員数(84)  
 5月18日(水) 三愛だより発送 市民活動センター 15:00～ 会員7名  
 5月22日(日) ふるさと公園植生調査と部分草刈り 9:00～ 会員10名



前号に詳細報告済



調査の段取り



2人5組に分かれ、それぞれの調査区を調査する



調査後、指定の場所を草刈りする

- 5月26日(木) 三役会議  
 6月2日(木) 活動推進連絡会 教育センター 19:00～ 12名  
 6月3日(金)・4日(土) ジャガイモ収穫 8:00～  
 6月5日(日) ふるさと公園公開観察会「初夏の公園観察とサツマイモ植え」10:00～12:00 (会員9:00)  
 会員18名、一般9名、プランツネーム付け、ジャガイモ販売 200円/kgで販売、  
 水質調査(ふるさと公園のため池4か所と志染川1か所のCOD調査)

詳細は前ページに記載

6月5日は世界環境デー(環境の日)です。この日を中心に、2004年より「身近な水環境の全国一斉水質調査」(全国水環境マップ実行委員会)が実施されています。三愛研もこの調査に参加しました。

調査は、パックテストを用いてCOD(化学的酸素要求量)を測定することで水中の有機物量(有機性汚濁)の指標として適用されています。調査値は標準色と比較して読み取り、0,1,2,3,4,5,6,7,8以上の9段階で表します。

この度実施したふるさと公園のため池は、4か所とも測定値が8以上で有機物がかなり多い状況でした。また、志染川御坂サイフォン下の合流地点では測定値5でした。川の水は水田の落水でかなり濁っていました。(文責:横山)

藤田 良雄 さん

～今年4月に、新しく入会された会員を紹介します(自己紹介)～

三木市緑が丘町に住む、多趣味な高齢者(70歳)です  
 仕事をリタイアしてやっと、三愛研の活動に参加出来るようになりました。  
 どうぞよろしくお願いいたします。

新入会員紹介



因みに、10年以上続いている趣味は、金魚飼育(らんちゅう)、蝶・山野草の撮影、雪割草、バイクなど..

最近は、スマレとトンボに凝ってる、変なジジイです。 藤田 良雄

## 6月ゼフィルスとカミキリムシの季節です

ふるさと公園だより

夏日になったり涼しかったり、今日は何を着ればいいのかというような5月下旬から6月初旬を経て、中旬はさすがに夏モード。昨年の梅雨入りは5月16日だったが、今年は6月14日、近畿地方にもやっと梅雨入り宣言が出たが、これは人間サイドのこと。しかし、本当にどこでどう感じているのか自然界で生きる生き物たちは季節を間違わない。ササユリの開花について言えば、一昨年は5月31日、昨年は5月25日、今年は5月28日が初開花だった。

昨年同様、今年も「ゼフィルス」と呼ばれるシジミチョウがお目見えしている。ゼフィルとは、狭義にはミドリシジミ亜科ミドリシジミ属で、種がとても多い。広義には、樹上性のシジミチョウで年1回初夏から盛夏に発生するものを指すようだ。ふるさと公園では、ミドリシジミ・ミズイロオナガシジミ・ウラキンシジミ・アカシジミ・ウラナミアカシジミを確認しているが、ウラナミアカシジミには今年は見えていない。来園者にお訊ねしたところ、ミドリシジミがよく集まるイソノキ周辺にいたということだったので、今年も発生していることに間違いはなさそうだ。セセリチョウ・ヒョウモンチョウ・ジャノメチョウも季節を迎え、園内を飛び回っている。トンボたちは言うまでもなく、小さな昆虫やクモたちも葉上や葉裏にたくさん潜んでいる。

### ゼフィルス(シジミチョウ)の仲間



ミドリシジミ ♀



ウラキンシジミ



アカシジミ



ミズイロオナガシジミ

そ・し・て、夏。暑い暑いこの季節でも元気っぱいの代表は、「カミキリムシ」かもしれない。理事長が見つけたキイロトラカミキリには出会えていないが、5月下旬から出会ったカミキリムシは6種。カミキリから連想すると、大きな顎の獰猛な昆虫かと思いがちだが、意外と小さいのも多い。今年見つけた「ハンノキカミキリ」は、結構珍しいようで、背中の中ハート模様も愛らしい。

ふるさと公園の目玉、チョウトンボの乱舞やカキランの群生が見られるのも、もうすぐ！早朝より来園者が訪れるふるさと公園、その知名度は高まってきているように思う。(文&写真：塩田)

### カミキリムシの仲間



ゴマダラカミキリ



ヘリグロリンゴカミキリ



トゲトゲトラカミキリ



ハンノキカミキリ



キクスイカミキリ



アトモンサビカミキリ

### 三愛研 2022年6月中旬～7月 事業活動予定表

日	曜	6月 行事 他	日	曜	7月 行事 他
15	水		8	金	
16	木		9	土	
17	金		10	日	
18	土		11	月	
19	日	研修(あびき湿原) 8:30 教育センター前集合	12	火	
20	月	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px;">                     用具・器材の運搬、子どもの観察補助や                      安全確保のため多くのスタッフが必要で                      す。皆様のご協力をお願いします。                 </div>	13	水	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px;">                     最低 10 人は必要です。専門知識が                      なくても皆で解決。ご協力よろしく！                 </div>
21	火		14	木	
22	水		15	金	
23	木		16	土	
24	金	環境学習準備 14:00 ふるさと公園集合	17	日	ふるさと公園植生調査 9:00～
25	土	環境学習「水の中の生き物大発見」 9:30～12:00 会員集合 8:00	18	月	 <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         ふるさと公園にカキランやオ                          カトラノオが咲き始めました                     </div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         このイベントも多くの                          スタッフが必要です。                          時間等の詳細は次号                          でお伝えしますので、                          ご協力をお願いします。                     </div>
26	日	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px;">                         参加 まだ OK ですよ！                          定員(子ども 20 名)に達していません。会員のお                          孫さん、近所の子供さんに案内してください。                     </div>	19	火	
27	月		20	水	
28	火		21	木	
29	水		22	金	
30	木	(三役会議)	23	土	
7月			24	日	
1	金		25	月	
2	土		26	火	
3	日	ふるさと公園観察会「梅雨の公園観察会」	27	水	
4	月		28	木	(三役会議)
5	火		29	金	「親子川がき教室」準備
6	水		30	土	「親子川がき教室」
7	木	活動推進連絡会 教育センター 19:00			

【備考】7月9日(土) or 10日(日) さんだネイチャークラブがふるさと公園来訪

#### 会員情報

#### クリンソウを見てきました！

5月末神戸新聞の地域版に掲載されていたクリンソウの記事を見て、以前から気になっていた宍粟市のちくさ高原へ行ってきました。ちくさ高原は30年ほど前、ナイタースキーに足しげく通った場所。三木からだ中国自動車道山崎インターチェンジで降り、県道53号、県道72号を通過して約1時間40分。ちくさ高原キャンプ場の道路向かい側にクリンソウの国内最大級の群生地、ちくさ湿原群生地があります。標高850mの高原でヒノキが植林された明るい日陰の水辺は肥沃な土地でもなく、ほかに咲いている植物がほとんどありませんが、明るいピンクのクリンソウは鮮やかに咲いていました。見ごろは6月上旬まで。

目的地の途中にある道の駅ちくさで「ちくさまんじゅう」や「あまごフライ定食」も楽しめます。(文と写真:米村環)



NPO 法人三木自然愛好研究会

# 三 愛 だ よ り

第 219 号 2022 年(令和 4 年) 7 月 14 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>

ふるさと公園 7月の鳥



カワセミ

レポート

## 6/25 「水の中の生き物 大発見」が無事終了

6月25日(土)、今年も「水の中の生き物 大発見」の事業を細川町脇川にある教海寺及びその周辺で実施した。親子合わせて33名の参加があった。曇り一時雨の予報が続いていたが雨は降らず、さらに強い日差しが雲にさえぎられてかえって幸いだった。

本堂前の広場で開会后、そばのお堀でプランクトン採集の実演を行った。このお堀で展示生物を採集しようと網を入れたときにカワバタモロコ(絶滅危惧種)やドンコなどが生息していることが分かった。また、ここにはコウホネ(移植)やミクリなども生育しており、ショウジョウトンボやコシアキトンボなど多くのトンボ類が見られる生物多様性が高いお堀であることも分かった。

6/27 神戸新聞

次に庫裏横のお堀に移動。ここは一昨年まではミクリやヒツジグサなどの水草がびっしりと生え、本堂そばの堀よりも自然度が高いところだったが、残念なことにザリガニの侵入によって壊滅してしまった。地元の住人が1年間にわたりザリガニ駆除を行ったが、水草の復活はかなわなかった。ここでは予想通りアメリカザリガニ以外はほとんど採集できなかった。そこで早々にあきらめて、湧き水の流れる溝に移動してプラナリアなどを採集した。続いて小川で魚やハグロトンボのヤゴなどを採集した後、集会所に戻った。ここで展示生物の解説を受け、その後集会所の中で顕微鏡観察を行った。新型コロナ対策のため昨年同様スクリーンに映す方法で行い、プラナリアやツツトビケラ、ミジンコやテマリワムシなどを観察した。この時、コープこうべ環境基金で購入したデジタル顕微鏡システムが活躍した。

展示生物: アカミミガメ、クサガメ、アカハライモリ、セトウチサン、ショウウオ、カワバタモロコ、バラタナゴ、モツゴ、フナ、ドジョウ、ヤゴ類、コバントビケラ、ハウネンエビ、カブトエビ(文責: 北村)

池で見つけた生き物を観察する子どもたち  
=三木市細川町脇川



水中の生き物を観察するイベント「水の中の生き物大発見」が25日、三木市細川町脇川の教海寺周辺であった。市内外の子どもら約50人が参加し、ヤゴやプラナリアなどに触れて楽しんだ。NPO法人三木自然愛好研究会が主催。参加者は池でザリガニやエビを観察した後、湧き水の下の流入移動、再生能力のある「プラナリア」探しに励んだ。澄んだ水に手を入れ、石の裏や溝の中に目を凝らしていた。

三木・教海寺周辺

## 児童ら水中生物観察

続いて川では、小魚やヤゴ、ミスカマキリなどを発見。子どもたちは「一目見ても」と歓声をあげたり、「これ何?」と尋ねたりしていた。採集を終えると、顕微鏡を使ってプラナリアやフナクワンなどを詳しく観察した。市内の小3~5年、国島劉備君(9)は「エビやヤゴがたくさん捕れて楽しかった」と話していた。(小野明海)

ザリガニの堀になってしまった庫裏横の堀



デジタル顕微鏡システムを用いて微生物を観察する



小川での魚取り



ハウネンエビが光に反応する実験



デジタル顕微鏡システムを用いて微生物を観察する

## 2022年6月～7月上旬の事業報告

6/5 (日) ふるさと公園公開観察会「初夏の公園観察とサツマイモ植え」までは、前月号に掲載済みのた

6月15日(水) 豊地小学校3年環境学習(第2回) 夏の様子 10:00～11:10 スタッフ3名

まず、向山会員が「ふるさと公園」で見られるチョウについて標本を用いて解説、続いて北村理事長からザリガニ退治の報告をした後、園内を観察した。

### 【観察できた生物】

もんどり：セトウチサンショウウオ(幼生)、ザリガニ、  
ドジョウ、メダカ、スジエビ、ドンコ、フナ  
昆虫：ミドリシジミ、ウラギンスジヒョウモン、  
チョウトンボ、ヒカゲチョウ、ハラビロトンボ、  
キイトンボ、モノサシトンボ、  
植物：スズサイコ、カキラン、イシモチソウ、  
モウセンゴケ、エゴノキ(エゴノネコアシ)



6月19日(日) 会員研修(日帰り) 網引湿原 教育センター集合 8:30

現地集合2名を含めて16名参加。 南網引公民館 9:30

詳細は P.4 に記載

山下会長らはヒメヒカゲ調査に青野ヶ原演習場へ向かい、柴田会員と尾内元会長の案内で網引湿原を見学。公民館での昼食の後、もう1か所の非公開の湿地を見学した。モウセンゴケ、トウカイモウセンゴケ、ハッチョウトンボ、ノハナショウブ、ササユリ、などがたくさん見られたが、トキソウは花季が過ぎており、1株だけに花が見られた。

6月24日(金) 会場準備・草刈り ふるさと公園集合14:00 7名

大塚町よりテント、長机を借りる。ふるさと公園よりテント、テーブル、採集用具など運ぶ。

6月25日(土) 「水の中の生き物大発見～小さな生き物を顕微鏡で見よう～」

9:30～12:00(受付9:00～ 会員集合8:00)

参加者 33名(子供12, 大人14, 幼児7)、会員14名

詳細は P.1 に記載

6月30日(木) 三役会議 19:00～

7月2日(土) ため池調査 細川町中里 8:30～12:00 会員:4名、水辺ネット:丸井氏、鈴木氏

7月3日(日) 「増田ふるさと公園」観察会「梅雨の公園観察会」

10:00～(会員集合9:00) 会員9名、一般5名

詳細は P.3～4 に記載

7月4日(月) ため池調査 口吉川町東・蓮花寺 13:00～17:00 会員:5名、水辺ネット:丸井氏

7月6日(水) 豊地小3年環境学習 10:40～11:50 スタッフ2名、

ベニイトトンボ、キイトトンボ、モノサシトンボ、チョウトンボなど、ゴイシジミ、セトウチサンショウウオ、ヒメタイコウチ、トリノフンダマシなど

7月7日(木) ため池調査 志染町戸田の潰池周辺 13:00～17:00 会員:5名、水辺ネット:丸井氏

活動推進連絡会 教育センター 19:00～ 8名

7月9日(土) さんだネイチャークラブがふるさと公園来訪 10時過ぎ～12時過ぎ

来訪13名(虎谷、田中、菊田ほか)、三愛研対応:3名

7月11日(月) ため池調査 別所町広野・三木地区 8:30～17:00 会員:4名、水辺ネット:丸井氏

7月13日(水) ため池調査 吉川町湯谷 8:30～12:00 会員:6名、水辺ネット:丸井氏

## 酷暑！昆虫たちはお休みモード！？

### ふるさと公園だより

6月28日、近畿地方も梅雨が明けた。わずか2週間の梅雨。しかも空梅雨だった。「梅雨明け10日」は、太平洋高気圧に覆われ夏型の気候が続くが、通常7月下旬である。今年は、それが6月下旬やってきた。梅雨明け宣言もない6月22日から気温は連日30℃越え、日に日に上昇し、35℃前後の日が続く。もう暑いと言うより熱い。この早すぎる酷暑のためか、ふるさと公園で見かける昆虫が少ない。暑すぎて、木陰や葉裏でじっとしているのか？そもそも羽化できないのか？理由はよく分からないが、少ない。

しかしながら、ふるさと公園特有のチョウトンボの乱舞は、今年も噴水池で9時～11時台を中心に見られる。この占有行動以外は、けっこうゆっくり目な動きのせいか、クモや他のトンボに捕食されている姿に今年はよく出会った。みんな生きるのに必死だ。

また、ベニイトトンボやゴイシシジミ、シルビアシジミといった希少種が、今年も出現し、来園者を楽しませてくれている。

<特記事項>

- 6月26日、コムラサキが飛んだ（食草はヤナギ科、ヤマナラシの辺り）
- 7月6日、カワセミの狩り（守池2号、果敢に飛び込む。ヒット率は高い。）
- オミナエシ・カワラナデシコ・キキョウが咲き始めた。
- ザリガニの捕獲数は減ってきている。守池2号で水草の移植中。（文&写真：塩田）



大賀ハスの蕾でひと休み  
台湾ウチワヤンマ（左）  
チョウトンボ（右）

キイトトンボ（左）とベニイト  
トンボ（右）が仲良くツーショット

翅裏に黒い斑点があるシルビア  
シジミ（左）とゴイシシジミ（右）

### レポート

## 7/3 ふるさと公園公開観察会「梅雨の公園観察」

近畿地方の梅雨は、6月28日に明けた。平年よりも21日早く、昨年よりも19日早い。統計開始以来最も早い梅雨明けで、梅雨期間14日間は、1958年の17日間を更新し、過去最も短い梅雨となった。

さて、台風4号の影響による3日早朝からの雨や、KDDIの大規模通信障害による影響も心配されたが、当日は雨もあがり無事に10時の観察会の開会を迎えることができた。この時期らしい蒸し暑さのなか、一般5名、会員9名の参加があり、北村理事長を先頭に約2時間、豊かな里山の自然に触れながら、公園内の散策を楽しんだ。

スズサイコ、ユウスゲ、オカトラノオ、キキョウ、カキラン、ガガブタの花に目をとめ、これから咲くタヌキマメ、フジバカマ、カワラナデシコ、リンドウの花に思いを巡らせ、水中生物のフタスジサナエのヤゴ、タニシ、ドジョウ、セトウチサンショウウオ、モツゴ、ドンコ、ザリガニ、コバントビケラ、カワバタモロコを確認。また、シオカラトンボ、ベニイトトンボ、キイトトンボ、ハラビロトンボ、モノサシトンボ、クロイトトンボ、ショウジョウトンボ、チョウトンボの乱舞も見ることができた。

また、大賀ハスを見ながら参加者から、ハスやヒシの種を食べた話を聞き大いに盛り上がった。機会があれば、ハスの種を味わってみたいと思った梅雨の観察会だった。

【追記】このレポートを書くときに、インターネットで「赤トンボはなぜ赤い」と検索すると、動物で初めて見つかったトンボが色を変える方法は、体に持っている色素を、酸化型から還元型に変えることで変化させるという記事がありました。(文と写真：米村)



雌雄？ 仲良く？

もんどりの中に入っていた  
ドンコとカワバタモロコ

## レポート

### 3年ぶりの研修旅行～網引湿原へ～

6月19日(日)、3年ぶりに研修旅行を行うことができた。

朝8:30分に教育センターに集合した会員14名は、3台の自家用車に分乗して、いざ「網引湿原」へ。南網引町公民館で2名の会員と合流し、16名での研修会となった。

公民館では「あびき湿原保存会」の山下会長から挨拶と希少種の説明を受ける。湿原は1～4まであり、4は自衛隊の保全活動への協力により整備が進んでいるということだった。なので、この日の研修は1～3までの湿原ということになった。

スタッフの柴田さんの案内で、奥池の下流にある湿地1と上流にある湿地2・3を散策していく。どの湿地でも、モウセンゴケ、トウカイコモウセンゴケ、カキラン、ノハナショウブ、ササユリが見られた。湿地の「三種の神器」とされているヒメタイコウチ、トキソウ、ハッチョウトンボについては、残念ながらヒメタイコウチには出会えず、トキソウは花期を過ぎ1株を確認しただけだった。しかし、さすがにハッチョウトンボはたくさん飛んでいた。捕虫籠にいるのを見たことはあったが、生で飛んでいる姿を見るのは初めてだった。1円玉ほどの大きさなので、初めは教えてもらうまで見つけれなかったが、慣れてくるとここにも、そこにも見つけれられる。ここまで小さいのかと改めて実感する。小さいので、すぐに止まるし、また同じところに戻ってくる。が、ここまで行動範囲が狭いと他の生き物に狙われやすそうだと心配してしまう。

一通り散策が終わってから、休憩がてらネイチャリストで昨年まで保存会の顧問をされていた尾内さんを囲んでの質疑応答の時間が設けられた。北村理事長が、ふるさと公園のガガブタ消滅について訊ねられたが、原因は特定できず、おそらく複合的な要因が絡み合った結果なのではないかと考える。守池1号から噴水池に十分な水が落とせないために豊栄養になったのか、他の植物に酸素を取られて酸欠状態になったのか、はたまたヌートリアに殖芽を食べられたからか…？

昼食を挟み、午後は別のところに案内していただいた。そこは、モウセンゴケとトウカイコモウセンゴケ、そしてハッチョウトンボに特化されたような湿地だった。運のよいことに、幹を伐採されたソヨゴにアオマダラタマムシが数匹いた。枯れ木や倒木に産卵し、幼虫はその材を食べ成長するという。

あびき湿原は、ふるさと公園とは環境が異なる。環境が異なると生息、生育する動植物が違ってくることや、その動植物を保存すべくたくさんの方々の熱意や労力があることを改めて感じた研修旅行であった。また、ふるさと公園の環境維持のために今必要なことは何だろうかと考えた研修旅行でもあった。(文：塩田)



ハッチョウトンボ 左:♂ 右:♀

### 三愛研 2022年7月中旬～8月 事業活動予定表

日	曜	7月 行事 他	日	曜	8月 行事 他
16	土	三木市内の植生調査 武田先生 8:30~	8	月	 <p>アオマダラタマムシ</p>
17	日	ふるさと公園植生調査 9:00~	9	火	
18	月		10	水	
19	火		11	木	
20	水	ため池調査 吉川町法光寺 8:30~	12	金	
21	木		13	土	
22	金		14	日	
23	土		15	月	
24	日	ため池調査 別所町細谷池他 8:30~	16	火	
25	月		17	水	
26	火		18	木	
27	水		19	金	
28	木		20	土	
29	金	「川がき教室」準備 大塚ふれあい広場 15:00~、 (三役会議)	21	日	
30	土	「親子川がき教室」スタッフ集合 8:00	22	月	
31	日	ため池調査 吉川町富岡・新田 8:30~	23	火	
8月			24	水	
1	月		25	木	(三役会議)
2	火		26	金	
3	水		27	土	
4	木	活動推進連絡会 19:00~ 教育センター	28	日	
5	金		29	月	
6	土		30	火	
7	日		31	水	

**「親子川がき教室」にご協力をお願いします!**

コロナ感染第7波が心配される中ですが、今年も昨年同様に食事部分を除いて実施することになりました。

用具・器材の運搬や設置、子どもの安全監視に多くのスタッフが必要です。

ご協力いただける方は、担当の植田まで連絡をお願いします。



#### 市史編さん協カプロジェクト情報

#### ～7月のため池調査・中間報告～

7月は、これまでに右の表のとおり、5日間のため池調査を実施した。これまでに調査した池に加えて、新しい池も追加して調べた。調査の結果、多様な水草が維持されている池もあったが、急に水草がなくなっている池や、工事で水が抜かれ、早急に貴重な水草の一次避難を必要とする池も確認できた。また、太陽光発電施設で水面が被われ、水草が全く無い池でも、モンドリに大量のタモロコが入る池や、水草は無いが、モツゴやフナ、コイの稚魚などが沢山生息している池もあることが分かった。太陽光発電施設にしる、水草のが見られない池にしる、人の管理がなされているため池には、在来の生き物がかなり存在し続けているような印象を受けた。これからも調査を継続することにより、確実にデータ量を増やし、三木市のため池の現状をより詳しく記録することができると確信できた。7月は今後4日間の調査を計画している。(文責：植田)

月日	曜日	日数	ため池調査	人数	調査地
7月2日	土	0.5	午前調査	6	細川町中里ため池群
7月4日	月	0.5	午後調査	6	口吉川町東・蓮花寺
7月7日	木	0.5	午後調査	6	志染町戸田漬池周辺
7月11日	月	1.0	全日調査	5	別所町広野・三木地区
7月13日	水	0.5	午前調査	7	吉川町湯谷

NPO 法人三木自然愛好研究会

ふるさと公園 8月の花

# 三 愛 だ よ り

第 220 号 2022 年(令和 4 年) 8 月 10 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>

コオニユリ

報告

## 親子川がき教室～川の生き物と触れ合おう～

8/4 神戸新聞

前日の7月29日(金)には午後3時から大塚ふれあい広場倉庫からテントや机、パイプ椅子等を借り、会場の御坂神社境内へ運び込み、仮設更衣室の資材の準備。当日は、会員スタッフが8時に御坂神社に集合し、当日準備を完了。予定通り、9時半から親子川がき教室を開会しました。

この川がき教室については、1998年に開催した「川と山の秋を満喫しよう」が第1回でした。しかし、第1回の内容が多すぎたため、川の行事(川がき教室)と山の行事(秋を味わう会)に分けて開催するようになったという経緯があります。

第1回から長年、どんどダム下流(三津田大橋下付近)を会場として実施していましたが、平成30(2018)年から御坂サイフォン橋下に場所を変えて実施しています。

令和2年はコロナ感染症拡大により中止、令和3年は食を伴うプログラムは自粛して開催。今年も昨年同様に食の部分を省いて、コロナ感染症対策を万全にして実施しました。

参加者53名(小学生27、幼児3、保護者23)、スタッフ(会員他)20名、総勢73名。

川遊びの前に、ライフセーバーの山根会員から川で遊ぶ時の注意やライフジャケットの付け方を教わったり、医師の松本会員からは熱中症やコロナウイルスへの対策を聞いたりした後、御坂サイフォン橋下の志染川へ向かった。

はじめは怖々として川に入っていた子どもたちも、だんだん慣れてくると、ライフジャケットで川の流れに笑顔で身をまかせていました。

子どもたちは、網を手に川底の大きな石の下にいる子魚を捕まえようとしますが、なかなか捕まりません。それを見かねたお父さんが童心にもどり、魚を捕まえる姿も微笑ましかったです。

子どもたちは、スタッフが事前に仕掛けていた刺し網に向かって、いっせいに魚を追い込み、カワムツやカマツカなどを捕まえました。また、会員の見守る中、御坂サイフォン橋下の堰から深みに飛び込む遊びが始まり、参加者からは大きな歓声が上がりました。

川遊びは約1時間、11時頃に川から上がり、着替えて、いよいよ川の学習。今日捕れた魚や、志染川や美囊川に住む魚の展示物を見ながら解説を聞いたり、川底の石の裏に住むヒゲナガカワトビケラやシロタニガワカゲロウ、プラナリアなどの小さな生き物を顕微鏡でのぞいたりして約1時間学習しました。興味津々の子どもたちの姿が見られ、将来の三愛研会員の姿を重ねました。

今年も、捕れた魚を焼いて食べることは自粛しましたが、来年こそは食に関するプログラムも実施できるように願って予定通り閉会しました。



川遊びを楽しむ子どもたち  
三木市志染町御坂(三木自然愛好研究会提供)

(小野朝海)

子どもら53人  
川遊び楽しむ  
志染川イベント  
川の生き物と触れ合う  
「親子川がき教室」が、三木市志染町御坂の志染川であり、小学生や幼児、保護者53人が生き物観察や川遊びを楽しんだ。  
NPO法人三木自然愛好研究会が7月30日に開いた。  
子どもたちはライフジャケットの着用方法を教わり川へ入った。網を手に川底の石の下の生き物を探したり、事前に仕掛けられた刺し網に向かって魚を追い込んだりして、カワムツやカマツカなどを捕まえた。会員が見守る中、せきから深みにダイブする子どもたちも見られ、辺りに歓声が響いた。  
新型コロナウイルス対策のため、捕った魚を焼いて食べるプログラムは中止されたが、魚についての解説を聞いたり、カゲロウやプラナリアなど小さな生き物を顕微鏡で観察したりして理解を深めた。

閉会后、スタッフ全員で境内の木陰で昼食を取りながら今回の振返りを行い、アイスクリーム・冷たいスイカを食した後、会場撤収作業を済ませました。

川遊びの途中に、参加者の子どもの母親が河原でアシナガバチに左足を3箇所刺されるという事故が発生しましたが、医師の松本会員と、ハチ刺されを熟知している室園会員はじめ、スタッフの迅速で適切な対応で、軽傷で済みました。

今年も、コロナ感染症と熱中症対策を万全にしながら、スタッフの皆さんのお陰で何とか無事に親子川がき教室2022を終えることができましたことをうれしく思います。

最後になりましたが、いつも会場をお貸しいただいている御坂神社様はじめ、サイフォン橋下の草刈りや駐車場等でお世話になっている地域の皆様には心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。(文責：川がき担当 植田)



ライフジャケットの着用を指導



御坂神社境内で川の生き物のお話



受付にて検温

会員が考案した更衣テント(内部を4つに仕切って出入口が4か所)



## 2022年7月～8月上旬の事業報告

7月15日までは前号に記載

7月16日(土) 三木市内の植生調査(蓮花寺他) 8:30～17:00

武田先生(神戸大学名誉教授)、会員4名、水辺ネット:鈴木氏  
蓮花寺のシイ林2か所の調査、ゆるべ谷の下見(コナラ林)

7/16 蓮花寺の植生調査

7月17日(日) ふるさと公園植生調査 9:00～ 会員8名参加

7月24日(日) ため池調査 吉川町法光寺 8:30～12:00

会員6名、水辺ネット:丸井氏、鈴木氏

\*シジミヘラオモダカ(ホソバヘラオモダカ)現地説明会

高男寺公民館 14:00～ 地区参加者4名



高男寺地区自生地のシジミヘラオモダカ

7月29日(金)「親子川がき教室」準備 大塚ふれあい広場 15:00～ 会員13名参加

\*三役会議 19:00～

7月30日(土)「親子川がき教室」9:30～12:30(スタッフ集合8:00)片付け終了14:30

参加者53名(小27, 幼3, 保23)、スタッフ(会員他)20 合計53名  
キャンセル 4家族

P1～P2

に詳細を報

ゆるべ谷池説明会 口吉川町東公民館 16:30～ 会員3名参加

7月31日(日) ため池調査 別所町小林(細谷池)、吉川町富岡・新田 8:30～13:00

会員6名、水辺ネット:丸井氏、鈴木氏

8月4日(木) 活動推進連絡会 教育センター19:00～ 11名



## 炎暑でも、バッタたちは元気いっぱい

ふるさと公園だより

空梅雨から7月上旬の炎暑へ。ふるさと公園の池の水位がどんどん下がっていく。一昨年のように、また守池2号からポンプで水を落とすことになるのかと危ぶまれたが、7月中旬の戻り梅雨のおかげで、その心配はなくなりホッとした。

しかし、7月下旬からは、またまた炎暑が襲ってきた。草丈の伸びが半端ない。そんな中でも、バッタやキリギリスの仲間はずんずん大きくなっている。いや、待てよ。草むらは彼らにとっては、隠れ場所でもあり餌場でもあるから、住みよいのではないかと思ひ直す。ぽつり目玉のヤブキリやササキリの幼虫、涙目のツチイナゴの幼虫、がに股のハラビロカマキリの幼虫、ロボットのようなフキバッタ、お行儀のよいショウリョウバッタモドキ...目が合うと、くるっと葉裏に回ってしまうもの、後ずさりするもの、触覚で牽制するもの、微動だにしないもの、それぞれに個性的で愛らしい。

キキョウが随所で咲き誇る。駐車場の溝端には8株のコオニユリが咲く。守池1号では、ミズトラノオが株を増やしている。西の池にはガガブタがいっぱいだ。炎暑にも負けず、秋花たちも準備を始めた。(文&写真:塩田)

### 草むらの主役～バッタ

草々に同化したものが多いので見つけ難い。写真もなんと分かり難い!

チョウやトンボほど人気は無いが、私たちが忘れないで!

チョウやトンボに無い特技、それは美しい?鳴き声、披露できなくて残念!



～今年4月に、新しく入会された会員を紹介します(自己紹介)～

### 田中 博之 さん

三年前に尼崎市から三田市に引っ越してきました。  
ウインタースポーツ特にスキーが趣味で、遊びの為に仕事をしていました。  
冬の体力作りに山歩きをはじめ、只々歩きでは勿体無いと気付き遅ればせながら、樹木・草花・鳥などを勉強している最中です。  
多くの皆さんに色々ご教授いただければ幸いです。 田中博之

新入会員紹介



### 三愛研 2022年8月中旬～9月 事業活動予定表

日	曜	8月 行事 他	日	曜	9月 行事 他
16	火		8	木	三愛だより発送作業 15:00～活動センター
17	水		9	金	
18	木		10	土	
19	金		11	日	
20	土		12	月	
21	日		13	火	
22	月		14	水	豊地小環境学習 10:40～11:50
23	火		(三役会議)	15	木
24	水		16	金	
25	木		17	土	
26	金		18	日	
27	土		19	月	
28	日		20	火	
29	月		21	水	
30	火		22	木	
31	水		23	金	
9月			24	土	
1	木	活動推進連絡会 教育センター19:00～	25	日	
2	金		26	月	
3	土		27	火	
4	日	公園観察会 10:00～ 会員 9:00 集合	28	水	(三役会議)
5	月		29	木	
6	火		30	金	
7	水				

【備考】市史編さん関係のため池調査・植生調査・巨木調査は別途あり

お知らせ

11/3 ふるさと公園里山まつりは今年も中止。  
公園観察会&サツマイモ掘り&農産物等の販売に変更して実施。

三愛研の冠事業の一つである増田ふるさと公園里山まつりについて、先日の活動推進連絡会において実施を検討した結果、上記のように、昨年と同様のかたちに変更することに決まりましたのでお知らせします。

コロナ感染第7波が8月になっても収束の目途が立たないどころか感染がまだ拡大しています。更に新しい変異種が発見されたりして心配が絶えない状況にあり、イベントが不特定多数の人が集まり「食」のウェイトが大きい内容では感染リスクが大きすぎる事が主な理由です。

11月3日(木、文化の日)は、10時から公園観察会を行なった後、芋掘り(お持ち帰りは購入)を行いますのでお友達を誘って来園してください(会員は9時集合)。

同時に、農産物や雑貨などのバザー用品がありましたら販売します。販売収入は本会の活動資金にさせ頂きますので、会員の皆さまの家庭に品物がありましたら出品をお願いします。(文責:横山)

# 三 愛 だ よ り

第 221 号 2022 年(令和 4 年) 9 月 8 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>



ウラギンスジヒョウモン

レポート

## ふるさと公園公開観察会「早秋の生き物かんさつ会」

7月3日の観察会レポートで、「近畿地方の梅雨は、6月28日に明けた。平年よりも21日早く、昨年よりも19日早い。統計開始以来最も早い梅雨明けで、梅雨期間14日間は、1958年の17日間を更新し、過去最も短い梅雨となった。」と書きましたが、気象庁が9月1日の発表で、近畿の梅雨明けは7月23日ごろと修正したので、平年の梅雨明け7月19日ごろとあまり変わらず、統計開始以来最も早い梅雨明けでもなく、過去最も短い梅雨でもなくなったことを報告します。



さて、非常に大型で強い台風 11 号の進路を心配していましたが、朝から真夏を思わせる日差しのなか、9時に集合した会員は、10時の開会まで草刈りや刈草集めなどの作業を行いました。観察会には一般4名、会員15名の参加がありました。

駐車場脇の溝から採取したシャジクモ類や斜面のオトギリソウを観察。シャジクモの同定が難しいということや、和名「弟切草」の由来となった伝説を聞き葉の赤い点々を確認。トチカガミ、ガガブタ、ゴイシシジミ、マツモムシ、ミズトラノオ、ママコナ、ナンバンギセル、ハギ、ススキ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウなど夏から秋へと移り変わるふるさと公園を約2時間楽しみました。(文と写真: 米村)

### 2022年8月~9月上旬の事業報告

- 8月4日(木) 活動推進連絡会 教育センター19:00~ 11名
- 8月10日(水) 三愛だより発送作業 15:00~ 7名
- 8月22日(月) 卓上カレンダー製作委員会 19:00~ 教育センター 委員5名
- 8月23日(火) 三役会議 19:00~
- 8月28日(日) ため池調査 13:00~ 会員5名 吉川町上中
- 8月29日(月) 卓上カレンダー製作委員会 19:00~ 教育センター 委員5名



9/3 ため池調査 (吉川町北水上)

9 月 1 日 (木) 活動推進連絡会 19:00~ 教育センター中研修室 10 名

ため池調査 吉川町 (雨天中止)

詳細は前ページに掲載

9 月 3 日 (土) ため池調査 8:30~ 会員 5 名 吉川町西奥・北水上

9 月 4 日 (日) ふるさと公園公開観察会 (早秋の生き物観察会) 10:00~ (会員集合 9:00)

会員 15 名、一般 4 名 (神戸新聞記者含む)

9 月 5 日 (月) 卓上カレンダー製作委員会 19:00~ 教育センター 委員 4 名

9 月 8 日 (木) 三愛だより発送作業 15:00~

### 市史編さん協カプロジェクト情報

### ~これまでのため池調査の成果(中間報告)~

7 月のため池調査では、35 か所のため池を、のべ人数 46 名で調査し、次のような成果を上げることができました。

成果 1: 再調査の池や新たな調査池でトンボ類の生息に係るデータが蓄積できた。

成果 2: 口吉川東ゆるべ谷池の水深低下に伴う水草(ナガエミクリ) の状況を地域自治会の役員に情報提供し、保全について連携して取り組む足がかりができた。

成果 3: 志染町戸田の漬池では、ジュンサイ (R) \*などの浮葉植物の減少が顕著であることが確認できた。

成果 4: 広野地区の太陽光発電設置のため池で、水草が無いにもかかわらず、2 箇所 (15 分間) 投入したモンドリで、各 50 匹程のタモロコ (C) \*を捕獲した。

成果 5: 吉川町湯谷の新たな調査池でノタヌキモ (C) を確認した。

成果 6: 別所町小林の細谷池で、コバノヒルムシロ (C)、ニオイタデ (C)、ホソバニガナ (R) 等の希少種を確認した。

成果 7: 吉川町富岡の池へ繋がる道に希少種が多く残る土手を確認した。



広野地区、太陽光発電設置のため池で捕獲した魚類

暑さ対策とコロナ対策で、調査に大きな苦勞を伴う中、無事に 7 月の調査を実施することができたこと感謝申し上げます。(※は、記号 (R): 個体数少ない。(C): 個体数多いを表す。)(文責: 植田)

### 報告・案内

### すてきな卓上カレンダーが出来ます

共感ファンドで頂いた寄付金で来年 (2023 年) の卓上カレンダーを製作しています。

増田ふるさと公園の PR を目的とし、デザインはほぼ完成し印刷にまわす段階にきています。10 月下旬に出来上がる予定です。

また、カレンダー「ふるさと野のこよみ」も従来通り製作・発行致します。ご期待ください。



表紙の裏面 (ハガキ利用と生物解説)

表紙の表面 (カレンダーと公園の生物写真)

### おねがい!

### 足元にもご注意を!

守池 1 号の東水際に、貴重種であるミズトラノオの群落があります。

悲しいかな、踏み倒されています。昆虫撮影に夢中になっていたのか...? 足元の小さな動植物にも注意をはらって散策してください。



## 今年も、秋の花たちがお目見え

ふるさと公園だより

朝夕には爽やかな風が吹き、秋めいてきたとはいふものの、今年も残暑が厳しい。日中は30℃越えの日が続く。「暑さ寒さも彼岸まで」！？今年はどうだろうと、今年の暑い暑い稲刈りを思い出して心配になってくる。と、これは人間サイドのことで、やはり動植物は季節を間違わないと、つくづく思う。

8月も下旬を過ぎると、ふるさと公園には秋の花たちが開花する。溝際のみズギボウシの群生、乾燥地にはママコナ。サワシロギクより少し遅れて山際ではシラヤマギクも開花した。自生地(守池1号の東端)やマコモ池、水生植物桶に移植されたミズトラノオも咲き始め、旧ハス田の溝際には薄黄色のゴマクサがひっそりと咲く。

秋、ふるさと公園ではお馴染みのマユタテアカネ、リスアカネ、ヒメアカネ(アカネ属のトンボたち)が今年も登場している。水田の上にはウスバキトンボ(精霊トンボ)。ベニイトトンボもまだまだ頑張っている。

9月はヒョウモンチョウの季節。9月3日には、絶滅危惧Ⅱ類のウラギンスジヒョウモンに出会った。移植地のフジバカマに今年もアサギマダラが立ち寄ってくれるだろうかと思いを馳せる。

(文&写真:塩田)

### 秋のにぎわいは草花から・・・

キセルと名が付く植物が2つあります。

いくつ名前を知っていますか？



このたびはトンボの代表として出ました。名前の由来は、黄褐色の体に薄く大きな翅を持っているところからです。

溝など湿ったところにたくさん咲いています。

よく似たキクですが種類が異なります。右のキクは湿ったところ(堤の下部)に、左のキクは乾いたところ(堤の上部)に生えています。

ススキの根に寄生する種子植物。

クズのように、絡んでどんどん増えるので、嫌われています。

蛇の目蝶の特徴である目玉模様が種類によって異なります。

吾輩はアマガエルではないです。

翅の裏面が真っ白な大型のシジミチョウ。右側の写真はその蛹。

公園には3種類のトラノオが生えています。低湿地に生え、赤紫色の花穂をつける。絶滅危惧種である。

## 三愛研 2022年9月中旬～10月 事業活動予定表

日	曜	9月 行事 他	日	曜	10月 行事 他
15	木		8	土	
16	金		9	日	
17	土	ため池調査 8:30～	10	月	
18	日	ため池調査 8:30～	11	火	
19	月		12	水	豊地小学校環境学習 10:40～11:50
20	火	ため池調査 8:30～	13	木	三愛だより発送作業 15:00～
21	水		14	金	
22	木		15	土	
23	金	野鳥調査 9:00～	16	日	
24	土		17	月	
25	日		18	火	
26	月		19	水	
27	火	ニホントカゲ	20	木	
28	水	ため池調査 8:30～ (三役会議)	21	金	
29	木		22	土	
30	金		23	日	
10月			24	月	
1	土		25	火	
2	日	公園公開観察会 10:00～(会員9時) (秋の七草観察とサツマイモ掘り)	26	水	豊地小学校環境学習 10:40～11:50 (学校で) (三役会議)
3	月		27	木	
4	火		28	金	
5	水		29	土	
6	木	活動推進連絡会 19:00～ 教育センター	30	日	
7	金		31	月	

## おしらせ &amp; おねがい

## 年会費未納の方におねがいします

今年度も早や上半期が過ぎようとしています。会員の皆さまには何かとお世話になっています。

さて、この8月末現在27名(約33%)の方が年会費未納の状態です。

お忘れの方もいらっしゃるかと思いますので、該当者には次回の三愛だより発送時にお知らせさせていただきますのでご了承願います。

(会計：横山)

【備考】9/12(月)ため池調査 吉川町 13:00～ 9/14(水)豊地小学校環境学習 10:40～11:50  
11/3(木)公園観察会&芋掘り&販売 (里山まつりは中止)

## 会員情報

## 三木市内の古道の研究や整備に 三愛研の会員の方が尽力される

神戸新聞に「古道を歩く」が5回シリーズで掲載されていた(8/16～8/20)。その記事の中に室谷、清地、戸田(敬称略)の三愛研会員3名の方の名前が出ている。室谷さんは古道など郷土史を長年研究されており、この度の連載記事5回を通して随所で記載されている。清地さんは第2回掲載の兵庫道で、地元の生活道であった荒れはてた山道を整備してハイキングコースとして復活させようとしている。戸田さんは市史編さんの口吉川編に携わられ口吉川町の自然に精通され、第4回掲載の石上山では、地元の信仰とも関わりのある石上山周辺の自然についてコメントされている。

三木市内の山々は低く丘陵地が多いので、昔は生活の場として利用され山道も縦横についていたが、今ではゴルフ場以外は放置され荒れはてた状態になり山道も消えているところが多い。三愛研活動の自然環境保全にも関わる里山の古道について、新聞に掲載された3名の会員を紹介しました。(文責：横山)

NPO 法人三木自然愛好研究会

ふるさと公園 10月の花と蝶

# 三 愛 だ よ り

第 222 号 2022 年(令和 4 年) 10 月 13 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>キセルアザミと  
ツマグロヒョウモン♀

報告

## 10/2 ふるさと公園公開観察会「秋の七草観察とサツマイモ掘り」

気温が 16℃というひんやりした晴天の朝であったが、太陽の上昇に伴い気温もぐんぐん上がり、日中は 30℃を越える真夏日になったようだ。

会員は 9 時に集合(17 名参加)して、サツマイモ畑の蔓およびマルチの除去、水草プロジェクト区域の除草、広場(駐車場)の草刈りなど、それぞれに分かれて作業する。芋畑は西側半分ほどを芋ほりが出来るように準備した。10 時前に一般の参加者が次々と来園、14 名の参加者があった。



この度の観察会のタイトルは「秋の七草」、クズを除いた 6 種類が見られるふるさと公園だが、この時期に花が見られるのはハギ、ススキ、フジバカマである。ナデシコ、オミナエシ、キキョウは既に花期が終って種子を作っている。ちなみに、園外にあるクズの花も既に散っている。万葉集にある山上憶良が詠んだ秋の七草は旧暦の秋なので 1 か月ほど時期がずれる。七草すべての花が見られる期間はそう長くはない。

今のふるさと公園・・広場の溝に沿った湿地にはサワシロギクやサワヒヨドリが咲き乱れ公園を賑わせている。倉庫横にあるハンノキが丸裸状態であった。どうやら何者かに葉を食べられたようだ。よく見てみると葉と同じ色をした大きな幼虫がいた。犯人はこのオオミズアオの幼虫であった(写真)。

芋畑東端には移植したフジバカマが満開状態であるが、アサギマダラの飛来がまだ聞こえていなくちょっと寂しい限りである。守池 1 号の東端に群生しているミズトラノオが見事に咲いている。日当たりが悪いせいなのか、他の場所よりかなり遅い開花である。

あとにサツマイモ掘りが控えているので、公園最上段の守池 2 号付近の散策はカットして 40 分ほどで観察会を終えた。大きな芋を掘り起した時の子どもの満足げな表情が微笑ましかった。夏の日照りのせいか、北側の乾燥した畝よりか南側(溝側)の畝の方が大きな芋が入っていた。収穫した芋は約 60kg、1 kg100 円で販売、掘り起した芋は完売した。

丸裸にされたハンノキと  
オオミズアオの幼虫  
(円内は成虫)

この度の観察会でちょっと残念なことがあった。参加者がふるさと公園に来る道中、路傍の電気柵を引っ掛けて倒すといったトラブルが発生し、地区住民に迷惑をかけてしまった。後で、観察会の主催者として三役で区長宅に謝罪に行った。三愛研としても注意を喚起させる立て看板などの対策を講じる必要性を感じた。

ふるさと公園に来園される方は住民に迷惑がかからないようにお願いします。

特に自動車で行き来する人は、地区内の道は必ず徐行で、注意して通行してください。

ださい。電気柵を引っ掛けたり農作業の邪魔にならないようお願いいたします。(文責:横山)

地区内は徐行!



## 2022年9月～10月上旬の事業報告

9月1日(木) 活動推進連絡会 19:00～ 教育センター中研修室  
ため池調査 中止

9月3日(土) ため池調査 吉川町北水上 8:30～ 5名参加

9月4日(日) ふるさと公園公開観察会(早秋の生き物観察会) 10:00～(会員集合9:00)  
一般4名、会員15名参加

9月5日(月) 卓上カレンダー制作委員会 19:00～ 教育センター

9月8日(木) 三愛だより発送作業 15:00～ 5名参加

9月12日(月) ため池調査 吉川町北水上 13:00～ 5名参加

9月14日(水) 豊地小学校環境学習 10:40～11:50 3名参加

9月17日(土) ため池調査 8:30～ 吉川町西奥  
会員5名参加、水辺ネット:碓井氏、丸井氏

9月20日(火) ため池調査 中止

9月23日(金) 野鳥調査 中止

9月26日(月) 卓上カレンダー制作委員会 19:00～教育センター

9月28日(水) 三役会議 19:00～  
ため池調査 中止

10月2日(日) ふるさと公園公開観察会(秋の七草観察とサツマイモ掘り) 10:00～(会員集合9:00)  
参加人数:会員17名、一般14名 計31名

10月3日(月) 卓上カレンダー制作委員会 19:00～ 教育センター

10月6日(木) 活動推進連絡会 19:00～ 教育センター

10月12日(水) 豊地小学校環境学習 10:40～11:50

10月13日(木) 三愛だより発送作業 15:00～

前月号に詳細掲載



9/14 豊地小環境学習



9/17 ため池調査(吉川町西奥)

P.1に詳細掲載

## 卓上カレンダーが完成しました!

昨年度の共感ファンドでご寄付いただいた212,398円を活用して、「増田ふるさと公園卓上カレンダー」が完成しました。

制作にあたっては、制作委員会を12回開催し、各月の画像選定から説明文の作成を行いました。最終案を活動推進連絡会(11/6)で

示し、印刷部数や配布・販売方法について協議しました。その内容な次のとおりです。

- ・印刷部数:500冊 配布先:共感ファンドでの寄付者、関係団体、三愛研会員
- ・配布した残り約150冊は500円/1冊にて販売
- ・販売場所:ボランティア活動プラザ三木及び三木市観光協会(予定)
- ・販売機会:里山まつり(11/3)、みきボランティアフェスタ(11/20)

2023年のカレンダーは、「ふるさと野のこよみ」と「卓上カレンダー」の2本立てです。

この機会に、三愛研の活動をより多くの方に知っていただき、自然を大切にする心が広がることを願っています。なお、制作委員は北村、横山、池田、米村、植田の5名。また、画像提供と説明文の校正にあたって池町、塩田の両会員にご協力いただきました。(文責:植田)



## 秋本番 花と昆虫たちのコラボ



暑い、暑い、いつまで暑いのだ！と思っていたら、10月5日一気に気温が10℃近く下がり、涼しいというより肌寒い。咲く？咲かない？飛ぶ？飛ばない？花も昆虫も戸惑い気味の10月上旬だった。

しかし、植物のセンサーは確かで、今年もふるさと公園に紫の花々たちが咲く。タムラソウ、キセルアザミ、ヒメジソ、アキノウナギツカミ・ヤノネグサ・ミゾソバなどのタデ科植物…リンドウも咲き始めた。その蜜を求めて、たくさんの昆虫が訪れる。もちろん、昆虫の種類も多いふるさと公園では、肉食のトンボやカマキリも多く、子孫を残すべく捕食に余念がない。

10月中旬、秋本番。ふるさと公園では、ススキの穂が揺れ、サワシロギクの群生が来園者を迎えてくれる。センブリ、ヤマラッキョウももうすぐだ！



タヌキマメ  
&  
ウラナミシジミ



サワヒヨドリ  
&  
キンモンガ



ニラ  
&  
ナミアゲハ



サワヒヨドリ  
&  
ホタルガ



ヒヨドリバナ  
&  
ウラギンスジヒョウモン



サワヒヨドリ  
&  
オオハナアブ



オミナエシ  
&  
ヒメナガハラツツバチ



ヒヨドリバナ  
&  
シロスジベッコウハナアブ

**ここでクイズ！**  
この8枚の写真の中に、ふるさと公園でないものが1枚あります。さてどれでしょうか？

追記：

9月26日のことだった。ノブドウにぶら下がっている半透明の物体が目にとまった。よくよく見ると、ツチイナゴの脱皮だった。脱皮直後の成体は、まだ薄黄緑色で、みるみる茶褐色へと変化していった。その美しさに昆虫を創造したのは誰だろうと、改めて思う。（文&写真：塩田）



### 三愛研 2022年10月中旬～11月 事業活動予定表

日	曜	10月 行事 他	日	曜	11月 行事 他
16	日		8	火	加印だより&三愛だより発送作業 9:00～
17	月		9	水	
18	火		10	木	外来生物セミナー「生物多様性と外来種講習会 in 丹波」 13:30～17:00 四季の森生涯学習センター(丹波篠山市)
19	水		11	金	
20	木		12	土	
21	金		13	日	
22	土	植生調査(詳細未定)	14	月	
23	日		15	火	
24	月		16	水	
25	火		17	木	
26	水	豊地小環境学習 10:40～11:50(学校で)	18	金	
27	木	(三役会議)	19	土	ボランティアフェスタ準備
28	金		20	日	ボランティアフェスタ
29	土		21	月	
30	日	細川町民文化祭準備 13:00～11/4 21:00	22	火	
31	月		23	水	
11月			24	木	(三役会議)
1	火		25	金	
2	水	理事会・活動推進連絡会 14:00～教育センター	26	土	
3	木	公園観察会&サツマイモ掘り会員9時集合	27	日	
4	金		28	月	
5	土	細川町民文化祭 ～11/13	29	火	
6	日		30	水	
7	月				

機関誌「おもだか」の  
原稿を募集します  
詳しいことは別紙(同封)を  
ご覧ください

セミナーに参加を希望される方は11/3ま  
でに、Webまたはメールで申し込んでくだ  
さい。  
詳しいお問合せは北村(82-3095)まで

【備考】

連絡とお願い

会員の皆さんにお願いします!!

- 11月3日の公園観察会の後、昨年と同様に、掘ったサツマイモ販売の他に会員の家庭で収穫された農産物や不要になった家庭雑貨(新品のもの)等の販売も行ないます。  
つきましては、皆さんのお宅で収穫された農産物(柿、大豆、銀杏など)や眠っている不用品(バザーで出すようなもの)があれば提供してください。値段は出品者各自でお付けください。  
なお、収益金は本会の活動資金に充当させていただきます。また、サツマイモを含めて売れ残ったものは、11月20日のボランティアフェスタにて販売する予定です。
- 11月20日のボランティアフェスタでは、三愛研として体験教室(木の実など付けたメッセージボード)を行う予定です。工作の材料となる木の実・種子・紅葉・木切れなど、身の回りにあるものを提供してください。また、当日のスタッフも必要です。ご協力いただける方はご連絡ください。

# 三 愛 だ よ り

第 223 号 2022 年(令和 4 年) 11 月 8 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>



アキノキリンソウ

レポート

## 11/3 ふるさと公園公開かんさつ会とサツマイモほり

11月3日は文化の日。国民の祝日に関する法律によれば、「自由と平和を愛し、文化をすすめる」ことを趣旨としています。1946年(昭和21年)に日本国憲法が公布された日であり、日本国憲法が平和と文化を重視していることから、1948年(昭和23年)に公布・施行された祝日法で「文化の日」と定められたそうです。

さて、三愛研にとっても11月3日は大事な日。本来なら「増田ふるさと公園里山まつり」を行う日。ですがコロナとの付き合い方を考慮し、3年ぶり行われた三木の秋まつりや規模を縮小して行われる三木金物まつりなども参考に3年連続で公開かんさつ会とサツマイモほりとなりました。

小春日和の暖かな午前10時に開会。白いマムシヤズメバチに注意するよう聞いたあと、北村理事長の案内で園内を散策。朝露がキラキラと輝く紫の花のヤマラッキョウ。また、足元にはリンドウの花があちらこちらに咲いていました。池の堤防の斜面には白い花のセンブリ。昔から胃腸薬として利用されてきたこの植物の和名の由来は、非常に苦く、植物を煎じて「千回振出してもまだ苦い」ということから名付けられたとか。参加者は葉をかじりその由来を確かめました。また、コウヤボウキの白い花。高野山ではほうきの材料になるタケヤササは武器になるので植えることができず、この植物の茎を使ってほうきを作ったことが名前の由来だそうです。



このあと、会員が持ち寄った品物でバザーを開催。3キロ500円のサツマイモや菊、銀杏、花梨、米、柿、ヘチマ、手編みの座布団等々、来年のカレンダー「ふるさと野のこよみ」や三木市社協の寄付制度を活用した「卓上カレンダー」も並びました。そしてお楽しみのイモほり。とれたサツマイモを袋に入れ1キロ100円で持ち帰る親子の笑顔が印象的でした。この日の参加者は一般38人、会員23人、合計61人。バザーの売り上げは2万円を超えました。またサツマイモはこの日約60キロを収穫。前月の57キロと合わせ約120キロとなりました。(文と写真: 米村)



## 2022 年 10 月～11 月上旬の事業報告

前号(222号)に詳細掲載

10月2日(日) ふるさと公園公開観察会(秋の七草観察とサツマイモ掘り) 10:00～

(会員集合9:00) 会員17名、一般14名 計31名

10月3日(月) 卓上カレンダー制作委員会 19:00～ 教育センター

10月6日(木) 活動推進連絡会 19:00～ 教育センター

10月12日(水) 豊地小学校環境学習 10:40～11:50 3名

10月13日(木) 三愛だより発送作業 15:00～ 5名

10月15日(土) ボランタリーフェスタ調整会議 9:30～11:30

10月22日(土) ヤブレガサモドキ株数調査(中止)

植生調査(ゆるべ谷、兵庫道) 会員5名、武田義明先生

10月26日(水) 豊地小学校環境学習 10:40～11:50(学校で)3名

10月27日(木) 三役会議 19:00～

10月30日(日) 細川町民文化祭準備 13:00～11月4日(金) 21:00

11月2日(水) 理事会・活動推進連絡会 14:00～教育センター中研修室

11月3日(木) 「増田ふるさと公園里山まつり」⇒公開観察会とサツマイモ掘り

カレンダー販売、バザー 参加数61名(会員:23、一般:38)

11月5日(土)～11月13日(日) 細川町民文化祭 片付け13日(日) 14:30～

11月8日(火) カレンダー(野の暦&卓上カレンダー) および三愛だより発送作業

市民活動センター 9:00～ 共感ファンド寄付者への礼状

理事会は14:00～15:30、委任状1名を含め理事11名  
全員出席、監事2名を含め  
3名のオブザーバー参加の  
元で開催。

議題は上半期の事業および決算報告、旅費等の立替  
金請求書の追加・改正につ  
いて。

議案は全て了承される。

P.1に詳細掲載



細川町民文化祭

### 市史編さん協カプロジェクト情報

### ～ 植生調査 ～

日時: 10月22日(土) 8:30～15:00

場所: ○口吉川町東 ゆるべ谷、○細川町増田 兵庫道付近

担当者の稲葉会員の計画による2回目の植生調査を、武田義明先生(神戸大学名誉教授)に来ていただいて実施する。

最初に、前回(7/16)に下見した口吉川町東のゆるべ谷のコナラ林を1か所調査した。谷から少し登ったところの緩やかな北西の斜面にビニールひもで10m四方の方形枠を作りその中の植物を、高木層(森林の最上部)、亜高木層、低木層、草本層、地表層と各階層に占める植物の種類を調べていった。この場所はコナラを優占とした森林で、その下にはコバノミツバツツジやソヨゴなどの低木や、地表にはテイカカズラなどの草本が目立った。アカマツ林からコナラ林への遷移が進んでいるようだ。

その後、清地会員の案内で、細川町増田の古道(兵庫道)が通る尾根道付近の山林を2カ所調査した。尾根の上部にあるアカマツ林はアカマツが優占しており、亜高木層にもアカマツがあったが、コナラやアラカシなどのカシの仲間も低木層に見られた。また、尾根の下部にあるコナラ林も調査した。林床は比較的明るく、ネザサが多かった。昔はこの辺り一帯はマツタケ山であったようだが、今は放置されて倒木や枯木も多く荒れはてた状態であった。(文責:横山)



口吉川町東、ゆるべ谷のコナラ林



細川町増田、古道尾根沿のアカマツ林



細川町増田、古道尾根沿のコナラ林

## 今年も、リンドウとヤマラッキョウ、そしてセンブリ

ふるさと公園だより

11月、ふるさと公園の日暮れはぐんぐんと早くなる。午後3時には、守池2号から1号にかけてはすでに日が当たらなくなり、午後3時半には日が射しているのは移植地と駐車場のみとなる。

ふるさと公園を歩き始めて4年目になるが、それでも例年ならもっと昆虫たちに出会えるのに、今年は出会いが少ない。過去2年は、10月になるとフジバカマやオミナエシにヒョウモンチョウの仲間はじめたくさんの昆虫たちが吸蜜に訪れていたのに、今年はミドリヒョウモンにもメスグロヒョウモンにも出会えていない。アサギマダラの飛来情報もなかった。アカネ属のトンボのシーズンだが、出会うのはマユタテアカネばかり。10月最終日にやっとナツアカネに出会えたが、アキアカネは未だなのか？写真愛好家のOさんも、今年は「チョウやトンボが少ない。」と言っておられたが、これは6月～9月までの高温が影響しているのだろうか…？

しかし、植物たちは今年も健在！むしろふるさと公園特有の花たちは増えているのではないかとすら思える。10月中旬にリンドウが咲き始め、続いてセンブリ、そして下旬にはヤマラッキョウも咲き始めた。毎年のことながら、駐車場南の溝際の群生は圧巻である。今年は、白いヤマラッキョウを確認した。植物は、白色を発現するのだなあと改めて思った。

午前中のふるさと公園は、露が落ちた植物が光り輝き、紅葉も美しい季節を迎えた。どうぞ、ふるさと公園へ！（文・写真：塩田）



センブリ

アキノノゲシ

ヤマラッキョウ  
(白花)

リンドウ

スイラン

コウヤボウキ

緊急事態  
発生！

### 「虫のおやど」破壊される！犯人はイノシシ？それともホモサピエンス？



先日、小倉会員より三津田の旧教育キャンプ場に作っている「虫の冬越し探検隊」の「虫のおやど」が荒らされていることを知らされて見に行ったところ、2つとも完全に破壊されて見るも無残な姿になっていた。

最初、イノシシの仕業かと思ったが、壊されたフェンスの状態やその中の積み上げていた有機土壌の散乱状態から、どうも人間が壊した可能性が高いと思われる。この場所は以前からサバイバルゲームなどの遊びの場所にもなっていたところであり、この場所から少し奥に入ったところには焚き火の後が2か所見られる。

来年3月4日の「虫の冬越し探検隊」のイベントの実施が危ぶまれる。前回参加した子どもたちが落葉や枯木を集めて作った「虫のおやど」、次回を楽しみにしていただけに何とか実施したい思いである。

早急に対策を検討したい。（文責：横山）



壊された手前側の「虫のおやど」



壊された奥側の「虫のおやど」

## 三愛研 2022年11月中旬～12月 事業活動予定表

日	曜	11月 行事 他	日	曜	12月 行事 他
15	火		8	木	
16	水		9	金	
17	木		10	土	
18	金		11	日	
19	土	ボランティアフェスタ展示準備	12	月	
20	日	ボランティアフェスタ	13	火	
21	月		14	水	
22	火		15	木	ジョウビタキ ♂
23	水		16	金	
24	木	(三役会議)	17	土	
25	金		18	日	ふるさと公園全面草刈り 集合 9:00
26	土		19	月	<div style="border: 2px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px;"> <p style="text-align: right; margin: 0;"><b>お願い</b></p> <p>会員も年々高齢化していき、草刈り作業も年々辛くなって来ています。馬力が減退した分、数でカバーしたいと思いますので、ご協力お願いします。 (草刈り機使うだけではなく、フェンス際を鎌で刈ったり、草集めなどの作業があります)</p> <p>また、会員さんの周りに手伝ってくれる人がいらっしゃいましたら、作業に参加願えれば幸いです(これこそ市民参加の活動なので)</p>  </div>
27	日		20	火	
28	月		21	水	
29	火	三木市との情報交換会 15:00～	22	木	
30	水		23	金	
12月			24	土	
1	木	活動推進連絡会 19:00～ 教育センター	25	日	
2	金		26	月	
3	土		27	火	
4	日	ふるさと公園公開観察会(ササユリ復活作戦) 10:00～ 会員集合 9:00	28	水	
5	月		29	木	
6	火		30	金	
7	水		31	土	

【備考】 11/10 外来生物セミナー「生物多様性と外来種講習会 in 丹波」 13:30～17:00 丹波篠山市  
11/14 情報交換事前打合せ 三役 15:00

## お知らせ

## 2023年(令和5年)のカレンダー 2種類出来上がりました！

毎年作っている大判の「ふるさと 野のこよみ」は、ふるさと公園に見られるトンボの写真を掲載しました(解説書付)。また、「共感ファンド」の寄付金を原資として制作した卓上カレンダー「増田ふるさと公園」は、ふるさと公園の四季折々の魅力を盛り込んだ写真を掲載しています。カレンダーの部分を取り取ってしまえば絵ハガキとして利用出来ます。

この度、会員の皆さんの手元にお届けしていますのでご利用ください。なお、お届け以外にご入り用の場合は有料販売していますので、下記の場所でお買い求めください。

「ふるさと 野のこよみ」は200円、卓上カレンダーは500円(部数少ないので売り切れ御免！)

- 三木市立市民活動センター(受付窓口)      三木市末広 1丁目 6-46      TEL : 0794-83-0090
- 三木市観光協会(神鉄三木駅々舎内)      三木市末広 1丁目 1-35      TEL : 0794-83-8400

# 三 愛 だ よ り

第 224 号 2022 年(令和 4 年)12 月 8 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>



ヤマラツキョウの果実

## 報告

## 「虫のおやど」その後の対応

三愛だより前号(No.223)で、「虫の冬越し探検隊」(2023年3月4日)のために作った「虫のおやど」が壊された事件についてその後の報告を致します。

### 【各方面への対応】

11/2 小倉会員からの情報を得て、連絡会の者がそれぞれに現場に行って状況を確認しました。原因がイノシシかヒトかはいまだはっきり判らない状況です。ヒトの仕業の可能性も十分考えられるので、11/15(火)に北村・植田で三木警察署に相談に行き、御坂駐在所の巡査に現地確認をしてもらいました。巡回を増やすことと、警察に不審者を通報すると警察官が直ぐに駆けつけてくれることを約束してもらいました。11/19(土)に地元市会議員、三津田区長、消防団関係者の3人の方に旧教育キャンプ場跡の視察を行ってもらい、三津田地区に注意喚起の回覧をお願いしました。11/26(土)には教育センター長に被害のことを伝え、警察や地元地区の協力が得られたことを報告、県へ看板設置や枯木の伐採を打診してもらうことを依頼しました。

### 【「虫の冬越し探検隊」への対応】

被害への対応とは別に、「虫の冬越し探検隊」の実施に向けて三役で検討した結果、次のような対策を立て、12/1(木)の活動推進連絡会です承を得ました。

- ①再度壊される危険性もあるが、昨年度参加者全員で今年度のために作った「虫のおやど」なので、昨年度の参加者に呼び掛けて復旧作業を出来るだけ早く行う(予定:12/18(日)の午後2時より)。その時、カブトムシの幼虫がいるか確認しておく。
- ②3/4(土)の「虫の冬越し探検隊」は予定通り実施し、カブトムシの幼虫がいる場合は「虫のおやど」を利用し、いない場合は会員に呼び掛けて外から出来るだけ確保する努力をする。
- ③来年以降についても、引き続きこの場所を利用して行く。同様の被害をもたらさないように、行政(県・市)および地元の協力を得ながらこの場所を監視して行く。

### 【おねがい!】

子どもたちが楽しみにしている「虫の冬越し探検隊」を成功に終わらせるためにも、12月18日(日)の午後2時からの復旧作業にご協力ください。

また、皆さんの周辺で、カブトムシの幼虫が生息していましたら、是非ご一報をください。復旧作業時に現場を見て、幼虫数が不足しておれば提供のお願いをさせていただきます。(文責:横山)



2022/3/5 参加者全員で「虫のおやど」を作る(奥側のもの)



2022/11/5 無残に壊された奥側の「虫のおやど」

## 2022 年 11 月中旬～12 月上旬の事業報告

- 11 月 10 日 (木) 外来生物セミナー「生物多様性と外来種講習会 in 丹波」13:30～17:00  
四季の森生涯学習センター (丹波篠山市)、参加: 北村
- 11 月 14 日 (月) 市との情報交換事前打ち合わせ 15:00～市役所にて 三役
- 11 月 15 日 (火) 三木警察、御坂駐在所、旧教育キャンプ場跡現地確認 立会: 北村、植田
- 11 月 19 日 (土) ボランタリーフェスタ展示準備 13:00～21:00 横山  
ユープこうべ環境基金オンライン市民団体交流会 13:00～14:30 北村  
三津田区長、地元住人、大西市議員と旧教育キャンプ場跡現地確認 15:30～北村
- 11 月 20 日 (日) ボランタリーフェスタ 会員 8 名参加
- 11 月 23 日 (水) 情報交換会打ち合わせ 4:30～ 5 名
- 11 月 24 日 (木) 三役会議
- 11 月 25 日 (金) 市との情報交換会打合せ 3:00～北村
- 11 月 29 日 (火) 三木市との情報交換会教育センター15:00～16:30 三愛研 6 名、市役所 10 課 11 名  
・丸岡から、三木市の希少植物の現状と課題(補足) ・植田から、ため池調査中心に情報提供  
・3 班に分かれてグループ討議
- 12 月 1 日 (木) 活動推進連絡会
- 12 月 4 日 (日) ふるさと公園公開観察会 (ササユリ復活作戦) 10:00～ (会員集合 9:00)  
参加者数: 15 名 (会員 13 名、一般 2 名)



下部に詳細掲載

### 報告

## 11/29 三木市との情報交換会

三木市に生育する希少種の保全について、三木市との情報交換会を 11 月 29 日(火)、15:00～16:30、三木市教育センターで実施しました。三愛研からは、三役の他に丸岡、小倉、戸田の計 6 名が参加、三木市側は 10 課 11 名が参加されました。

平成 28 年から毎年行っている情報交換会も定着してきましたが、いつも三愛研側の情報提供と市への要望を行うに終わってしまっていました。この度は三木市の自然環境について、市の各課の方々の考えや意見を聞きたいという願いや各課の横の連携を強化するために、会の進め方について生活環境課の担当者と二度ほど打ち合わせを行ってきました。その結果、最初の 30 分程度で三愛研の情報提供を行った後、班に分かれてグループ討議の形式をとってみることになりました。

会は北村理事長の挨拶の後、最初に三愛研から丸岡会員の三木市の貴重種について(約 10 分)、続いて植田会員の三木市のため池調査について(約 25 分)それぞれ情報提供を行いました。その後、3 班に分かれてグループ討議を行い、三愛研側も 2 人ずつ各グループに入って討議に参加しました。討議内容は、第三次三木市環境総合計画において「生物多様性の保全」「希少種の保護」等の取組みの一つとして「外来種の駆除」をテーマに、①外来種がもたらす影響、②私(市)有地に存在する外来種に対する対応、③外来種対策についての体制整備の 3 つの観点から話し合いが行われました。

各班とも時間が足りないほど活発な話し合いになりました。時間の関係上、全体での発表やまとめは行わず後日に生活環境課の方で各班の意見を集約することで終了しました。結果が得られた訳ではありませんが、一歩前進した会合になりました。(文責: 横山)



## 種(たね)～命のカプセル～

### ふるさと公園だより

3年続けての暖秋だった。昨年は11月28日に初霜、初氷だったが今年には更に暖かく、12月2日にやっと氷が張った。それでも、11月中旬を過ぎると、色づいていた落葉樹がはらはらと葉を落とし始めた。ふるさと公園の名物とも言えるヤマラッキョウの花が終わると、生き物たちはそれぞれに冬支度を始める。



2年前の12月号は「綿毛」特集だった。風に乗って飛んでいく綿毛の根元には種。では、他の種たちはどうなのだろう？こぼれ落ちる、はじけ飛ぶ、翼がある種は少し遠くまで運ばれそうだななどと考えながら、枯れた果実を指先で裂いて手のひらに落としてみる。小さい！驚くほど小さく肉眼ではとても確認できない。画像を拡大してみると、リンドウはもとよりキキョウにも少し翼があった( °Д°)格子模様のあるもの、真ん中に溝があるもの、角ばっているもの……すべてが違う。400,000種(しゅ)とも言われる植物の種(たね)全てが違うのだと、当たり前なのに今更ながら驚く。このゴマ粒よりも小さい種たちが、来たるべき時期を迎えると、根を伸ばし、芽を出し、茎を伸ばし、葉を増やし、花を咲かせる。まさしく、種は命のカプセルだ！

#### はじけ飛ぶタネたち



ヒキヨモギ



センブリ



タヌキマメ



オトギリソウ



カワラナデシコ



オモダカ

水場が凍る冬も理事長によるザリガニの駆除は続く。ザリガニが根絶に近づいたかに思われた守池2号でも、また入り始めている。冬場の産卵に向けて、駐車場や芋畑の溝のもんどりにニホンアカガエルやセトウチサンショウウオが入り始めた。一方、種たちは眠りの季節に入る。(文&写真:塩田)



12/5、駐車場横の溝でモンドリに入っていたセトウチサンショウウオとニホンアカガエル (写真提供:北村)

#### 報告

### 12/4 ふるさと公園公開観察会とササユリ復活作戦

曇り一時雨の天気予報は幸いにもはずれてくれた。会員は9時に集合。観察会に先立って園路の草刈り、セイタカアワダチソウの引き抜き、畑の石拾いを行った。園内は初冬、枯葉が舞い落ちる季節を迎えリンドウやヤマラッキョウの花がわずかにその青色をとどめている。

園内観察後に行ったササユリ復活作戦は、種子をバーミキュライトと混ぜて湿らせたものを暗所で寝かせて翌年蒔く方法を試みた。来年、米粒に満たない小さな球根がたくさん出来ていることを期待している。

会員 13 名、一般 2 名の計 15 名参加。

(文責:北村)

三愛研 2022年12月中旬～2023年1月 事業活動予定表

日	曜	12月 行事 他	日	曜	1月 行事 他
16	金		8	日	
17	土		9	月	
18	日	ふるさと公園全面草刈り 9時集合 「虫のお宿」復旧作業 14:00 現地集合	10	火	
19	月	再掲してお願い!	11	水	
20	火	<p>会員も年々高齢化していき、草刈り作業も年々辛くなって来ています。馬力が減退した分、数でカバーしたいと思います。草刈り機使うだけではなく、フェンス際を鎌で刈ったり、草集めなどの作業があります。一般市民の参加も大歓迎ですので、お近くの人を誘ってのご参加も大歓迎です。作業用具は用意しますので、作業が出来る服装をして手ぶらで参加してください。</p> 	12	木	
21	水		13	金	
22	木		14	土	
23	金		15	日	
24	土		16	月	
25	日		17	火	
26	月		18	水	
27	火		19	木	
28	水		20	金	
29	木		(三役会議)	21	土
30	金		22	日	
31	土		23	月	
1月			24	火	
1	日	 <p>よいお年をお迎えください</p>	25	水	
2	月		26	木	(三役会議)
3	火		27	金	
4	水		28	土	
5	木	活動推進連絡会 17:00～ 教育センター	29	日	ふるさと公園畦焼き&増田地区ヤブレガサモドキ自生地ため池土手の草刈り作業 9時集合 (午後) 擬木でメダカの逃げ場づくり
6	金		30	月	
7	土		31	火	

編集委員より再度のお願い!

機関誌「おもだか」の原稿をお願いします。テーマは身近な出来事や皆様の研究の成果など、日ごろの思いをお寄せください。

締切：2023年3月5日(日)

原稿送り先：池田 e-mail

[8728hiroko@gmail.com](mailto:8728hiroko@gmail.com)

三愛研 1年間の活動

(2022/11/20 ボランタリーフェスタ)



2022年(令和4年)12月7日 水曜日

12/7 神戸新聞 掲載

草花や昆虫の写真

三木・増田ふるさと公園の魅力PR  
カレンダーで貴重種紹介



ど、園内に居る生き物や四季の風景の写真を使う。裏面には、情報が浮かぶような説明文や同園ホームページのQRコードを掲載。はがきとして使え、挿入吉副理事長(68)は「自然が好きで友達に送ることで、より公園を知ってもらえるのでは」と思いを込める。毎年恒例の「ふさと野のこよみ」も発行し、今年には園内のトンボを題材にした。異絶滅危惧種ランク... (小野明海)

増田ふるさと公園(三木市細川町増田)の希少生物を紹介する2023年の卓上カレンダーが完成した。市内のNPO法人が手がける、季節の草花や昆虫の写真が並ぶ。シン目で切り真が並ぶ。メンバーは「自然を大事にする思いを広げ、貴重種を守っていきたい」とアピールする。NPO法人三木自然愛好

※ カレンダー「ふるさと野のこよみ」はひょうご環境保全連絡会からの助成を受けています

NPO 法人三木自然愛好研究会

1月のふるさと公園

# 三 愛 だ よ り

第 225 号 2023 年(令和 5 年)1 月 11 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>

雪景色の守池 1 号



## 新年のごあいさつ

理事長 北村 健

新年あけましておめでとうございます。今年は穏やかな天候に恵まれ、  
久々に親戚や知人等とお正月を楽しまれた方も多いのではないのでしょうか。

さて、旧年中は三愛研の活動も、長引くコロナウイルス感染症蔓延で「ふるさと公園里山まつり」  
を 3 年続けて開催を断念するなどの制約を受けましたが、「公開観察会」や「貴重種保全活動」、「三木  
市史編さんのための生物調査」などは多くの会員の皆様方のご助力によりましてほぼ計画通りに実施  
することができました。ありがとうございました。

昨年末に皆様にお届けした「増田ふるさと公園」の卓上カレンダー制作において、三愛研の活動に  
共感していただける多くの皆様がおられることを実感させていただきました。また、7 月 24 日の志染  
町高男寺のシジミヘラオモダカ現地説明会や 7 月 30 日の口吉川町東のゆるべ谷池のナガエミクリの保  
全についての地元自治会役員への説明会、11 月 19 日には三津田地区の区長や市議会議員に旧教育キ  
ャンプ場跡の「虫のお宿」の被害状況の確認をいただき、それぞれ前向きな対応を得ることが出来ま  
した。三愛研の活動において、それぞれの地域の理解と協力は欠かせないので、その他の地域におい  
ても積極的に情報共有して協力関係の構築に努めていきたいと思ひます。また、地域の学校などとも  
協力関係が構築できるように努めたいと思ひます。

ところで、市内の各地域に会員の方がおられることが生物調査や保護活動その他、三愛研の活動を  
進めていく上で大きな助けになっています。会費の負担をお願いすることにはなるのですが、できる  
だけ会員を継続していただきますようお願いいたします。三愛研の活動は皆様の会費によって支えられて  
います。

これからも役員一丸となって事業の運営にあたってまいりますので、本年もご助力のほどをよろし  
くお願いいたします。

最後に、この 1 年が穏やかな年であることを願うとともに会員の皆様方のご多幸をお祈り申し上げ  
まして新年の挨拶とさせていただきます。

お知らせ

### 2/10(金) 救急処置講習会にご参加ください!

昨年の「川がき教室」にて、参加者がハチに刺されたという事故がありました。手際よく処置  
したため大事には至りませんでした。野外での活動が中心である本会は常に水難、怪我、毒蛇、虫刺さ  
れ等の危険要素が周辺に存在しています。

この度の事故を受けて活動推進連絡会で検討した結果、消防署に依頼して救急処置の講習会を行うこと  
になりました。

**2 月 10 日(金)、午後 2 時より市民活動センター分館 3 F 中講座室**で実施します(約 1 時間程度)。

出来るだけ多くの会員の方々に参加して頂き、咄嗟の場合の応急処置を習得して頂きたくご案内致します。

## 2022 年 12 月～2023 年 1 月上旬の事業報告

12 月 4 日 (日) ふるさと公園公開観察会 (ササユリ復活作戦) 10:00～  
会員 13、一般 2、合計 15 名

12 月 8 日 (木) 三愛だより発送作業 市民活動センター 15:00～

12 月 18 日 (日) ふるさと公園全面草刈り 一般 4、会員 17、合計 21 名  
午後) 虫のお宿復旧作業 一般 8、会員 12、合計 22 名

12 月 27 日 (火) 巨木調査 三木城址、大宮八幡神社他、会員 3 名

12 月 29 日 (木) 三役会議

2023 年(令和 5 年)

1 月 5 日 (木) 活動推進連絡会 19:00

1 月 7 日 (土) 巨木調査 旧小河邸、法光寺他、会員 4 名



巨木調査

右: 旧細川中学校跡のメタセコイア  
(胴周 3.35m、樹高 40m)  
左: 三木山総合公園のサイカチ  
(胴周 4.50m、幹の中が空洞、  
周りの一部が生き残る)

### 報告

## 虫のお宿復旧作業 (2022/12/18・12/30)

前回の「虫の冬越し探検隊」参加者に呼びかけたところ、12/18には親子 8 名が作業に参加してくださった。三愛研会員 12 名と一緒に、壊滅状態の「虫のお宿」を復旧していった。もしかしたら、幼虫が何匹か生き残っているのではないかと、荒らされたお宿の土を慎重に掘っていく。黒い土の中に、

白い物が見えたとき、「おっ！」と歓声があがった。1 匹目が見つかる、その後 2 匹目、3 匹目とポツポツと見つけ、全部で 7 匹の生き残りを確認した。参加した親子が、生き残っていた幼虫を優しく見つめる姿が見られ、みんなで復旧作業をして良かったとつくづく感じられた。

外枠を太い杭と金網で補強した後、参加者全員で枯葉を集め、1 時間程の作業で元の状態に近いお宿に戻すことができた。



大晦日を翌日にひかえた 12/30 には、復旧した「虫のお宿」に注意書きを掲示した。また、旧キャンプ場入り口には、御坂の駐在さんと相談の上、三木警察署名で立ち入りに関する注意書きを設置した。



これは「虫のお宿」です  
2023. 3. 4(土)実施の本会事業  
「虫の冬越し探検隊」で、  
冬越し中の虫の様子を観察しようと  
子どもたちが楽しみにしています。  
静かに見まもってください。

2022 (令和 4) 年 12 月 25 日  
NPO 法人三木自然愛好研究会(虫の冬越し探検隊 2021)  
連絡先 0794-82-3095(北村)



これで、対イノシシ或いは対人間から「虫のお宿」を守る一応の対策は完了した。二度とお宿が荒らされることが無いよう、今後も駐在さんや地域の方の見守りが続く。

三愛研会員も、時々現地に足を運び、お宿の状態を確認することが必要であろうと考える。

復旧作業に関わってくださった多くの皆さんに、心から感謝いたします。ありがとうございました。

(文責: 植田)

### ふるさと公園だより

ちょっと立ち寄って  
覗いてみませんか！  
今、このような生きものが...

1月のふるさと公園は  
静まりかえっています。  
しかし、様々な生きものが  
様々な形で冬を越そ  
うとしています。



リョウブの芽



ヤマムガガの繭



アケビコノハの成虫  
(枯葉に擬態して越冬)



セトウチサンショウ  
ウオ(成体と卵塊)

### 生きもの それぞれの冬越し



クビキリギスの成虫  
(枯葉の中で越冬)



ベニシジミの幼虫  
(スイバと保護色)



ミドリシジミの卵  
(ハンノキに産卵)



キタキチョウの成虫  
(枯葉の中で越冬)

### おことわり

長い間、このコーナーを担当してもらった塩田  
会員が諸事情によりしばらくお休みします。  
その間に蓄積された生物写真を有効に使用させ  
ていただき、引き続いて公園だよりを趣向を変え  
て出して行きます。

### 報告

### 12/18 ふるさと公園全面草刈り

集合時間よりもかなり早く行ったつもりが、公園  
では既に数名の会員が来られ、焚き火の煙が舞い上がっ  
ていた。この日の朝は霜が降り、ため池や溝には薄氷が  
張ってかなり冷え込んでいた。

昨年あたりから、会員に加えて一般の方も参加して草  
刈り作業を行なうようになった。この度も公園によく写  
真を撮りに来られる方が2名、公園観察会などによく  
参加される親子と合わせて4名の方が来られた。徐々  
にはあるが、ふるさと公園の認知度も上がり環境保全  
活動への理解と協力が得られていることに気持ちを良  
くして作業にかかった。

午後から別の作業(「虫のお宿」復旧作業)があるの  
で、午前中には終了しなければならぬため最後まで作  
業が完了するか心配であったが、何とか全て刈ることが  
出来て安堵した。草刈機では刈り取れないフェンス際の  
草も鎌で綺麗に刈りあげてスッキリした。

作業は12時半に終了し、伊豆原会員らが作ってくれ  
た豚汁を頂き小腹を満たして解散する。今年も多くの  
参加を得て実施することが出来た。

皆さん大変お疲れさまでした。ご協力ありがとうご  
ざいました。(文責：横山)

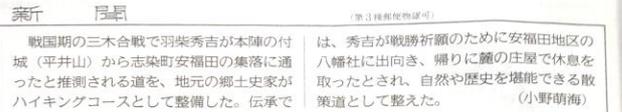


### 会員情報

### 古道・太閤道の整備に...

昨年8月、神戸新聞に連載された「古道  
を歩く」は続きがありました。12月23日付の新聞  
に掲載された記事を紹介します。

平井山の秀吉本陣跡から志染町安福田の里に抜  
ける「太閤道」と呼ばれる古道を、会員の室谷・渡  
瀬両氏が探して整備した内容の記事です。なお、写  
真の後ろ姿は戸田会員です。清地会員も同行してい  
ます(文責：横山)



### 三木合戦で本陣から集落に通ったと推測



### 秀吉ゆかりの古道整備 郷土史家2人がルート開拓

付城は1575年、三木  
市平共、与呂木、志染町安  
福田にまたが平井山に築  
かれ、平井山と付城跡  
秀吉本陣跡として国史  
跡に指定される。市が本陣  
内をウオ、キングコースと  
して整備し、尾根上の道は  
秀吉ゆかりの道として「太  
閤道」と呼ばれている。  
拓したのは郷土史調査会  
の室谷敏さん(79)と渡瀬  
達夫さん(70)いずれも同  
20日に約10人がハイキン  
グし、石碑の文字を目を凝  
らしたり、眺望を楽しんだ  
りしていた。室谷さんは里  
山はかつて、古道に暗まっ  
た歴史を感じてほしいと  
話している。

### 三愛研 2023年1月中旬～2月 事業活動予定表

日	曜	1月 行事 他	日	曜	2月 行事 他
13	金		5	日	冬の公園観察会 会員9:00集合
14	土		6	月	
15	日		7	火	
16	月		8	水	
17	火		9	木	
18	水		10	金	救急処置講習会 市民活動センター14:00
19	木		11	土	シジミオモダカ自生地草刈り 9:00集合
20	金		12	日	(2/11の予備日)
21	土		13	月	
22	日		14	火	
23	月	15	水		
24	火	16	木		
25	水	17	金		
26	木	18	土		
27	金	19	日		
28	土	20	月		
29	日	21	火		
30	月	22	水		
31	火	23	木		
2月		24	金		
1	水	25	土		
2	木	26	日		
3	金	27	月		
4	土	28	火		

重ねてのお願い!

#### 機関誌「おもだか」 原稿締切日(3/5) 迫る!

まだ2名の方の原稿しか届いていないので、少し焦っています。

皆様の積極的なご寄稿をお願い致します。

なお、寄稿して頂ける方で原稿の提出が遅くなる場合、編集する都合上、お名前だけでも連絡して頂ければ幸いです。

「おもだか」編集委員 池田裕子  
Eメール: [8728hiroko@gmail.com](mailto:8728hiroko@gmail.com)

重ねてのお願い!

#### 乞う 年会員納入!

毎月のように催促して恐縮ですが、年会費未納の方がまだ13名(1月6日現在)いらっしゃいます。

今年度の決算時が近づいております。お忘れの方は、出来るだけ早く納入して頂きますようお願い致します。

なお、該当される方には督促状を同封させて頂いております。

なお、年度末まで毎三愛だより発送時に、未納者の方には督促状をお送りしますので何卒ご了承ください。(会計:横山)

# 三 愛 だ よ り

第 226 号 2023 年(令和 5 年)2 月 10 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>



公園の畦焼き風景

報告

## 1/29 ヤブレガサモドキ自生地池堤の草刈り&擬木の設置作業(メダカ等の避難場所作り)

朝から晴天で畦焼きには絶好の良い天気ではあったが、2~3 日前からの大寒波襲来で雪が降り草が乾いていない状態だった。案の定、増田地区より畦焼きは次週に延期との連絡が入った。従来よりこの畦焼きは地元自治会の協力を得て行っているので次の日曜日(2 月 5 日)に延期した。

9 時に会員 13 名が集合。畦焼きの延期を知らしめ、他の作業を指示して取り掛かる。刈払い機を使う人 6 名は軽トラックに機械を載せてヤブレガサモドキ自生地の池へ草刈りに移動する。1 時間半ほどで池の土手を刈り終えた。

あとの人は、昨年末(12/18)にふるさと公園の草刈りをした斜面の枯草を燃やせるようにかき出した。特に、守池 2 号の斜面にはツツジ類が花芽を付けて越冬している状態なので、燃やさないようにツツジの無いところに枯草を移動させた。作業は 11 時半ごろまで行い、この度も伊豆原会員が作ってくれた豚汁で小腹を満たした。

その後、午後に予定していた溝に擬木を設置する作業も続けて行なった。夏の渇水期に溝の水が干上がってしまい、そこで生活しているメダカなどの水生生物が死に絶えるということが過去に度々あった。その対策として、コープこうべ環境基金の助成金により購入したコンクリート擬木を使い、溝を掘り擬木を設置して水生生物の一時避難場所を設けた。これまでに理事長がコツコツと設置作業を行って、擬木も残り半分ほどになっていたために作業も 1 時間ほどで終えた。1 時過ぎに全ての作業が完了した。



ヤブレガサモドキ自生地  
ため池土手の草刈り



守池 2 号斜面  
のツツジを守る  
ため、枯草  
をかき出す



芋畑の溝に擬木を  
設置して水生生物  
の避難場所を作る

## 2/5 公園観察会 & 公園畦焼き

9 時に会員 14 名が集合。快晴の良い天気であった。昨夜の冷え込みで霜が降り地面には霜柱が生じていた。この日は今年度最後の観察会「冬の生き物観察会」に加え、先週から延期になっていた公園の畦焼き作業が入って来た。

この時期の観察会は、立春といえども厳冬期で大変寒いことや、生物の活動が見られない時期のため一般の参加者があまり期待されない。しかしながら、寒さを凌いで常連の方が 1 名参加された。観察会は定時より開始した。

11 時頃、増田地区の消防団がポンプを持って来られたので、観察会は後半を残して中止し畦焼きに移った。斜面の部分は 11 時になっても日が当たらず枯れ草はまだ濡れた状態で燃やすのに苦労した。

伊豆原会員が小豆から作った“あんこ”と、理事長が提供した“もち”で“ぜんざい”が作られた。畦焼きをしながら交代でぜんざいをいただき、1 時頃に畦焼きを終えた。(文責：横山)



増田地区と協働で公園の  
畦焼きを行う

## 2023年1月～2月上旬の事業報告

1月 5日(木) 活動推進連絡会 19:00

1月 7日(土) 巨木調査 小河邸他 中央公民館 9:00 集合 会員4名

1月11日(水) 三愛だより発送作業 市民活動センター15:00 会員4名

1月24日(火) ネスタリゾート神戸内のヤブレガサモドキ自生地・移植地の草刈り

8時40分ふるさと公園集合 9名(会員8名、一般1名) 9:00～10:30

旧教育キャンプ場跡現地及び、ヤブレガサモドキ自生地ため池の現状確認



1月25日(水) 豊地小学校環境学習 「ふるさと公園の冬の様子」10:40～11:50

向山: チョウを中心に越冬タイプを紹介 セトウチサンショウウオも

北村: アカガエル、セトウチサンショウウオの卵塊、ドンコ、チョウセンカマキリの卵、

1月26日(木) 三役会議 19:00～

1月29日(日) ふるさと公園蛙焼き 9時集合 会員13名 ※2/5に延期(増田地区の蛙焼きに連動)

ヤブレガサモドキ自生地ため池土手の草刈り作業

擬木でメダカの逃げ場づくり(コープこうべ環境基金助成金に伴う作業)

2月 2日(木) 活動推進連絡会 19:00～

2月 5日(日) 冬の公園観察会 会員9:00集合 10:00～11:00

会員14名、一般1名、合計15名

ふるさと公園蛙焼き 11:00～13:00、会員14名

前ページに詳細掲載

前ページに詳細掲載

### 報告

## 2/2 水草プロジェクトの改修工事(栽培桶の更新)完了する

北播磨県民局県民交流室環境課の生物多様性保全活動推進支援事業補助金(50万円)を活用し、ふるさと公園東端(物置の裏側)にある水草プロジェクトの水槽(栽培桶)の内北側2列(34桶)を更新、2月2日に工事が完了しました。

見積金額: 568,480円の内、助成金50万円を差し引いた68,480円は本会より支出致します。

事後報告になりましたが、何卒ご了承ください。

完成!





**報告**

**2/5 公園観察会 & 公園畦焼き**

芋畑の溝(1/29に擬木を設置したところ)の氷を割り、モンドリを上げると、中にニホンアカガエルが1匹入っていた。モンドリから出してもほとんど動くことなくじっとしていた。産卵前の雌の個体で腹部が膨れていた。

守池1号に入れていたモンドリにはドンコが4匹とメダカとモツゴが多数入っていた。氷が張ったような池の中では魚はじっとしていると思いきや、餌を求めて動き回っている魚が想像出来た。

守池1号の内側のハンノキにはミドリシジミの卵が産み付けられている。ハンノキの枝表面の白い斑点に紛れた中での直径1mmにもみたない卵を探すのは大変なことだ。卵は1か所に数個～10個程度産み付けられていた。虫メガネで拡大してみると、白い饅頭のような形で真ん中が窪んでいる。更に拡大してよく見るとバフンウニのように表面が突起状になっている。こんな小さな卵で風雨にさらされて越冬するミドリシジミに畏敬の念を感じた。

黒褐色の尾状に垂れ下がったものを枝先に数本付けたハンノキがあった。この目立ったものはハンノキの雄花穂で、雌花穂は雄花穂の下部にある葉腋に楕円形のものを数個着けているがあまり目立たない。傍に昨年生じた松かさ状の黒っぽい果実が数個ついていた。

守池2号の西下の朽木を割ってみると、オオゴキブリの幼虫(翅が無い)やコメツキムシの幼虫がいた。オオゴキブリを調べてみたら、青森県や宮城県などでは準絶滅危惧種に指定されていることにびっくりした。理由は、森林伐採などで良好な自然林が減少し生息環境が縮小されているからだそうだ。

倉庫前で、向山会員が採集したカマキリの卵(オオカマキリ、チョウセンカマキリ、ハラビロカマキリ、コカマキリ)やバツタ類(クビキリギス、ツチイナゴ)の越冬成虫などを観察して学習した。(文責：横山)

## 三愛研 2023年2月中旬～3月 事業活動予定表

日	曜	2月 行事 他	日	曜	3月 行事 他	
10	金	救急処置講習会 市民活動センター 14:00	5	日	(おもだか原稿締切)	
11	土	野鳥観察 ホースランドパーク 7:15～12:00 シミオモダカ自生地草刈り 高男寺公民館 14:00 集合	6	月		
12	日	(2/11の予備日)	7	火		
13	月		8	水		
14	火		9	木		
15	水		10	金	三愛だより発送	
16	木		11	土	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: right;"><b>お礼</b></p> <p><b>ご寄付ありがとうございました！</b></p> <p>今年度も多くの方から寄付をして頂きありがとうございました。 三愛研の活動に有効に利用させていただきます。</p> <p>岡本高宏 様(会員) 池町敏彦 様(会員) 森岡 様(豊中市) 日覺 様(吉川町) 匿名希望 様(志染町自由が丘)</p> <p>この場を借りてお礼を申し上げます。</p> </div>	
17	金		12	日		
18	土		13	月		
19	日		14	火		
20	月		15	水		
21	火		16	木		
22	水		17	金		
23	木		(三役会議)	18		土
24	金			19		日
25	土		旧教育キャンプ場跡現地草刈り 9:00 集合	20		月
26	日	(2/25の予備日)	21	火		
27	月		22	水		
28	火		23	木	(三役会議)	
<b>3月</b>			24	金		
1	水		25	土		
2	木	活動推進連絡会 19:00	26	日		
3	金		27	月		
4	土	虫の冬越し探検隊 会員集合 8:30	28	火		

【備考】・「増田ふるさと公園」観察会「春の野草観察&野草の天ぷら」：4月15日(土)  
・令和5年度通常総会&講演会：5月28日(日) 講師：永幡嘉之氏(会員)

再掲

「おもだか」寄稿のお願い！  
＜原稿締切日：3月5日＞

皆様の積極的なご寄稿をお願い致します。

なお、寄稿して頂ける方で原稿の提出が遅くなる場合、編集する都合上、お名前だけでも連絡して頂ければ幸いです。

「おもだか」編集委員 池田裕子

Eメール：[8728hiroko@gmail.com](mailto:8728hiroko@gmail.com)

再掲

年会員納入 最後のお願い！



年会費未納の方が6名(2月9日現在)になりました。  
今年度の決算時が近づいております。お忘れの方は、出来るだけ早く納入して頂きますようお願い致します。

なお、該当される方には今回も督促状を同封させていただきます。(会計：横山)

# 三 愛 だ よ り

第 227 号 2023 年(令和 5 年)3 月 10 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>

守池 2 号より 1 号池を望む



## 報告

## 虫の冬ごし探検隊 2022 (2023/3/4)

2022/12/18 の「虫のお宿」復旧作業から 2 か月半。年度末最後の親子イベントである「虫の冬ごし探検隊」を何とか開催にまでこぎつけることができました。

2/25 の駐車場の草刈り作業には、例年より多くの会員が集まり、短時間で作業を終えることができました。また同日に、昨年参加された K さんと、会員の知人である N さんから合計 173 匹のカブトムシ幼虫をご提供いただき、復旧した「虫のお宿」にそっと放すことができました。



温かな春の日差しが降り注ぐ旧キャンプ場で、親子合わせて 18 名の参加者は、いろいろな虫たちの冬越しの様子を北村理事長が事前に準備した実物を通して学習した。その後、いよいよカブトムシの幼虫を掘り出す活動に移った。次々と見つかる幼虫に参加者から歓声があがった。



幼虫の世話の仕方を会員から聞いた参加者は、家で飼育できる数だけの幼虫を慎重に見極め、持ち帰るようにしていた。

そして、イベントの最後は、来年のための「虫のお宿づくり」に参加者と会員みんなで行った。枯れ枝の落下を避けて、新しいお宿の場所を移動し、どんどん枯葉を積み重ねていった。この作業も、スムーズに進み、新しい 2 か所のお宿が完成した。



再び、壊されることの無いことを祈って、注意書きを掲示して閉会とした。今回のイベントに際し、大切にされていた幼虫を提供いただきました。本当にありがとうございました。

(文責&写真: 植田)

## 2023年2月～3月上旬の事業報告

前号に詳細掲載

2月 2日(木) 活動推進連絡会 19:00～

2月 5日(日) 冬の公園観察会 会員9:00集合 10:00～11:00 会員14名、一般1名、合計15名  
ふるさと公園畦焼き 11:00～13:00、会員14名2月10日(金) 救急処置講習会 市民活動センター別館 14:00～ 会員8名 参加  
野外活動における事故に対応する「救急処置講習会」  
心肺蘇生講習の後、毒蛇への対応、止血方法等

## 報告

午後2時より市民活動センター別館の3階中講座室で三木消防署より職員2名(講師)に依頼して実施する。主に心肺蘇生法について1時間ほど講習を受ける。最初に、心肺蘇生法の重要性の話聞いた後、2人ずつ組になって心肺蘇生の手順を実施。その中でAEDの使用法も体験する。コロナ禍で人工呼吸は省かれていることやAEDの使い方が10年ほど前の救急法と(勘違いも含めて)若干違っていた。いざという時、緊張したり慌てたりしないように常に訓練しておく必要がある。その後、怪我等における止血方法や毒蛇にかまれたときの対応を聞いて、3時20分頃に講習を終える。(文責:横山)



三愛だより発送作業 市民活動センター15:00 8名

後ページに詳細掲載

2月11日(土) 野鳥調査:ホースランドパーク(講師:工義尚先生)

エオの森研修センター前駐車場集合 9:00～12:00 工義尚先生、会員4名  
シジミオモダカ自生地・移植地等草刈り 高男寺公民館 14:00集合 会員11名

## 報告

午後1時30分に志染町高男寺の公民館に集合。11人の参加があり車数台に分乗して、先ず高男寺のシジミオモダカの自生地へ向かう。今回は倒木も無く、草刈りもスムーズに行なえ30分ほどで終了した。引き続き、防災公園のシジミオモダカ移植地へ移動する。窟屋のため池より谷道の草木を刈りながら移植地へと進んでいく。移植地の草刈りを行い、更に奥へと谷道の草刈りをしながらカンアオイ移植場所へ向かう。カンアオイ移植場所に行く手前の部分が、数年前の大雨時に堰き止められたため、ぬかるみ状態になり湿地化していた。移植したカンアオイは枯葉の下に埋没しながらも成長しており花を付けていた。3年ほど前に見つけたミスミソウ(ユキワリソウ)も健在である。株が増えたように思われるが花のつぼみが見当たらない。少し休憩を取り午後5時前に終了した。(文責:横山)



シジミヘラオモダカ自生地



シジミヘラオモダカ移植地



カンアオイ移植地

2月23日(木) 三役会議 19:00

2月25日(土) 旧教育キャンプ場跡現地草刈り 9:00～ 会員13名  
カブトムシ幼虫約150匹投入(小池さん、中井さん提供)  
ふるさと公園に予備50匹

3月 2日(木) 活動推進連絡会 参加9名

前ページに詳細掲載

3月 4日(土) 虫の冬越し探検隊 集合8:30、受付9:30、開始10:00  
参加状況:8組、21名(子供10、幼児1、大人10)

3月 5日(日) おもだかの原稿締め切り 現在9本、最終13本



駐車場所の草刈り

**ふるさと公園だより**

ちょっと立ち寄って  
覗いてみませんか！  
今、このような生きものが・・・

3月から4月にかけて、生きものが深い眠りから目覚め、春を喜ぶように活動し始めます。木々の芽吹き、草花の開花、ため池や溝でのオタマジャクシやメダカの遊泳・・・等々。運が良ければキジの散歩が見られるかも？

2018.3.26 撮影



散策コース		
	西のコース	約400m
	東のコース	約200m



さあ～春は目の前に・・・



キジ



コバノミツバツツジ



コバノミツバツツジ



シユンラン



ホオジロ



ニホンアカガエルの幼生



ウグイスカグラ



ウグイスカグラ



サワオグルマ



セトウチサンショウウオの幼生



ハコベ



ハグロシハイスミレ

**市史編さん協プロジェクト情報**

**～野鳥観察会報告～**

日時：2023年2月11日(土)8時～11時  
 場所：三木ホースランドパーク エオの森  
 調査者：工 義尚（兵庫県生物学会 会長）、  
 三愛研4名（北村、植田、横山、稲葉）

集合場所である駐車場につくと、さっそくホオジロのさえずりを聞いた。一羽の個体が30分以上はずっとさえずっていた。またメジロやヒヨドリの姿を見た。階段を下りて林道に入っていくと、少し遠くの平地にシロハラがいた。大きくてはっきりした声で鳴いていた。地面を歩き、虫や植物の種を食べるのだそうだ。シジュウカラも地面で食べ物を探していた。コナラ林の中の乗馬コースになっている道を静かに進んでいくが、案外、鳥に出会わない。鳴き声がすると立ち止まり、声がした方向に双眼鏡を向けながら進む。とその時、ルリビタキ（雌）が突然現れた。歩道の端にある切り株の上にとまったので、姿をカメラに収めようとしたが、あっという間に飛び去ってしまった。カワラヒワ、キジバト、エナガ、コジュケイ、トビ、コゲラなどを確認した。全体的に小鳥が少ない印象で、じっくりと観察できる時間が少なかった。（文責&写真：稲葉）



メジロ

### 三愛研 2023年3月中旬～4月 事業活動予定表

日	曜	3月 行事 他	日	曜	4月 行事 他
15	水		7	金	
16	木		8	土	<div style="border: 2px solid orange; padding: 10px;"> <p style="text-align: right; font-weight: bold; color: orange;">お願い</p> <p>昨年と同様に、山野草を天ぷらなどにして春を味わう予定です。 皆さんの周りにある山野草の食材を持参してください。</p>  </div>
17	金		9	日	
18	土		10	月	
19	日		11	火	
20	月		12	水	
21	火		13	木	
22	水		14	金	
23	木			15	土
24	金		16	日	
25	土		17	月	
26	日		18	火	
27	月	R5 年間事業パンフ仕分け作業 13:30~	19	水	
28	火		20	木	三愛だより発送作業
29	水		21	金	
30	木	(三役会議)	22	土	
31	金		23	日	
4月			24	月	
1	土		25	火	
2	日		26	水	
3	月		27	木	(三役会議)
4	火	別所地区観察会 興治公民館 9:00 集合	28	金	
5	水		29	土	
6	木		30	日	

【備考】令和5年度通常総会&講演会：5月28日(日) 講師：永幡嘉之氏(会員)

#### お知らせ

三愛研制作の2種類のカレンダーの残部を下記価格にて3月より値下げ販売します。

ご購入の方は、市民活動センターで購入するか、当会三役(北村、横山、植田)までお問合せください。

卓上カレンダー： 500円 → 300円  
ふるさと野のこよみ： 200円 → 100円

#### お知らせ

米村会員により、Instagram(Instagram)に三愛研のページが作られました。アプリをダウンロードしてアカウントを作って登録してください。画面ができたら検索窓に三愛研と入力すると右の画面が出てきます。

三愛研の画面を直接出すには、右のQRコードを利用してください。



# 2022(令和4)年度 三木自然愛好研究会 一年間の活動

NPO 法人 三木自然愛好研究会

私たちは三木の自然環境の豊かさに興味関心と誇りを持つと共に、貴重な生物や豊かな里山環境が日々失われていくことを危惧しています。

数多く貴重種を有する細川町増田地区の一面を三木市が買い上げ、小さな自然公園「ふるさと公園」として、三木市と増田地区そして我々で管理・活用しています。

私たち三愛研(三木自然愛好研究会の略称)は、この「ふるさと公園」を拠点にして、環境保全活動、自然体験教育活動、情報提供・ネットワーク活動、調査研究活動など、三木市の豊かな自然環境をいつまでも後世に伝え残していくための様々な活動を行っています。

今年も、コロナ禍のため活動に一部制限が生じましたが、「ふるさと公園里山まつり」の中止以外はほぼ計画通り実施することが出来ました。実施には常にコロナ感染防止に努め、検温、消毒、マスク着用、三密を避けるなど細心の注意を払ってきました。

## 自然体験及び環境教育とプログラムの提供事業

### (1) 公開ふるさと公園観察会(年間7回実施)

- ① 4/9 「春の草花観察 & 野草の天ぷらを楽しもう」 42名参加。
- ② 6/5 「初夏の生き物観察 & サツマイモつる植え」 27名参加。
- ③ 7/3 「梅雨の公園観察会」 14名参加。
- ④ 9/4 「早秋の生き物観察会」 19名参加。
- ⑤ 10/2 「秋の七草観察 & サツマイモ掘り」 31名参加。
- ⑥ 12/4 「ササユリを復活させよう」 15名参加
- ⑦ 2023/2/5 「冬の生き物観察会」 15名参加

早春の園内を散策(2022/4/9)



参加者が持ち寄った山野草の話聞いた後、天ぷらにして食す(2022/4/9)



危険生物もきちんと学習



モンドリに入っていたザリガニやマムシ(2022/6/5)



園内の植物に参加者と一緒に名札を付ける(2022/6/5)



秋の豊作を願って、参加者と一緒にサツマイモのつる苗を植える(2022/6/5)



ため池のモンドリの中には、ドンコ、メダカ、モツゴが・・・(2023/2/5)

早春の生き物観察会(9/4)の様子を報じた記事(2022/9/16 神戸新聞掲載)



(2) 親子環境学習 ～自然大好き！大人も子どもも大集合～ (※コロナ禍のため、二次募集を行わず)

① 「水の中の生き物 大発見！～小さな生き物を顕微鏡で見よう～」

日時；6月25日(土) 9:30～12:00 場所；細川町脇川・教海寺周辺

参加者数；33名(子ども12、幼児7、保護者14)



脇川の小川での魚取り



ホウネンエビが光に反応する実験

集会場広場にて、生き物を陳列して観察する



集会場にて、デジタル顕微鏡システムを用いて微生物を観察する

② 「親子川がき教室～川の生き物と触れ合おう～」

日時；7月31日(土) 9:30～12:30 場所；志染町 御坂神社境内&御坂サイフォン橋下の志染川

参加者数；53名(子ども27、幼児3、保護者23)



御坂のサイフォン橋の下で・・・  
川での水浴びも体験！



ライフジャケットの着用



御坂神社の境内で川の学習

③ 「虫の冬越し探検隊 ～カブトムシの幼虫を見つけて育てよう～」

※2023年3月4日(土)に旧教育キャンプ場(志染町三津田)



2022/12/18  
破壊された「虫のお宿」復旧作業

2023/3/4  
来年の虫のお宿を  
みんなで作る



2023/3/4「虫の冬越し探検隊」復旧された「虫のお宿」に事前に提供されたカブトムシの幼虫を使って実施する。

(3) 小学校環境学習支援

豊地小学校3年生の環境学習支援～公園の生き物観察

4月20日、6月15日、7月6日、9月14日、10月12日、10月26日、  
2023年1月25日(7回実施)



6/15



9/14



2022年10月12日 豊地小学校 環境学習

## 自然環境保全事業

### (1) ふるさと公園での主な保全活動



2022/6/5 公園散策路の整備  
守池2号の堰堤に、助成金で  
購入した仮設階段を設置



← 2022/12/18 公園の全面草刈り  
刈払い機で枯れないフェンスぎわを鎌で刈る



2023/1/29 守池2号斜面のツツジ  
を守るため、枯草をかき出す



2023/2/5 増田地区と共同で畦焼き



2023/1/29 芋畑の溝に擬木を設  
置して水生生物の避難場所を作る

### (2) ふるさと公園外での主な保全活動



2023/1/24 ヤブレガサモドキ自生  
地・移植地の草刈り  
(ネスタリゾート神戸敷地内)



2023/2/11 志染町高男寺のシ  
ジミオモダカ自生地の草刈り



2023/2/11 防災公園の敷地内に  
あるカンアオイ移植地の草刈り

## 自然に関する情報提供とネットワーク形成事業

### (1) 「ふるさと公園里山まつり」11月3日(祝)今年もコロナ禍で中止

※昨年と同様に「公園観察会&サツマイモ掘り」の形で実施する。

参加者数：61名(会員：23名、一般：38名)



ヤマラッキョウ、リン  
ドウの味く観察会



サツマイモ掘り

農産物&家庭  
雑貨の販売



## (2) 各種関係団体の開催イベントに参加

- ・ 細川町民文化祭 (11/5~13)
- ・ みきボランティアフェスタ (11/20)

## (3) 啓発カレンダー「ふるさと野のこよみ」の制作

## (4) 会報誌「三愛だより」(毎月)、機関誌「おもだか」(毎年) 発行

## (5) 卓上カレンダー「増田ふるさと公園」を制作

昨年、「ボランティア活動応援共感ファンド」で寄付金を募り、その原資で作成した2023年の卓上カレンダーです。増田ふるさと公園の魅力を市民の皆さんに伝えるために作成しました。

増田ふるさと公園の四季の風景と絶滅危惧種などの生物の写真を載せています。ハガキとしても利用出来ます。



2022/11/20 三木ボランティアフェスタ



2023年卓上カレンダー「増田ふるさと公園」

## 自然に関する調査研究事業

### (1) ふるさと公園の植生調査と部分草刈り

ふるさと公園の植生の変化と管理の仕方(草刈り)との関係を調べるため、2015年よりを毎年5月と7月に実施する。



2022/5/22 1回目の植生調査  
調査の段取り



2人5組に分かれ、それぞれ  
の調査区を調べる



調査後、指定の場所の草刈り

### (2) 新三木市史(自然編)編さんに協力

市内のため池について、兵庫・水辺ネットワークの技術的な支援を受けながら調査する。また、野鳥調査や植生調査を外部講師と共に調査する。



2022/7/24 ため池調査  
(別所町小林)

ソーラーパネル  
設置のため池で、  
モンドリで捕獲さ  
れた魚類

貴重な水生植物が  
確認されたため池

同じ場所にある  
ため池でも様子  
が全く異なる



2022/9/3 ため池調  
査(吉川町北水上)



2022/9/17 ため池調査(吉川町西奥)



2022/7/2 ため池調査(細川町中里)



2022/7/16 植生調査(口吉川町蓮花寺)



2022/10/22 植生調査(細川町増田)

左: シイ、スギなどの照葉樹林  
右: コナラ、アカマツなどの夏緑樹林

## 令和四年度

表紙 題字(おもだか): 須賀宏子

写真(コシアキトンボ): 塩田尚子

### 編集後記

令和四年度「おもだか」通巻 26 号を、皆様のお手元にお届けすることが出来ました。

新型コロナウイルス感染症の影響も少しずつ緩和され、飲食や旅行なども徐々に増えつつあります。

日本ではまだまだマスクが手離せないようですが、三愛研の活動でも、コロナ感染に注意を払いながら、以前のような「里山まつり」が開催されることを心待ちにしています。

会員の皆様から多様な話題をご寄稿頂きました事、感謝申し上げます。これからも多くの皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

2023 年 4 月吉日 編集委員 : 池田裕子 塩田尚子 池町敏彦



令和 4 年度おもだか通巻第 26 号

発行者 NPO 法人三木自然愛好研究会

印刷所 キング印刷

〒675-2302 加西市北条町栗田 346 番地

発行日 2023 年 5 月 10 日

ホームページ



インスタグラム

